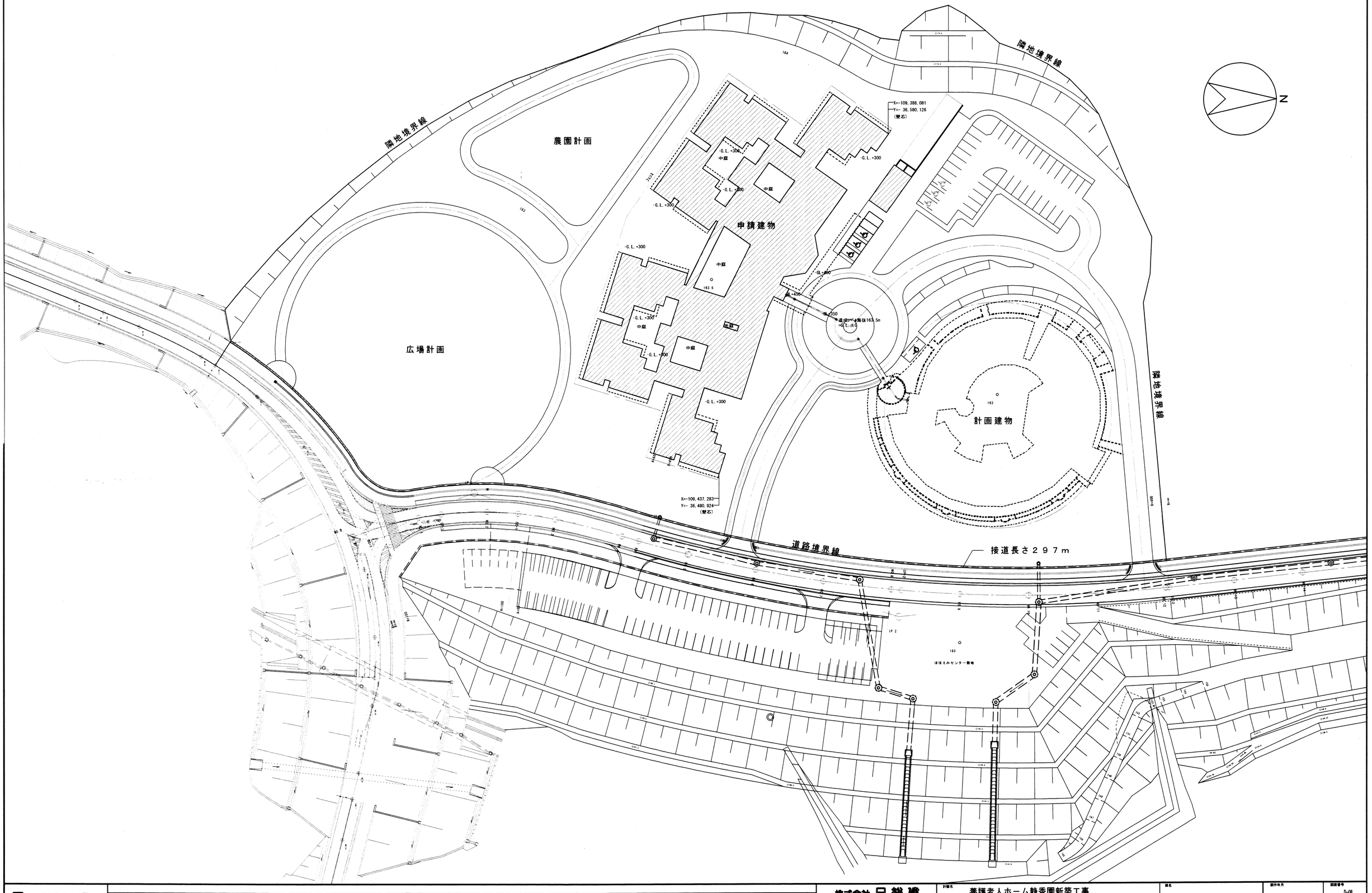


NISSOKEN
ARCHITECTS / ENGINEERS

株式会社 日総建
一級建築士登録 第108497号
北川 昭夫

計画名	養護老人ホーム静香園新築工事	縮尺	図面番号 D-08
図面名	全体配置図	工事区分 建築 / 縮尺 1/500	ファイル名 -

建物概要表

工事名	養護老人ホーム静香園新築工事
地名地番	岡山県久米郡中央町打穴下１７６６
用途地域	指定なし
防火地域	指定なし
その他	指定なし
主要用途	養護老人ホーム
工事種別	新築
敷地面積	３３，２７０．００ ㎡
建築面積	３，５５５．６４ ㎡
延床面積	３，４４１．８０ ㎡
構造	ＲＣ造　地上１階　建
基礎	
最高の高さ	８．９０ ｍ
最高の軒の高さ	６．７０ ｍ
基準階の階高	１階：３，５００
主なスパン	１０，８００ｘ６，０００
面積表	
	本館　３，３３９．６１（㎡）
	渡り屋根　２７．１９（㎡）
	車庫棟　７５．００（㎡）
	合計　３，４４１．８０（㎡）

案内図



仕上記号・略号

共通				構造図関係		一般表示記号	
M	モルタル	UC	ウレタン樹脂ワニス塗り	b	柱・はりの幅	PH	塔屋
Cこて	コンクリート金こて押さえ	OS	油性ステイン塗り	D	柱・はりのせい	RF	屋上階（塔屋のないもの）
CB	コンクリートブロック	SOP	合成樹脂調合ペイント塗り	d.t	厚　さ	Zn	階数表示及び床基準面
ALC	軽量気泡コンクリートパネル	EP	合成樹脂エマルションペイント塗り	S	床　版	BM	ベンチマーク
LGS	軽量鉄骨下地	VP	塩化ビニル樹脂エナメル塗り	W	壁	TBM	仮ベンチマーク
RC	鉄筋コンクリート	CL	クリアラッカー塗り	EW	耐震壁	GL	基準地盤面
LC	軽量コンクリート	AP	アクリル樹脂エナメル塗り	C	柱	W	幅
S	鉄　骨	FUE	常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル塗り	p	間　柱	H	高　さ
PB	石こうボード	B-FU	ふっ素樹脂エナメル塗装焼付	BR	筋かい	L	長　さ
化粧GB	化粧石こうボード（トラバーチン模様）	UE	ウレタン樹脂エナメル塗り	F	基礎	φ	直　径
耐水GB	耐水石こうボード	J&P	ジェットバーナー仕上	f	布基礎	r	半　径
軟V	軟質ビニル巾木			FG	基礎ばり	CL	センターライン
RB	ロックウール化粧吸音板			G	大ばり	@	間隔
PF板	ポリスチレンフォーム保温板			B	小ばり	DS	ダクトスペース
SUS	ステンレス鋼			T	トラスばり	PS	パイプスペース
AL	アルミニウム			ST	サブトラス	EPS	電気配線スペース
VT	ビニル床タイル			PL	プレート	EV	エレベーター
VS	ビニル床シート	VB	ベネシャンブラインド	FB	フラットバー	EV.S	エレベーターシャフト
TC	タイルカーペット	VB.B	ベネシャンブラインドボックス	HTB	高力ボルト	EXP.J	エキスパンションジョイント
Cこて	コンクリート金こて	RB	ロールブラインド	STP	あばら筋	CH	煙突
GW	グラスウール吸音材	RB.B	ロールブラインドボックス	Hoop	帯筋		
ケイカル板	無石綿セメントけい酸カルシウム板	RD	ルーフドレイン				
ST	スチール						

建設省防火材料認定番号

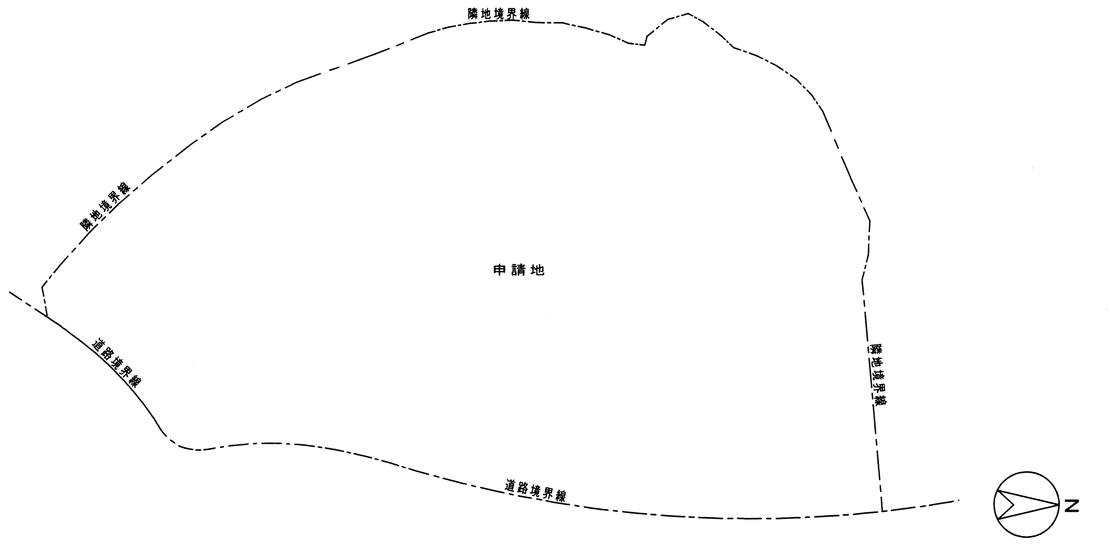
石こうボード　１２．５t	不燃　ＮＭ－８６１２	不燃化粧無石綿繊維混入石膏板	不燃　ＮＭ－８５７７
石こうボード　９．５t	不燃　ＮＭ－８６１３	木片セメント板	準不燃　ＱＭ－９７０１
化粧石こうボード　９．５t	不燃　ＮＭ－８６１３	カーテン等	防炎処理品
防水石こうボード　９．５t	不燃　ＮＭ－８５９９		
ロックウール化粧吸音板	不燃　ＮＭ－８５９９		
硅カル板	不燃　ＮＭ－８５７８		
化粧硅カル板	不燃　ＮＭ－９０２５		
ビニルクロス張り（無機質壁紙）	壁装材料第０００５号－１級		
吸音材張り（グラスウール吸音材・ガラスクロス張り）	Ｈ１２年建設省告示第１４００号		
一般塗料	基材間等第０００１号		

平面表示記号

寸法線（わりこみ）	建具呼出	水こう配		分電盤	
寸法線（計り出し）		吊り金物		消火栓及び消防隊放水口	
基準線記号	両開きとびら	縦とい			
主基準レベル	片開きとびら	階　段			
地盤面	自由とびら	スロープ			
方　位	両引き戸	吹抜け			
敷地境界	引違い戸	エレベーター		展開表示（展開順序表示）	
境界石一般	片引き戸	ダクトスペース			
新設境界標石	片引き戸	パイプスペース			
既設境界標石	引込み戸	電気配線スペース			
かさ上げ境界標石	窓一般				
ベンチマーク	Ｆｉｘ窓	化粧床改め口（600×600）			
ボーリング位置	両開き窓	防臭型マンホール（600φ）			
のり面	片開き窓	防水型マンホール（600φ）			
標準詳細図呼出	回転窓	防水錘付型マンホール（密閉型）（600φ）			
標準詳細図準用呼出	引違い窓	天井改め口（600×600）			
本設計図詳細呼出	片引き窓	空調用枠・照明器具枠			
別途工事	VB ベネシャンブラインド				
備品その他工事	TB 縦型ブラインド				
	RB ロールブラインド	シーリング			
	C カーテン				
	CR カーテンレール				
	K 掲示用レール				
	△ 手動排煙オペレーター操作スイッチ				
	▲ 電動排煙オペレーター操作スイッチ				

敷地面積

ＣＡＤ測定により
33,270㎡（法面を含む）



S＝１：1000

NISSOKEN ARCHITECTS / ENGINEERS
株式会社 日総建
一級建築士登録 第109497号
北川 明夫

計画名	養護老人ホーム静香園新築工事	縮尺	製作年月
図面名	建物概要表	工事区分 建築	図面番号 D-10
		縮　尺	ファイル名 -

外部仕上表

部位	部分	仕様	部位	部分	仕様	部位	部分	仕様	部位	部分	仕様
管理棟			ユニット棟			渡り廊下 A	瓦屋根	後層より、洋風瓦、ゴムアスルーフィング、木モセメント板			
屋根	床面	後層より、カラーアスファルト露出防水、絶縁材、	屋根	床面	後層より、カラーアスファルト露出防水、絶縁材、			鉄骨下地			
		断熱材：耐熱型硬質ポリウレタン系フォーム板25t、			断熱材：耐熱型硬質ポリウレタン系フォーム板25t、						
		コンクリート金ごて（スラブ勾配：1／100）			コンクリート金ごて（スラブ勾配：1／100）		軒樋	SUS304 0.4t			
		RD－100A（鋳鉄製）、脱気装置（ステンレス製）：80㎡／個			RD－100A（鋳鉄製）、脱気装置（ステンレス製）：80㎡／個						
							竪樋	SUS304 0.4t φ60			
	立上り	アスファルト防水層立上げ、打放し下地		立上り	アスファルト防水層立上げ、打放し下地						
							床	モルタル金コテ30t（三地切共）、コンクリート押え			
	笠木	アルミ製笠木（既製品）		笠木	アルミ製笠木（既製品）						
				吊金物	SUS製（既製品）@＝3，000	渡り廊下B	金属屋根	後層より、ハイブリッドカラーGL90ハゼ0.6、鉄骨下地亜鉛メッキ			
	EPS立上り	屋根 ：コンクリート金ごての上塗膜防水		EPS立上り	屋根 ：コンクリート金ごての上塗膜防水		軒樋	塩ビ φ60			
		側壁 ：コンクリート打放しの上塗膜防水			側壁 ：コンクリート打放しの上塗膜防水						
		配管取り出し部：アルミパネル3．0t加工			配管取り出し部：アルミパネル3．0t加工		竪樋	塩ビ φ60			
		立上り：屋上に倣う			立上り：屋上に倣う						
							床	モルタル金コテ30t、コンクリート押え			
	PS立上り	屋根 ：コンクリート金ごての上塗膜防水		PS立上り	屋根 ：コンクリート金ごての上塗膜防水						
		側壁 ：コンクリート打放しの上塗膜防水			側壁 ：コンクリート打放しの上塗膜防水						
		配管取り出し部：アルミパネル3．0t加工			配管取り出し部：アルミパネル3．0t加工	渡り屋根	金属屋根	後層より、ハイブリッドカラーGL90ハゼ0.6、鉄骨下地亜鉛メッキ			
		立上り：屋上に倣う			立上り：屋上に倣う						
							軒樋	塩ビ φ60			
	設備基礎	天端 ：コンクリート金ごての上塗膜防水		設備基礎	天端 ：コンクリート金ごての上塗膜防水						
		立上り：屋上に倣う			立上り：屋上に倣う		竪樋	塩ビ φ60			
	トップライト	アルミ枠ガラストップライト 網入型ガラス6．8t		トップライト	アルミ枠ガラストップライト 網入型ガラス6．8t		床	外装床磁器質タイル			
	瓦屋根	後層より、洋風瓦、アスファルトルーフィング、パーライトモルタル740		瓦屋根	後層より、洋風瓦、ゴムアスルーフィング、パーライトモルタル740	車庫棟					
		コンクリート金ごて（スラブ勾配4／10）			コンクリート金ごて（スラブ勾配4／10）	屋根	床面	後層より、カラーアスファルト露出防水、絶縁材、			
								断熱材：耐熱型硬質ポリウレタン系フォーム板25t、			
	内樋	W＝450・200 SUS304 0.4t		内樋	W＝450 SUS304 0.4t			コンクリート金ごて（スラブ勾配：1／100）			
		RD－100A（鋳鉄製）			RD－100A（鋳鉄製）			RD－125A（鋳鉄製）、脱気装置（ステンレス製）：80㎡／個			
	飾ります	SUS304 0.8t		飾ります	SUS304 0.8t		立上り	アスファルト防水層立上げ、打放し下地			
	竪樋	SUS304 0.8t φ105・φ80		竪樋	SUS304 0.8t φ105・φ80						
	オーバーフロー管	SUS304 φ80		オーバーフロー管	SUS304 φ80		笠木	アルミ製笠木（既製品）			
						外壁	外壁一般	・湿暗調塗材ローラー仕上げ			
外壁	外壁一般	・湿暗調塗材ローラー仕上げ	外壁	外壁一般	・湿暗調塗材コテ塗り			・アルミ製サッシ 2次電解着色（カラー）			
					・湿暗調塗材吹付け			・スチールシャッター （カラー鋼板）			
		・アルミ製サッシ 2次電解着色（ステンカラー）			・アルミ製サッシ 2次電解着色（ステンカラー）						
		・アルミ製ルーバー 2次電解着色（ステンカラー）			・アルミ製ルーバー 2次電解着色（ステンカラー）		床	伸縮目地@＝3，000、コンクリート金ごて			
			デッキ	床	木製デッキ：ジャラ材30×105	屋外設備スペース	床	伸縮目地@＝3，000、コンクリート金ごて			
風除室・ポーチ屋根	屋根面	カラーガリバリウム鋼折板0.6t＋発砲ポリエチレンフォーム裏貼り4.0t			木製根太：ジャラ材90×90 〈6－45－1準用〉						
					土間コンクリート金コテ	車路・駐車場	床	アスファルト舗装			
	庇板	アルミ2.0t曲げ加工						ライン引き（停止表示、矢印）			
	内樋	塩ビ									
	竪樋	SUS304 0.8t φ105									
	軒天	アルミスパンドレル1.0t									
	柱	SUS304 1.5t丸 φ300									
	床	花崗岩JP30t張り									
洗濯干場	屋根	ポリカーボネイト中空複層板、鉄骨下地亜鉛メッキ									
	壁	外壁に倣う									
	床	伸縮目地@＝3，000、コンクリート金ごて									

NISSOKEN ARCHITECTS / ENGINEERS

株式会社 日総建
一級建築士登録 第109497号
北川 昭夫

計画名	養護老人ホーム静香園新築工事	縮尺	図面番号 D-12
図面名	外部仕上表	工事区分 建築	作成年月 / 縮尺 / ファイル名 -

内部仕上表－１

室名	床 下地	床 仕上	壁 下地	壁 巾木	壁 仕上	天井 下地	天井 仕上	天井高	日よけ	内装制限	備考
風除室	M	花崗岩ＪＰ			ガラス	LMF	PB－岩綿B	2400			
エントランスロビー	M	花崗岩ＪＰ	RC	木製	FL+2400：PB－不燃木繊付合板	LMF	折上部：PB－不燃木繊付合板	2400～		SP	・下足箱(120人・傘立て120人
	Cコテ	タイルカーペット	LMF		FL+2400以上：PB－ビニールクロス		平部：PB－岩綿B	4500			・車椅子収納・上部：収納棚
車椅子収納	Cコテ	VS	LMF	木製	PB－EP	LMF	PB－EP			SP	
談話コーナー	Cコテ	タイルカーペット	LMF	木製	FL+2400：PB－不燃木繊付合板	LMF	折上部：PB－不燃木繊付合板	2400～		SP	【床暖房設備】
			GL		FL+2400以上：PB－ビニールクロス		平部：PB－岩綿B	4500			
事務室	Cコテ	タイルカーペット	LMF	VH	PBビニールクロス	LMF	PB－岩綿B	2700	TB	SP	
		二重床	GL								
応接室兼相談室	Cコテ	タイルカーペット	LMF	VH	PBビニールクロス	LMF	PB－岩綿B	2700	TB	SP	・パーティション
		二重床	GL								
湯沸室（１）	Cコテ	VS	LMF	VH	PBビニールクロス	LMF	CaB－VP	2400		SP	・流し台　電磁ヒーター付き・水切り金物
			GL								・レンジフード・吊り戸棚
											((冷蔵庫))
休憩：宿直室	Cコテ	タイルカーペット	LMF	VH	PBビニールクロス	LMF	PBビニールクロス	2400	TB	SP	・畳き押入
			GL								((ベッド))
女子職員便所	Cコテ	VS	LMF	VH	化粧CaB	LMF	CaB－EP	2400			・洗面カウンター
			GL								・配管カバー
											・化粧床改め口
更衣室	Cコテ	VS	LMF	VH	PBビニールクロス	LMF	PBビニールクロス	2400		SP	
			GL								・化粧床改め口
											((ロッカー))
シャワー室	Cコテ	VS	LMF	VH	PBビニールクロス	LMF	PBビニールクロス	2400		SP	・ユニットシャワー
											・脱衣棚
廊下（管理部）	Cコテ	VS	LMF	VH	PBビニールクロス	LMF	PBビニールクロス	2400		SP	・下足箱
		踏込：磁器質100角タイル	GL								・SUS上框
											((ロッカー))
倉庫（１）	Cコテ	VT	LMF	VH	EP	LMF	PB－EP	2400		SP	((棚))
			GL		PB－EP						
散髪室	Cコテ	VS	LMF	VH	PBビニールクロス	LMF	PB－岩綿B	2400		SP	・カガミ　・配管カバー　・化粧床改め口
			GL								((洗髪台１台))
											((車椅子用洗髪台１台))
機械室	Cコテ	防塵塗床	打放し		グラスウール吸音板750	打放し	グラスウール吸音板750				・機械基礎
											・化粧床改め口
消火ポンプ室	Cコテ	防塵塗床	打放し		グラスウール吸音板750	打放し	グラスウール吸音板750				・機械基礎
											・マンホール
静養室（個室）	Cコテ	フローリング	LMF	VH	PBビニールクロス	LMF	PBビニールクロス	2400	C	SP	【床暖房設備】
			GL								・壁付き収納棚
											((ベッド))
静養室（便所）	Cコテ	VS	LMF	VH	PBビニールクロス	LMF	PBビニールクロス	2400			・便器、洗面パック
			GL								・手摺
											((VC))
静養室（台所）	Cコテ	フローリング	LMF	VH	壁100×200角タイル	LMF	CaB－EP	2400		SP	・流し台電磁ヒーター付き
											・レンジフード・吊り戸棚・収納棚
静養室（シャワー脱衣）	Cコテ	VS	LMF	VH	PBビニールクロス	LMF	PBビニールクロス	2400		SP	・ユニットシャワー
											・脱衣棚
静養室（洗面）	Cコテ	フローリング	LMF	VH	PBビニールクロス	LMF	PBビニールクロス	2400		SP	・洗面カウンター・カガミ
											・化粧床改め口

室名	床 下地	床 仕上	壁 下地	壁 巾木	壁 仕上	天井 下地	天井 仕上	天井高	日よけ	内装制限	備考
医務室	Cコテ	VS	LMF	VH	PBビニールクロス	LMF	PB－岩綿B	2400			・カーテンレール・カーテン
			GL		腰：木製						
処置室	Cコテ	VS	LMF	VH	PBビニールクロス	LMF	PB－岩綿B	2400	VB	SP	・洗面化粧台
			GL		腰：木製						・化粧床改め口
中待	Cコテ	VS	LMF	VH	PBビニールクロス	LMF	PB－岩綿B	2400		SP	・パーティション
			GL		腰：木製						・カーテンレール・カーテン
特殊浴室（踏込み）	Cコテ	防滑VS	M		壁100×200角タイル	LMF	浴室用スパンドレル	2700		SP	・トップライト
			A防水			(SUS)					・カーテンレール・ビニールカーテン
											・化粧床改め口
特殊浴室	RC	A防水	M		壁100×200角タイル	LMF	浴室用スパンドレル	2700			・排水溝SUS蓋
	M	床100角磁器タイル	A防水								((特殊浴槽))
脱衣室（男子・女子）	Cコテ	防滑VS	GL	VH	PBビニールクロス	LMF	PBビニールクロス	2400		SP	・洗面カウンター・カガミ・脱衣棚・手摺　・化粧床改め口
			LMF								((ベンチ))
											【床暖房設備】
脱衣室便所（男子・女子）	Cコテ	防滑VS	GL		壁100角タイル	LMF	PB－VP	2400			・手摺
			LMF								・便器、洗面パック
浴室（男子・女子）	RC	A防水	M		壁100×200角タイル	LMF	浴室用スパンドレル	2400～			・浴槽・手摺・カラン台・カガミ
	M	床100角磁器タイル	A防水			(SUS)		2700			・排水溝SUS蓋
											((シャワー・カラン))
洗濯室（１）	Cコテ	防滑VS	GL	VH	化粧ケイカル板	LMF	CaB防VP	2400		SP	・洗濯機パン
			LMF								・化粧床改め口
倉庫（２）	Cコテ	VT		VH	PB－EP	LMF	PB－EP	2400		SP	・木製棚
											・化粧床改め口
介護職員室（１）	Cコテ	タイルカーペット	GL	VH	PBビニールクロス	LMF	PB－岩綿B	2400		SP	・オープンカウンター
			LMF								・化粧床改め口
汚物シャワー室（１）	Cコテ	床50角モザイクタイル	M		壁100角タイル	LMF	CaB－EP	2400			・排水溝SUS蓋
						(SUS)					
居間スペース	Cコテ	フローリング	GL	木製	PBビニールクロス	LMF	PBビニールクロス	2700	RoS	SP	・タタミコーナー・流し台電磁ヒーター付き・レンジフード・吊戸棚
			LMF		腰：木製						・食器棚・収納棚・ロールスクリーン・手摺・トップライト
											・化粧床改め口　【床暖房設備】
廊下（ユニット部）	Cコテ	フローリング	GL	木製	PBビニールクロス	LMF	PBビニールクロス	2400		SP	・手摺
			LMF		腰：木製						
居室（個室）	Cコテ	コルクタイル	GL	VH	PBビニールクロス	LMF	PBビニールクロス	2200～	C	SP	・壁付収納・棚
			LMF					2600			
											【床暖房設備】
居室（便所）	Cコテ	VS	GL	VH	PBビニールクロス	LMF	PBビニールクロス	2400			・便器、洗面パック
			LMF								・カガミ・手摺
居室（洗面）	Cコテ	VS	GL	VH	PBビニールクロス	LMF	PBビニールクロス	2400			・洗面カウンター・化粧棚・カガミ
			LMF								・手摺　・化粧床改め口
リネン倉庫	Cコテ	VT	GL	VH	PB EP	LMF	PB－EP	2400		SP	・木製棚
			LMF								
サンルーム	Cコテ	VS			ガラス		ガラス			SP	
						LMF	PB－岩綿吸音板				
											【床暖房設備】
和室	Cコテ	タタミ	LMF		PBビニールクロス	LMF	化粧ＰＢ(木目)	2400		SP	・押入・仏間・板間
	Cコテ	縁甲板	GL								・ロールカーテン
		二重床									

下地凡例

M	モルタル	簡二床	簡易二重床	RC	鉄筋コンクリート	SP	スプリンクラー設置室　令129　条－7による　内装制限免除
Cこて	コンクリートこて押さえ	二重床	二重床	LC	軽量コンクリート	不燃	内装下地仕上げとも不燃とした部屋
WF	木造下地	LMF	軽量鉄骨下地	S	鉄骨		

幅木凡例

VH	軟質ビニル

日よけ凡例

VB	ベネシャンブラインド	C	カーテン
TB	縦型ブラインド		
RoS	ロールスクリーン		

室名札凡例

▽	室名札
▼	室名文字書き
▽	ピクトサイン

NISSOKEN ARCHITECTS / ENGINEERS

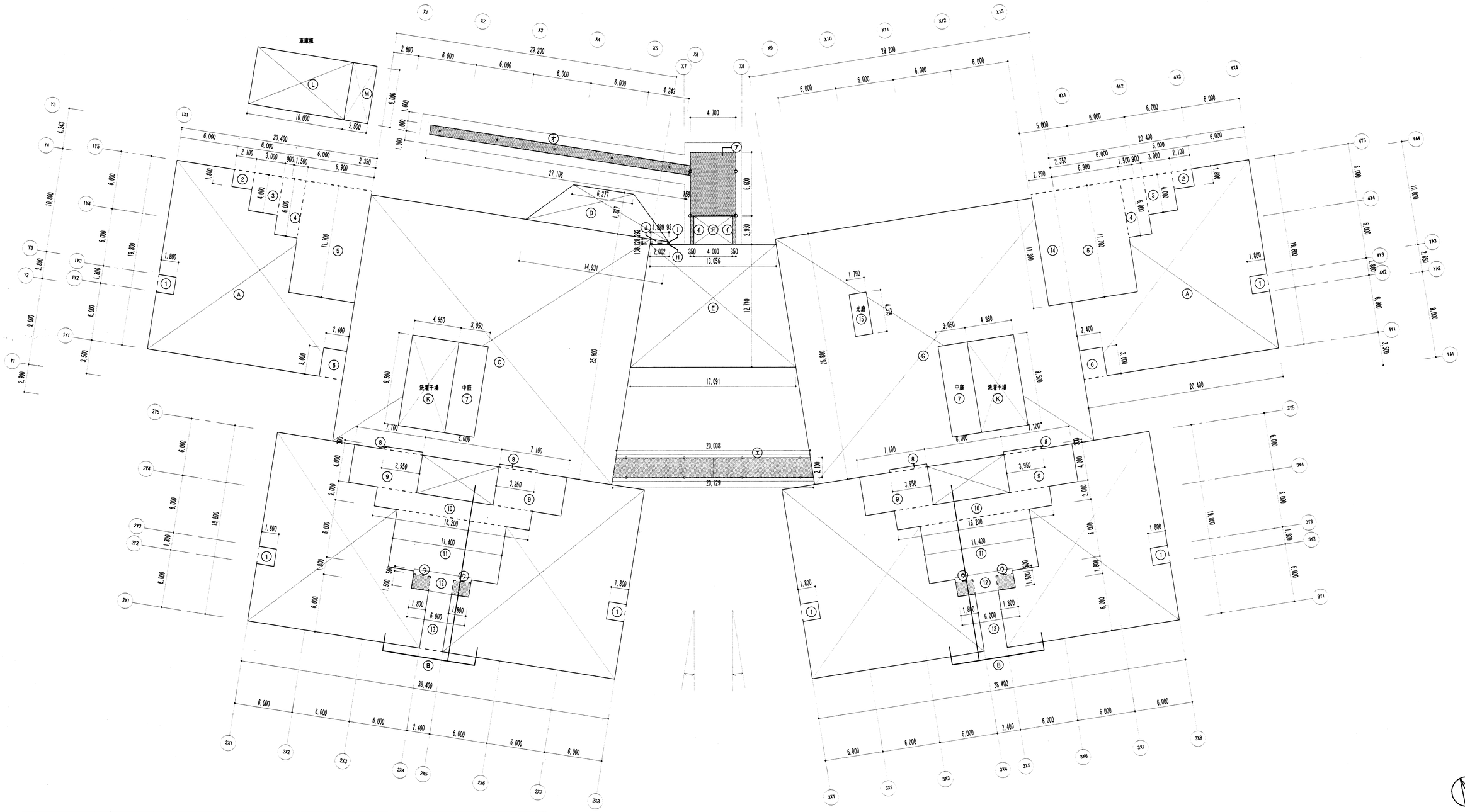
株式会社 日総建
一級建築士登録 第109497号
北川 昭夫

計画名：養護老人ホーム静香園新築工事
図面名：内部仕上表－１
縮尺：
工事区分：建築
製作年月：
縮尺：
図面番号：D-13
ファイル名：-

内部仕上表－２

室名	床 下地	床 仕上	壁 下地	壁 巾木	壁 仕上	天井 下地	天井 仕上	天井 天井高	日よけ	内装制限	備考
地域交流スペース	Cコテ	フローリング	RC	木製	PB－寒冷紗貼りEP	LMF	PB－寒冷紗貼りEP	2400	TB	SP	・ステージH=500・上框・段・スクリーンボックス・スクリーン
			LMF		不燃木繊付合板						・スライディングウォール
											【床暖房設備】 ((プロジェクター)) ((フットライト))
控え室兼倉庫	Cコテ	VS	RC	VH	PB－EP	LMF	PB－EP	2400		SP	
			LMF								
ワゴンスペース	Cコテ	VS	LMF	VH	PBビニールクロス	LMF	PB－岩綿B	2400			・ストレッチャーガード
			GL								
調理室	Cコテ	塗床	LMF		壁100角タイル	LMF	CaB-VP	2400		SP	・排水溝SUS蓋
			GL								・化粧床改め口
洗浄室	Cコテ	塗床	LMF		壁100角タイル	LMF	CaB-VP	2400			・排水溝SUS蓋
			GL								
厨房更衣室	Cコテ	防滑性VS	LMF	VH	PBビニルクロス	LMF	PBビニルクロス	2400	C	SP	
			GL								
											・化粧床改め口
厨房便所	Cコテ	防滑性VS	LMF	VH	PBビニルクロス	LMF	PBビニルクロス	2400			・便器パック
			GL								
検収室	Cコテ	防滑性VS	LMF	VH	PBビニルクロス	LMF	PB－EP	2400		SP	・踏込・下足箱
		踏込・防滑性VS	GL								
栄養士室	Cコテ	防滑性VS	LMF	VH	PBビニルクロス	LMF	PB－EP	2400		SP	
			GL								
食品庫	Cコテ	防滑性VS	LMF	VH	PB－EP	LMF	PB－EP	2400		SP	
			GL								
			M								
下洗室	Cコテ	塗床	LMF		壁100角タイル	LMF	CaB-VP	2400		SP	・排水溝SUS蓋
			GL								・化粧床改め口
汚物 シャワー室（２）	Cコテ	床50角モザイクタイル	M		壁100角タイル	(SUS)	CaB－EP	2400			・排水溝SUS蓋
洗濯室（２）	Cコテ	防滑性VS	LMF	VH	化粧CaB	LMF	CaB-VP	2400		SP	・洗濯機パン
宿直室	Cコテ	VS	LMF	VH	PBビニルクロス	LMF	PBビニールクロス	2400	C	SP	・ユニットシャワー
											・化粧床改め口
介護職員室（２）	Cコテ	タイルカーペット	LMF	VH	PBビニルクロス	LMF	PB－岩綿B	2400		SP	・オープンカウンター
			GL		PB EP						・化粧床改め口
倉庫（３）	Cコテ	VT	LMF	VH	PB－EP	LMF	PB－EP	2400		SP	・木製棚
			GL								
相談室	Cコテ	タイルカーペット	LMF	VH	PBビニルクロス	LMF	PB－岩綿B	2700	TB	SP	・スクリーンボックス・スクリーン
			GL								
湯沸室（２）	Cコテ	VS	打放し	VH	化粧CaB	LMF	CaB－EP	2400		SP	・流し台 電磁ヒーター付き・水切り金物
			LMF								・レンジフード・吊り戸棚
			GL								・化粧床改め口
空調機械室	Cコテ	防塵塗床	打放し		グラスウール吸音板750	打放し	グラスウール吸音板750				・機械基礎

室名	床 下地	床 仕上	壁 下地	壁 巾木	壁 仕上	天井 下地	天井 仕上	天井 天井高	日よけ	内装制限	備考
女子便所	Cコテ	VS	LMF		防水PB－壁100×200角タイル	LMF	CaB－EP	2400			・洗面カウンター・カガミ・便器,洗面パック
											・手摺・大便器ブース
											・化粧床改め口
男子便所	Cコテ	VS	LMF		防水PB－壁100×200角タイル	LMF	CaB－EP	2400			・洗面カウンター・カガミ・手摺・便器,洗面パック
											・手摺・大便器ブース・垂れ石
											・化粧床改め口
多目的便所	Cコテ	VS	LMF		防水PB－壁100×200角タイル	LMF	CaB－EP	2400			傾斜カガミ・手摺・便器,洗面パック
											・手摺
廊下	Cコテ	VS	LMF	VH	PBビニールクロス	LMF	PB－岩綿B	2400		SP	・洗面カウンター・カガミ・手摺
			GL		木縁り付け合板						・化粧床改め口



面積算出表

記号	計算式(㎡)	記号	計算式(㎡)	記号	計算式(㎡)
Ⓐ	(20.4×19.8)×2=807.84	▲①	1.8×1.8×6=19.44	㋐	6.6×4.7=31.02
Ⓑ	(38.4×19.8)×2=1,520.64	▲②	2.1×1.8×2=7.56	㋑	0.35×2.95×2=2.065
Ⓒ	29.2×25.8=753.36	▲③	4.0×3.0×2=24.0	㋒	1.8×1.5×4=10.8
Ⓓ	(14.931+6.277)×4.327×0.5=45.884	▲④	6.0×2.4×2=28.8	㋓	(20.008+20.729)×2.1×0.5=42.77
Ⓔ	(17.091+13.056)×12.74×0.5=192.036	▲⑤	11.7×6.9×2=161.46	小計	㋐ 86.655
Ⓕ	4.0×2.95=11.8	▲⑥	2.4×3.0×2=14.4		
Ⓖ	29.2×25.8=753.36	▲⑦	3.05×9.5×2=57.95	㋔	27.108×1.0+0.158×1.0×0.5=27.187 (渡り廊根)
Ⓗ	2.002×0.138×0.5=0.138	▲⑧	3.95×0.3×4=4.74		
Ⓘ	1.982×0.128=0.254	▲⑨	7.1×4.0×4=113.6		
Ⓙ	1.889×0.292×0.5=0.276	▲⑩	16.2×2.0×2=64.8		
小計	Ⓐ 4,085.588	▲⑪	11.4×6.0×2=136.8		
		▲⑫	1.8×6.0×2=21.6		
		▲⑬	2.4×6.0×2=28.8		
Ⓛ	10.0×6.0=60.0 (車庫)	▲⑭	2.39×11.3=27.007		
Ⓜ	2.5×6.0=15.0 (ゴミ置場)	▲⑮	1.79×4.375=7.831		
		小計	(い) 718.788		

建築面積(㎡)	㎡
本館 Ⓐ-(い)+㋔	3,453.455
車庫棟 Ⓛ+Ⓜ	75.0
渡り廊根 ㋔	27.19
合計	3,555.65

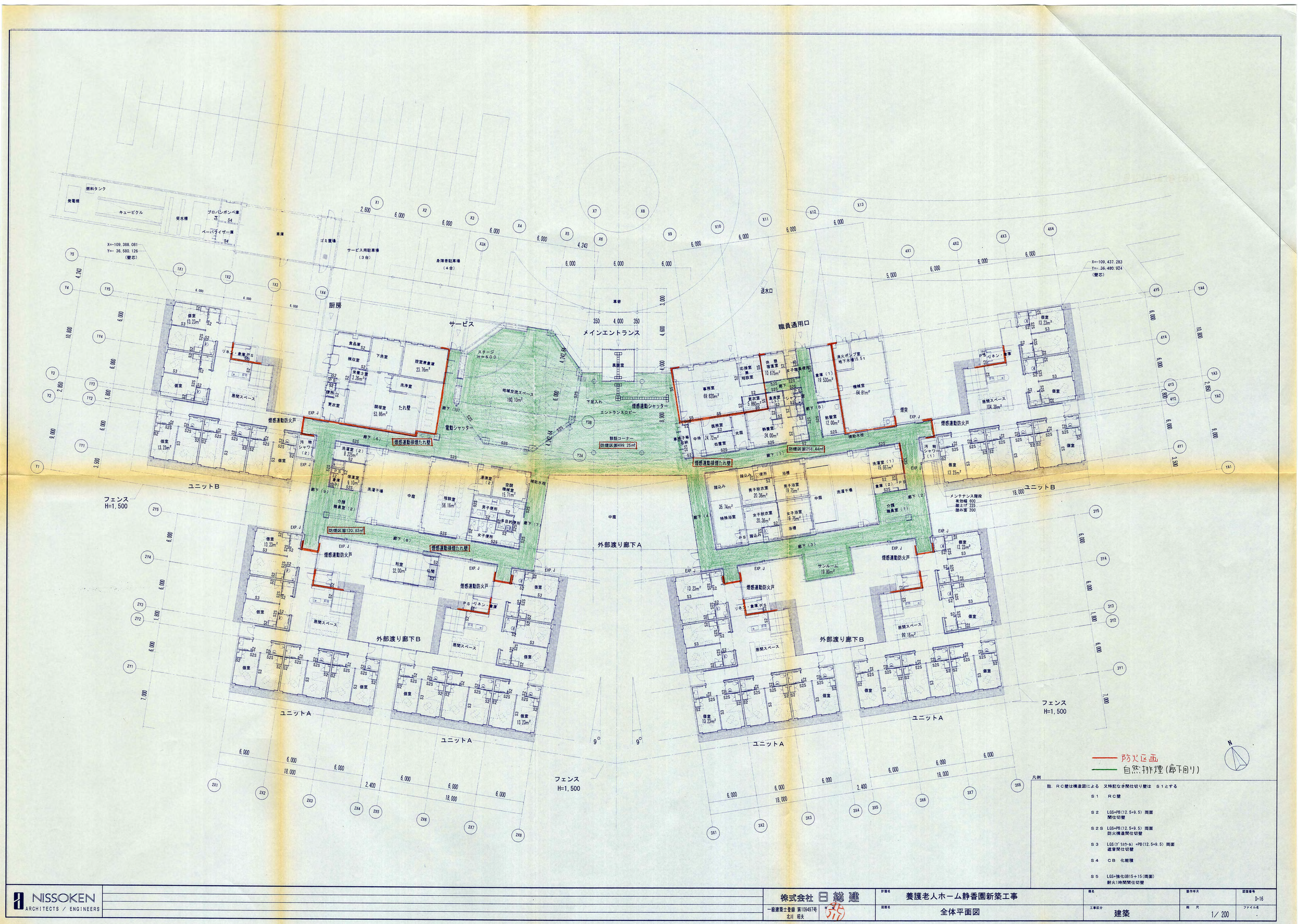
延床面積(㎡)	㎡
本館 Ⓐ-(い)	3,366.80
車庫棟 Ⓛ+Ⓜ	75.0
合計	3,441.80

容積率対象床面積(㎡)	㎡
3,441.63-Ⓛ	
合計	3,381.80

NISSOKEN ARCHITECTS / ENGINEERS

株式会社 日総建
一級建築士登録 第109497号
北川 昭夫

計画名	養護老人ホーム静香園新築工事	縮尺	
図面名	面積求積図	工事区分	建築
製作年月	2003.6	図面番号	D-15
縮尺	1/200	ファイル名	-



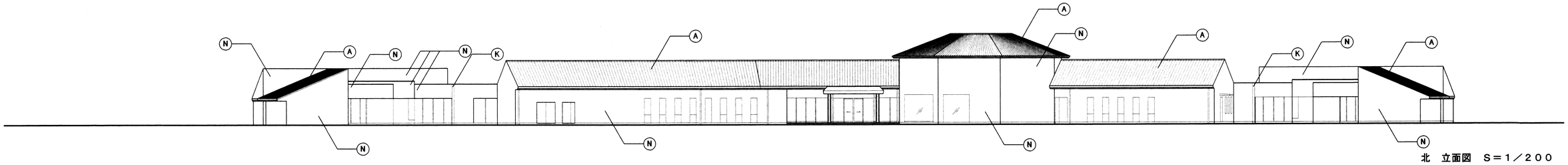
凡例

註 RC壁は構造図による 又特記なき間仕切り壁は S1とする

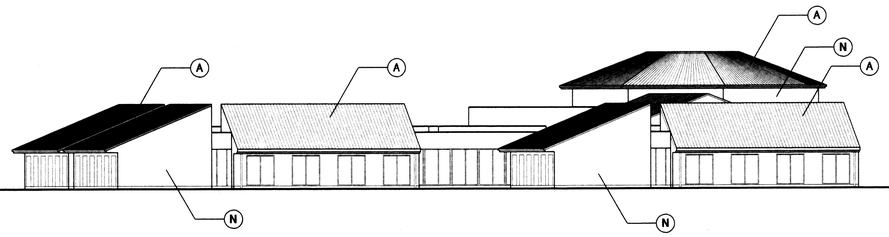
S1	RC壁
S2	LGS+PB(12.5+9.5) 両面 間仕切壁
S2S	LGS+PB(12.5+9.5) 両面 防火構造間仕切壁
S3	LGS(ﾀﾞﾗｽｶｰﾙ) +PB(12.5+9.5) 両面 遮音間仕切壁
S4	CB 化粧積
S5	LGS+強化GB15+15(両面) 耐火1時間間仕切壁

NISSOKEN ARCHITECTS / ENGINEERS

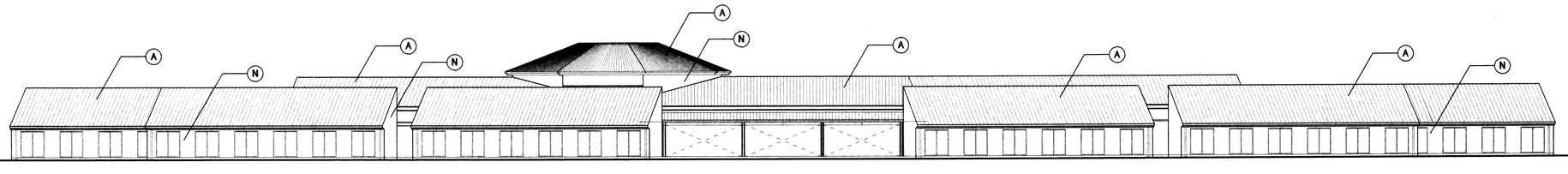
株式会社 日総建 一級建築士登録 第109497号 北川 明夫	計画名 養護老人ホーム静香園新築工事	縮尺	図面番号 D-16
	図面名 全体平面図	工事区分 建築	縮尺 1/200



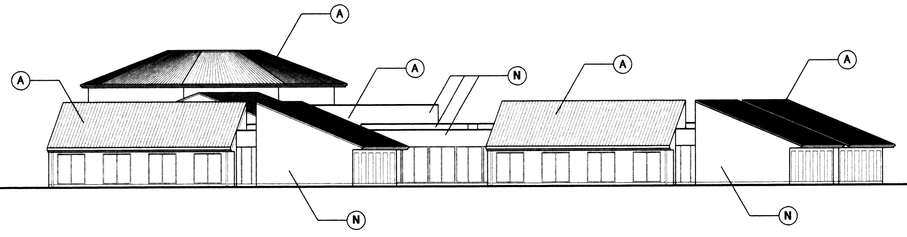
北　立面図　S＝1／200



東　立面図　S＝1／200



南　立面図　S＝1／200

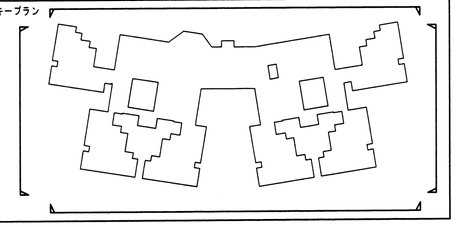


西　立面図　S＝1／200

凡例

記号	名称	記号	名称
A	洋風瓦葺き	I	複層ポリカーボネイト板
B	露出アスファルト防水	J	トップライト（既製品）
C	塗膜防水	K	アルミ製エキスパンションジョイントカバー（既製品）
D	カラーガルバリウム鋼板　折板葺き	M	アルミ製笠木（既製品）
E	アルミ板 曲げ加工	N	漆喰調塗材ローラー仕上げ
F	ステンレス板 曲げ加工	O	木製デッキ：ジャラ材
G	アルミスパンドレル	P	
H	竪樋：ステンレス製（既製品）	Q	

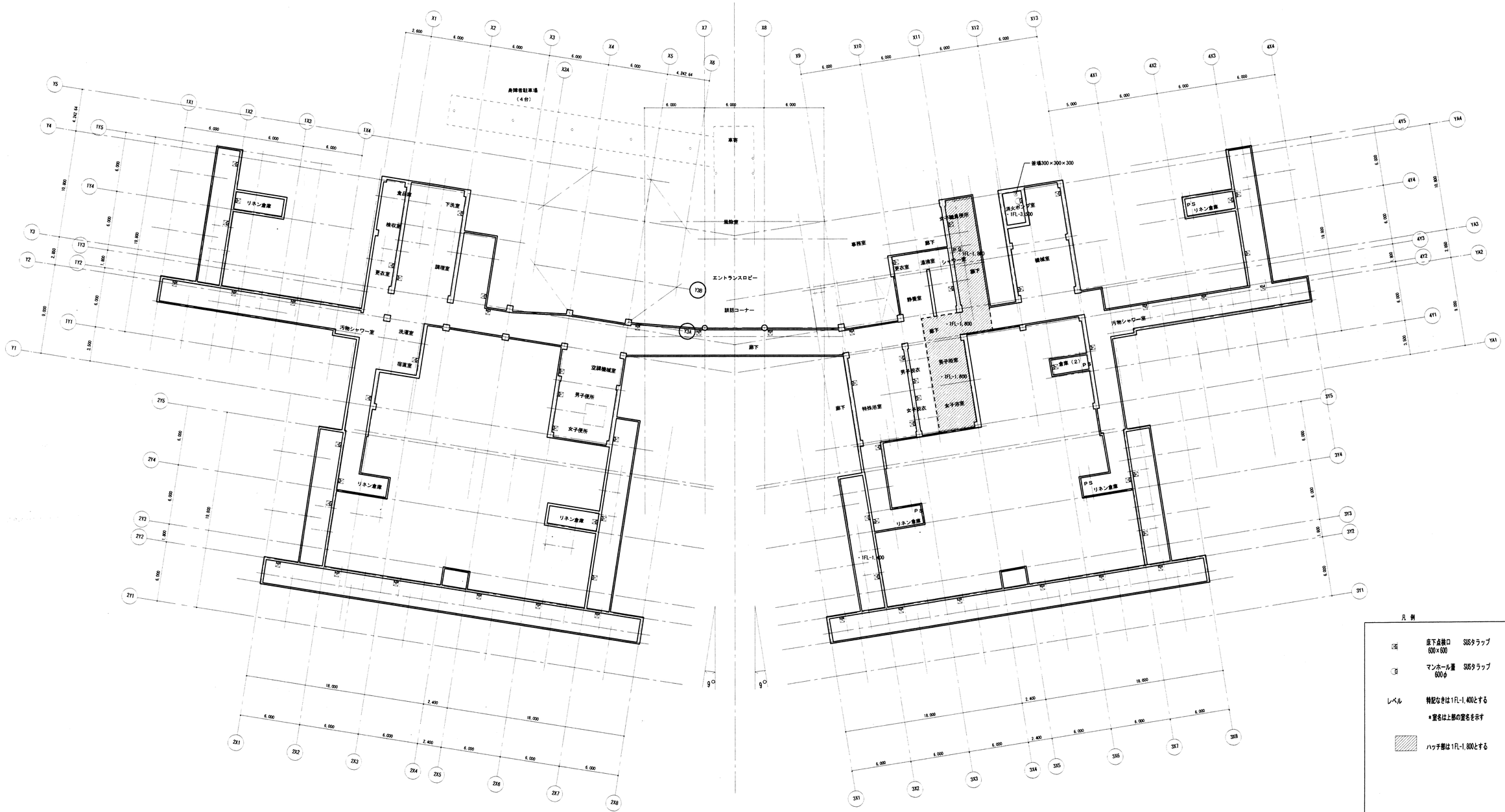
キープラン



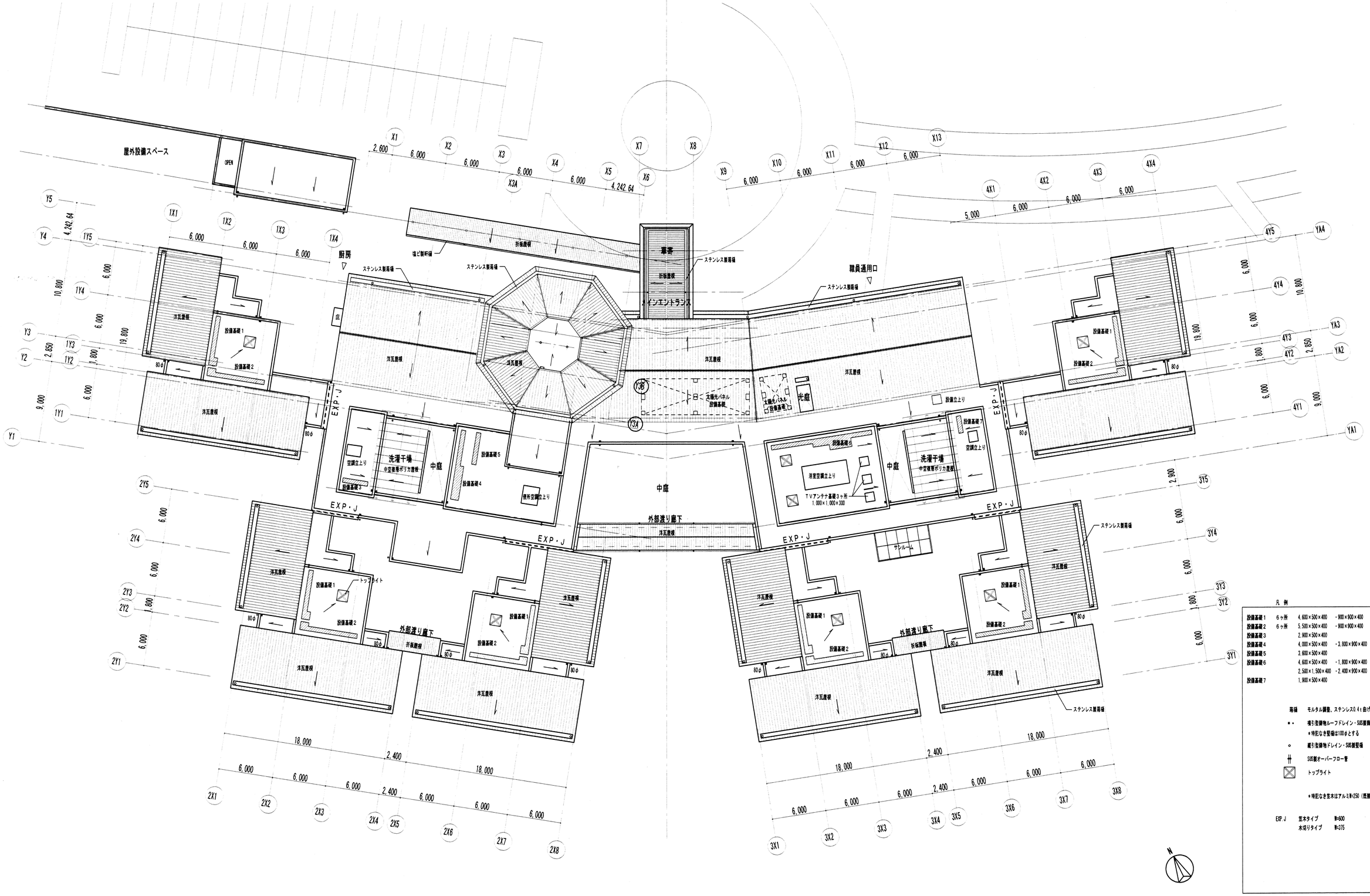
NISSOKEN
ARCHITECTS / ENGINEERS

株式会社 日総建
一級建築士登録 第109497号
北川 昭夫

計画名 養護老人ホーム静香園新築工事
図面名 全体立面図１
建名
工事区分 建築
製作年月
縮尺 1／200
図面番号 D-17
ファイル名 -



NISSOKEN ARCHITECTS / ENGINEERS	株式会社 日総建 一級建築士登録 第109497号 北川 昭夫	計画名 養護老人ホーム静香園新築工事	縮尺	製作年月	図面番号 D-24
		図面名 ピット平面図	工事区分 建築	縮 尺 1/200	ファイル名 -



凡例

設備基礎1	6ヶ所	4,600×500×400	・900×900×400
設備基礎2	6ヶ所	5,500×500×400	・900×900×400
設備基礎3		2,900×500×400	
設備基礎4		4,000×500×400	・3,800×900×400
設備基礎5		3,600×500×400	
設備基礎6		4,600×500×400	・1,800×900×400
		2,500×1,500×400	・2,400×900×400
設備基礎7		1,900×500×400	

箱樋　モルタル調整、ステンレス0.4t曲げ加工

■・　埋引型錆地ルーフドレイン・SUS製簡易ます・竪樋
＊特記なき竪樋は100φとする

○　埋引型錆地ドレイン・SUS製竪樋

SUS製オーバーフロー管

トップライト

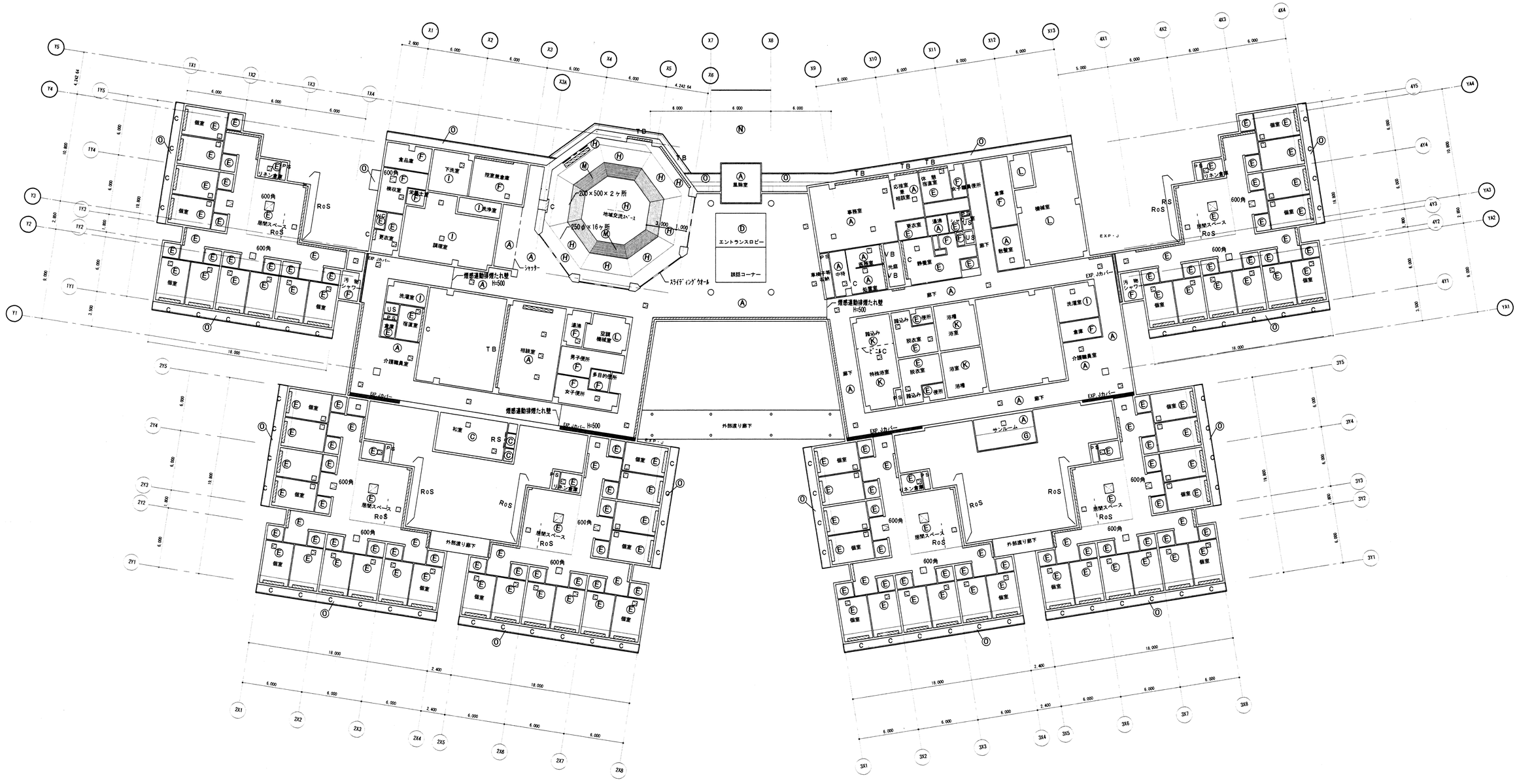
＊特記なき笠木はアルミH=250（既製品）とする

EXP.J　笠木タイプ　W=600
水切りタイプ　W=375

N

NISSOKEN ARCHITECTS / ENGINEERS

株式会社 日総建 一級建築士登録 第109497号 北川 昭夫	計画名	養護老人ホーム静香園新築工事	縮尺	製作年月 / 図面番号 D-26
	図面名	屋根伏図	工事区分 建築	縮 R 1/200 / ファイル名 -

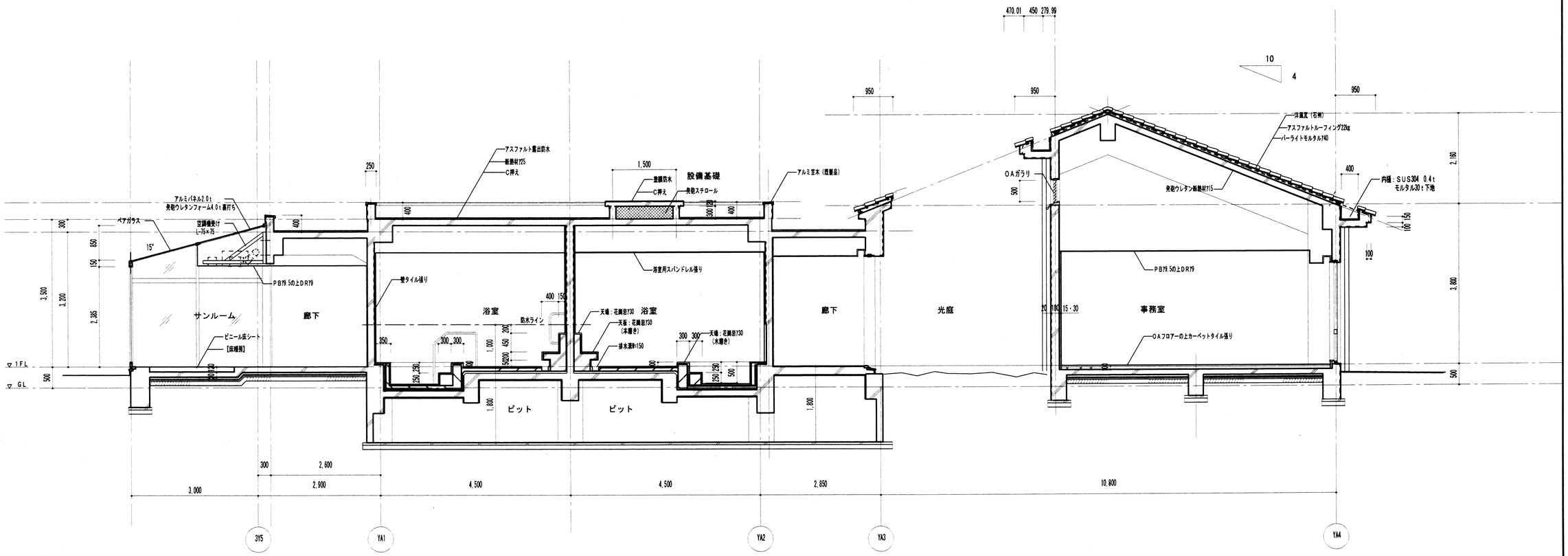


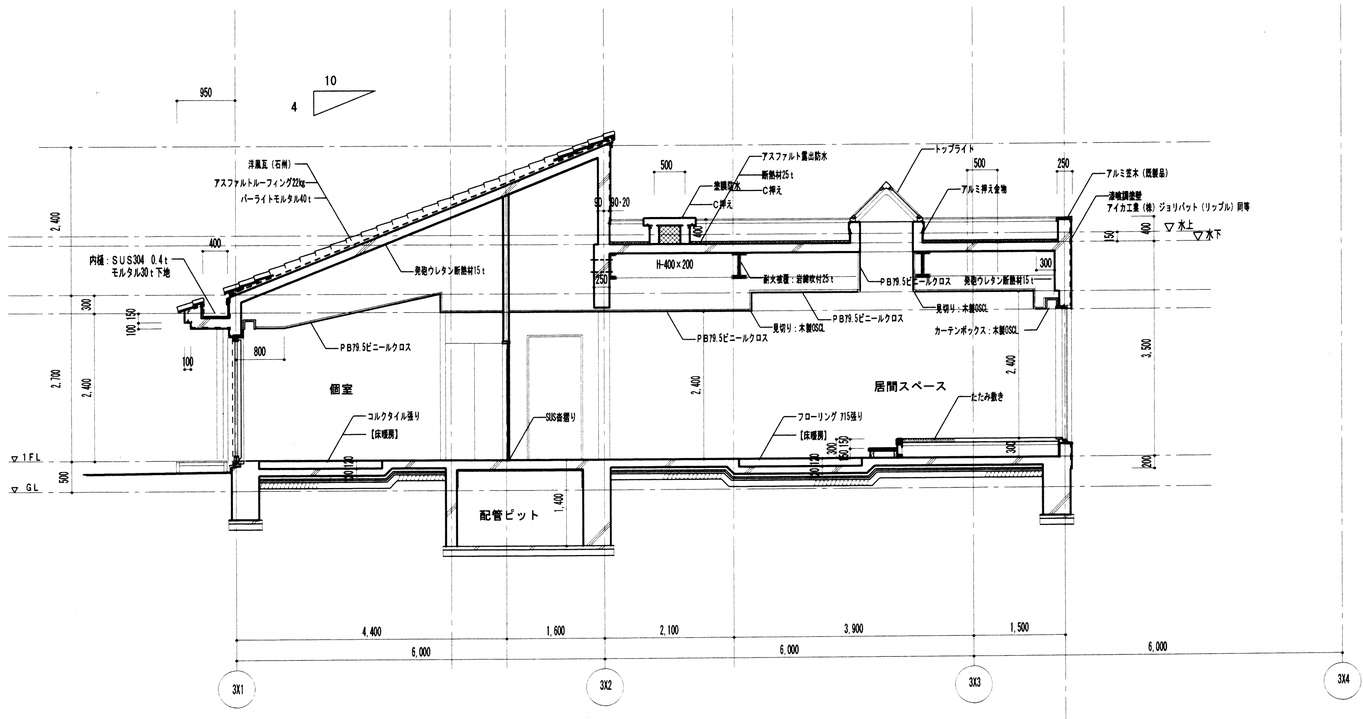
記号	名称	記号	名称
Ⓐ	LMF下地岩綿吸音板（PB捨貼）	Ⓜ	アルミルーバー
Ⓑ	LMF下地　化粧PB	Ⓝ	アルミスバンドレル
Ⓒ	LMF下地　化粧PB（木目）	Ⓞ	塗装調塗材吹付
Ⓓ	LMF下地　木練り付け合板		
Ⓔ	LMF下地　PB　ビニールクロス		
Ⓕ	LMF下地　PB－EP	□	アルミ枠天井点検口 450×450
Ⓖ	ﾐｶﾞｷ 6.8d+7C-ﾄ 5d		カーテンボックス 150W
Ⓗ	LMF下地　PB　寒冷紗貼り　EP		スクリーンボックス 350W
Ⓘ	LMF下地　CaB　VP		アルミEXP.Jカバー
Ⓙ	LMF下地　CaB　防かびVP	C	カーテン
Ⓚ	LMF下地　パスリブ	TB	横型ブラインド
Ⓛ	グラスウール吸音板 750	VB	ベネシャンブラインド
		RoS	ロールスクリーン

NISSOKEN
ARCHITECTS / ENGINEERS

株式会社 日総建
一級建築士登録 第109497号
北川 昭夫

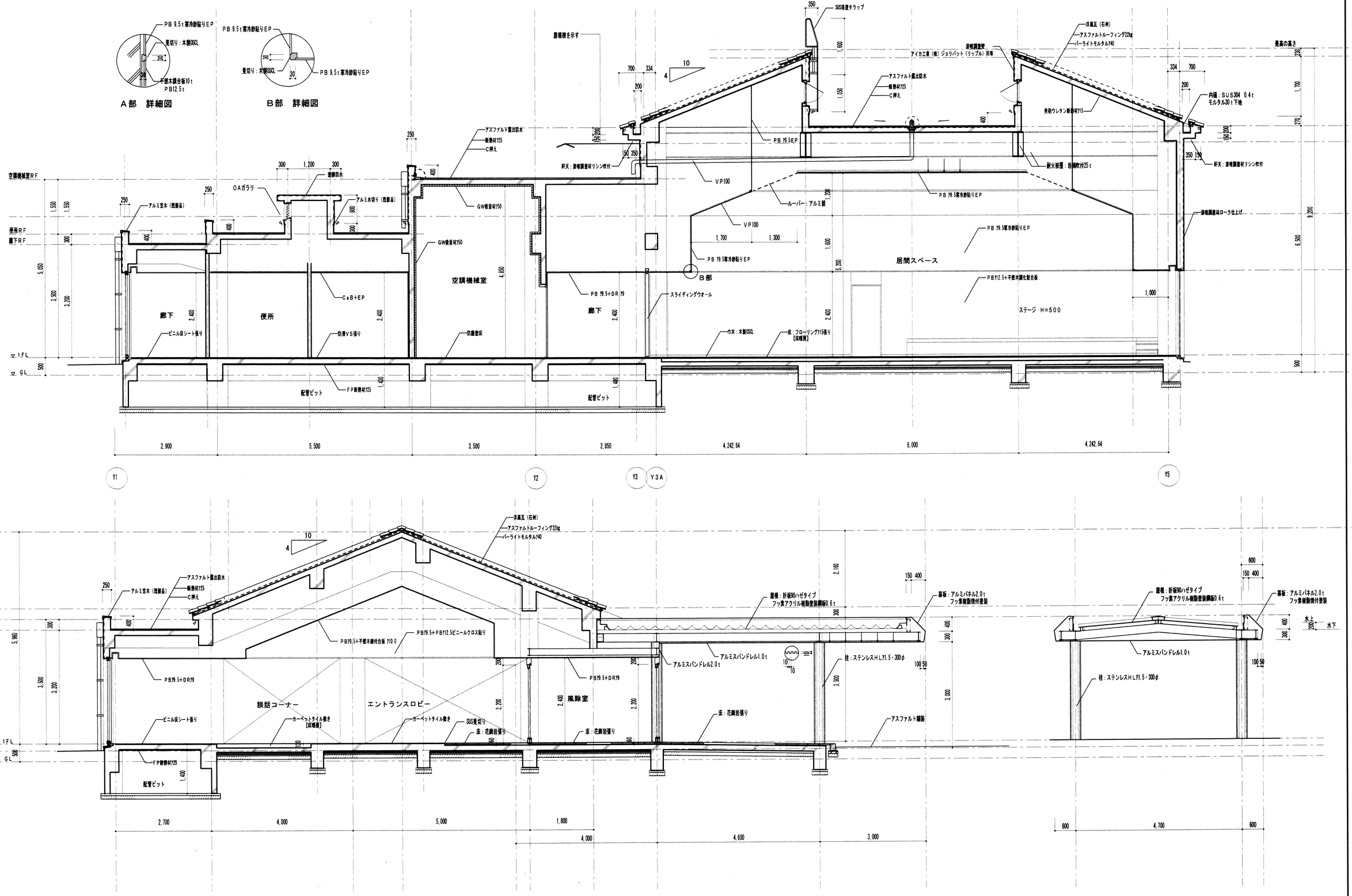
計画名	養護老人ホーム静香園新築工事	縮尺	製作年月 / 図面番号 D27
図面名	天井伏図	工事区分 建築	縮尺 1/200 / ファイル名 -

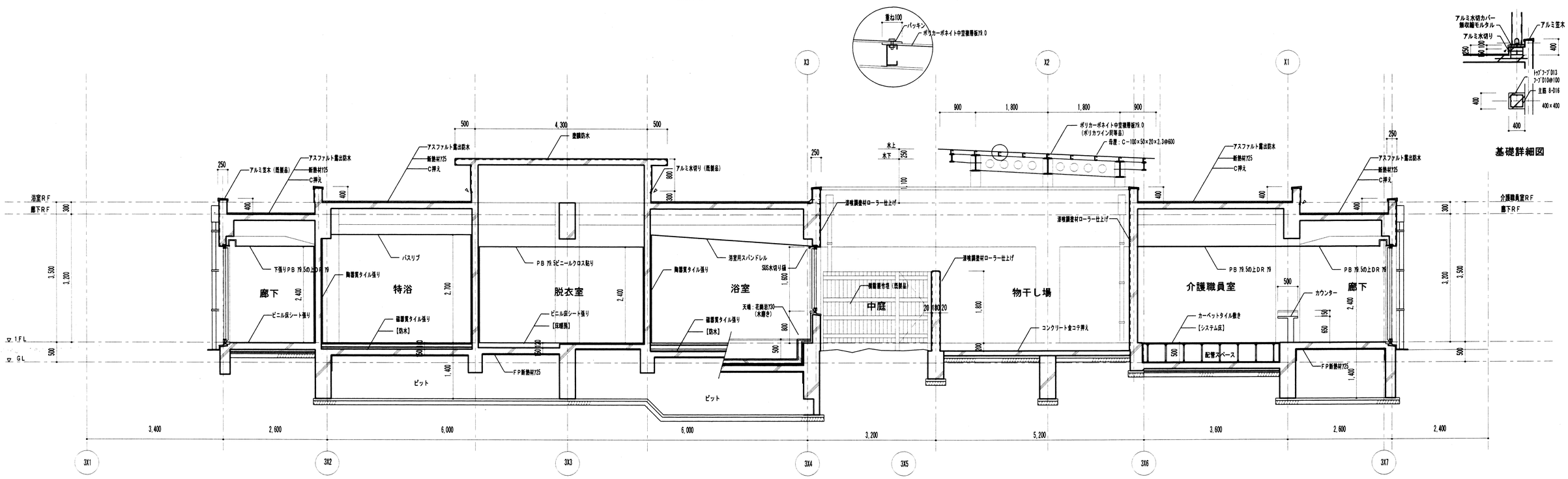




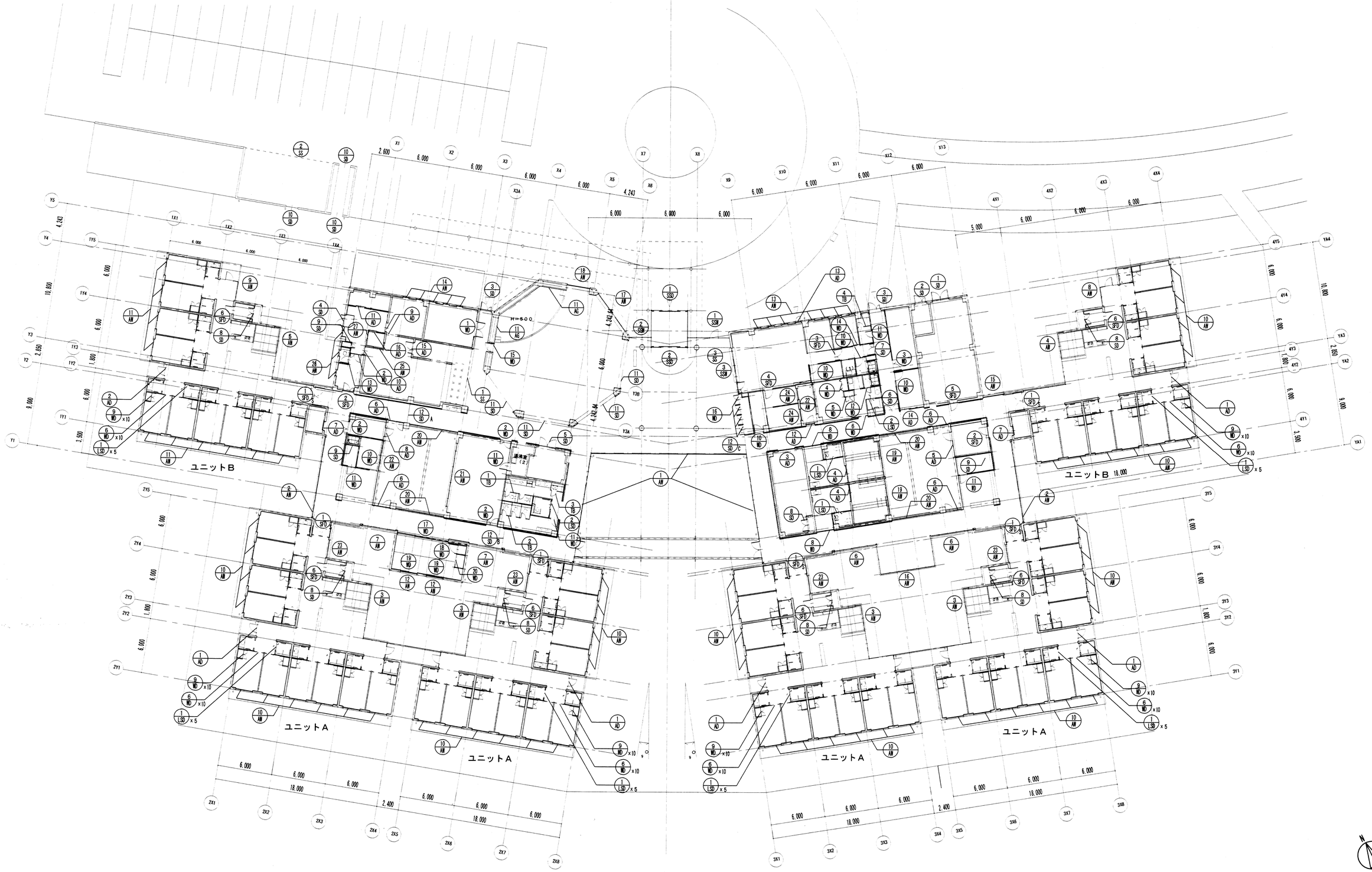
NISSOKEN
ARCHITECTS / ENGINEERS

株式会社 日総建 一級建築士登録 第109497号 北川 昭夫	計画名 養護老人ホーム静香園新築工事	縮名	製作年月	図面番号 D-28
	図面名 矩計図 1	工事区分 建築	縮尺 1/50	ファイル名 -

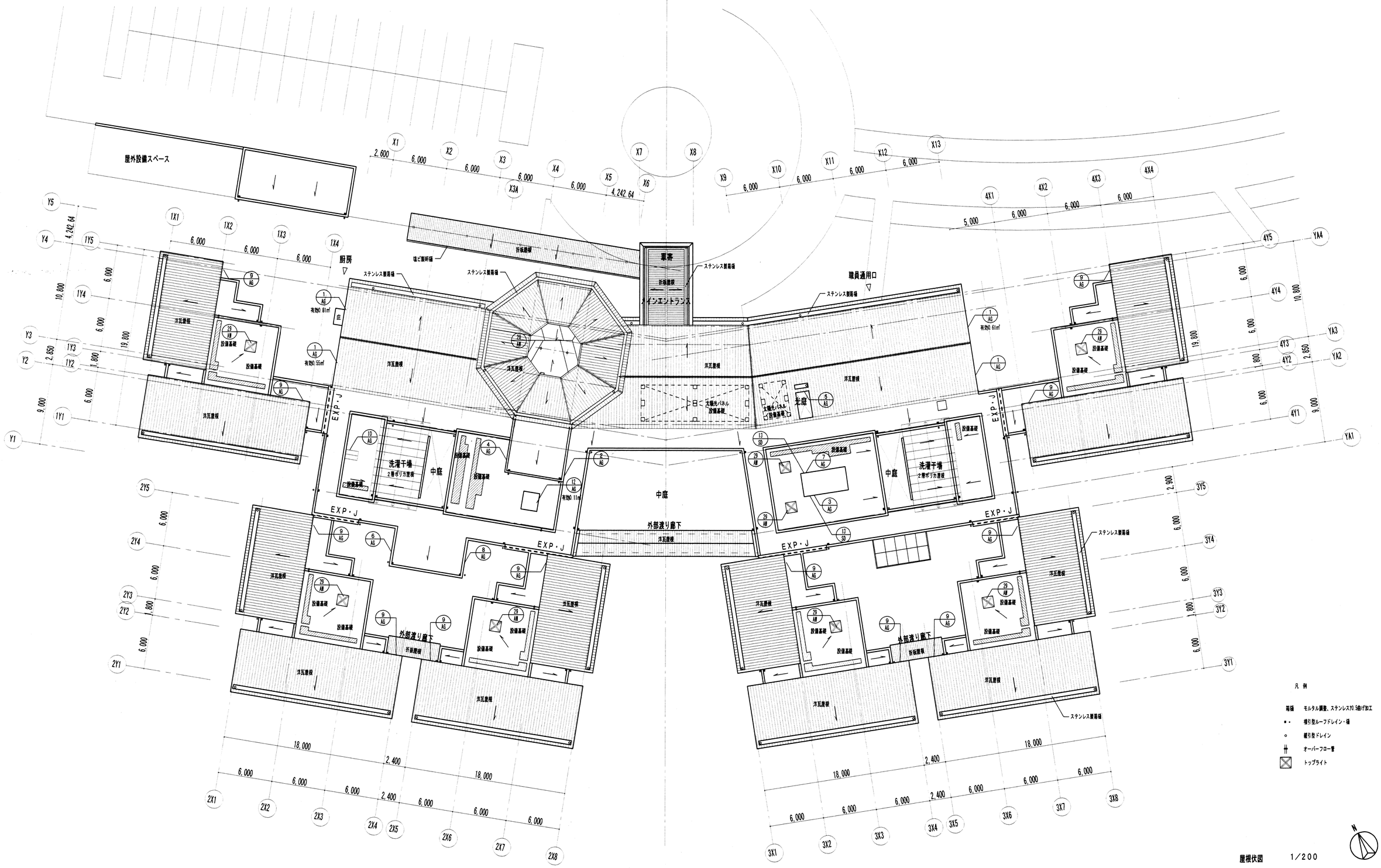

A部 詳細図
B部 詳細図
PB 9.5t窯冷砂貼りEP
見切り：木製OSCL
不燃木調合板10t
PB12.5t
30
300
屋根線を示す
SUS笠木ラップ
洋風瓦（石州）
アスファルトルーフィング22kg
パーライトモルタル40
遠戚調度部
アイカ工業（株）ジョリパット（リップル）貝殻
アスファルト露出防水
断熱材t25
C押え
発泡ウレタン断熱材t15
内張：SUS304 0.4t
モルタル30t下地
最高の高さ
耐火被覆：岩綿吹付25t
軒天：遠戚調度材リシン吹付
VP100
ルーバー：アルミ製
PB 9.5窯冷砂貼りEP
遠戚調度材ローラ仕上げ
居間スペース
PB712.5+不燃木調化粧合板
ステージ H=500
B部
スライディングウオール
巾木：木製OSCL
床：フローリングt15張り
【床暖房】
空調機械室RF
便所RF
廊下RF
▽1FL
▽GL
アルミ笠木（既製品）
OAガラリ
遮膜防水
アルミ水切り（既製品）
GW吸音材t50
空調機械室
廊下
便所
CaB+EP
PB 9.5+DR 9
ビニル床シート張り
防滴VS張り
防塵塗床
配管ピット
FP断熱材t25
2,900
5,500
3,500
2,850
4,242.64
6,000
4,242.64
Y1
Y2
Y3
Y3A
Y5
PB 9.5t窯冷砂貼りEP
PB 9.5t窯冷砂貼りEP
PB 9.5t窯冷砂貼りEP



NISSOKEN ARCHITECTS / ENGINEERS	株式会社 日総建 一級建築士登録 第109497号 北川 昭夫	計画名 養護老人ホーム静香園新築工事	縮名	製作年月	図面番号 D-30
		図面名 矩計図 3	工事区分 建築	縮 尺 1/50	ファイル名 -



NISSOKEN ARCHITECTS / ENGINEERS	株式会社 日総建 一級建築士登録 第109497号 北川 昭夫	計画名 養護老人ホーム静香園新築工事	棟名	製作年月	図面番号 D-58
		図面名 キープラン1	工事区分 建築	縮 尺 1/200	ファイル名 -

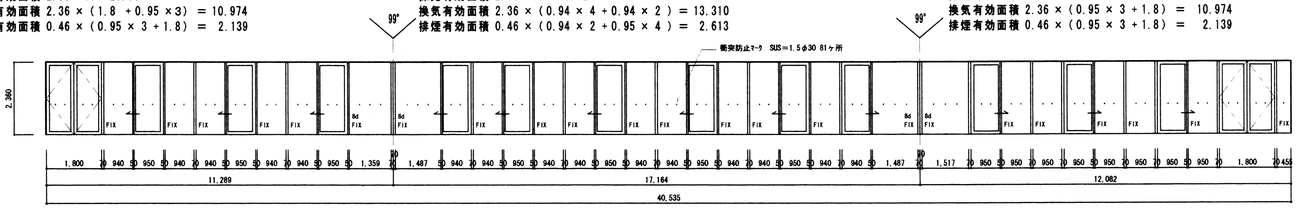
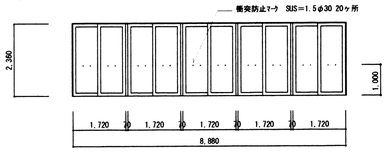


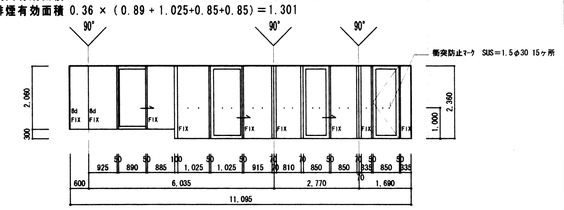
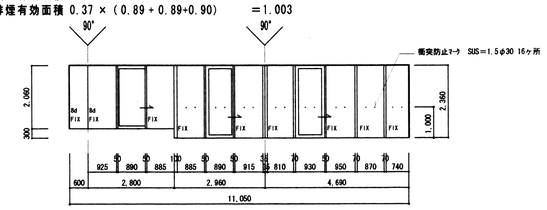
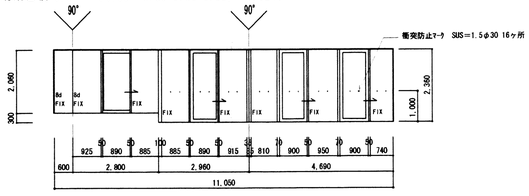
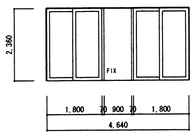
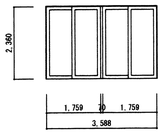
凡例

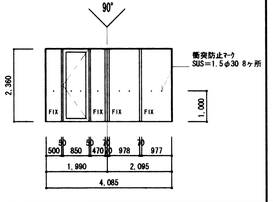
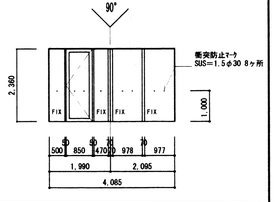
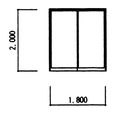
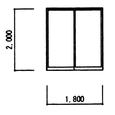
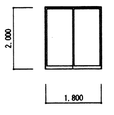
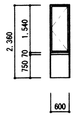
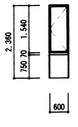
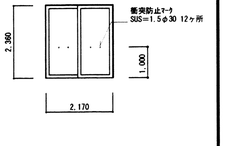
箱樋	モルタル調整、ステンレス70.5曲げ加工
■・	横引型ルーフドレイン・樋
○	横引型ドレイン
	オーバーフロー管
	トップライト

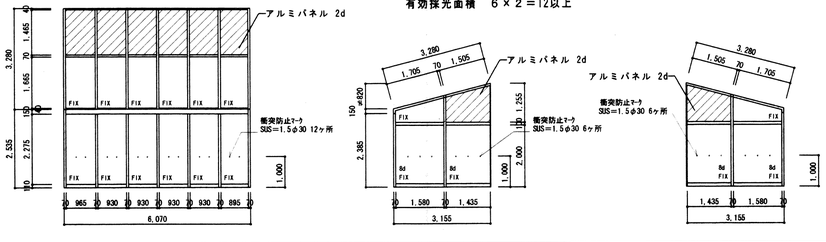
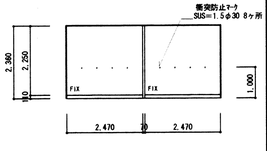
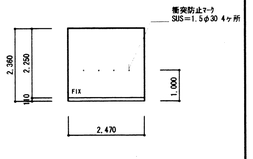
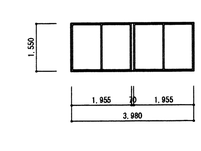
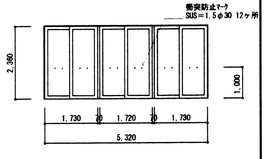
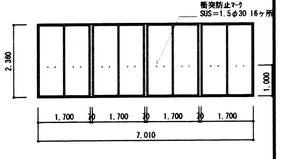
屋根伏図　1/200

NISSOKEN ARCHITECTS / ENGINEERS	株式会社 日総建	計画名 養護老人ホーム静香園新築工事	現名	製作年月	図面番号 D-59
	一級建築士登録 第109497号 北川 昭夫	図面名 キープラン2	工事区分 建築	縮尺 1/200	ファイル名 -

記号	① AW	② AW	
姿図	採光有効面積 2.36 ×11＝25.96 換気有効面積 2.36 ×（1.8 ＋0.95 ×3）＝ 10.974 排煙有効面積 0.46 ×（0.95 × 3 ＋1.8）＝ 2.139 採光有効面積 2.36 ×17＝40.12 換気有効面積 2.36 ×（0.94 × 4 ＋0.94 × 2 ）＝ 13.310 排煙有効面積 0.46 ×（0.94 × 2 ＋0.95 × 4 ）＝ 2.613 採光有効面積 2.36 ×12＝28.32 換気有効面積 2.36 ×（0.95 × 3 ＋1.8）＝ 10.974 排煙有効面積 0.46 ×（0.95 × 3 ＋1.8）＝ 2.139 	採光有効面積 2.3 × 8 ＝18.4 換気有効面積 2.36 ×1.72×5×0.5 ＝ 10.148 排煙有効面積 0.46 ×（1.72×5）× 0.5 ＝ 1.978 	
数量	1	2	
仕上 見込	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70	
ガラス	フロート 6・8 d	フロート 6 d	
建具金物	(付) (引) (サ) (丁) (押) ドアチェック	(付) (引) (サ)	
備考			

記号	③ AW	④ AW	⑤ AW	⑥ AW	⑦ AW
姿図	採光有効面積 2.06×3.3+2.36×7.6＝24.734 換気有効面積 2.06×0.89+2.36×（1.025+0.85+0.85）＝8.264 排煙有効面積 0.36 ×（0.89 ＋1.025+0.85+0.85）＝1.301 	採光有効面積 2.06×3.3+2.36×7.6＝24.734 換気有効面積 2.06×0.89+2.36×（0.89+0.90+0.90）＝8.182 排煙有効面積 0.37 ×（0.89 ＋0.89+0.90）＝1.003 	採光有効面積 2.06×3.3+2.36×7.6＝24.734 換気有効面積 2.06×0.89+2.36×（0.89+0.90+0.90）＝8.182 排煙有効面積 0.37 ×（0.89 ＋0.89+0.90+0.90）＝1.3246 		
数量	4	1	1	2	2
仕上 見込	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70
ガラス	フロート 6・8 d	フロート 6・8 d	強化 6・8 d	フロート 6 d	フロート 6 d
建具金物	(付) (引) (サ) (丁) (押) ドアチェック	(付) (引) (サ)	(付) (引) (サ) 電気錠（２段開閉式）	(付) (引) (サ)	(付) (引) (サ)
備考					

記号	⑧ AW	⑨ AW	⑩ AW	⑪ AW	⑫ AW	⑬ AW	⑭ AW	⑮ AW
姿図	採光有効面積 2.36 × 4.085＝ 9.641 換気有効面積 0.85 × 2.36 ＝ 2.006 排煙有効面積 0.71 × 0.85 ＝ 0.604 		採光有効面積 2.0 × 1.8 ＝3.6 換気有効面積 2.0 × 1.8 × 0.5 ＝1.8 排煙有効面積 0.4 × 1.8 × 0.5 ＝0.36 	採光有効面積 2.0 × 1.8 ＝3.6 換気有効面積 2.0 × 1.8 × 0.5 ＝1.8 排煙有効面積 0.4 × 1.8 × 0.5 ＝0.36 	採光有効面積 1.8 × 2.0 ＝3.6 換気有効面積 0.9 × 2.0 ＝1.8 排煙有効面積 0.4 × 1.8 × 0.5 ＝0.36 	換気有効面積 1.54 × 0.6 ＝0.924 排煙有効面積 0.46 × 0.6 ＝0.276 		
数量	1	1	50	10	2	7	5	1
仕上 見込	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70
ガラス	フロート 6 d	強化 6d	フロート 5d＋A6＋フロート 5d	強化 5d＋A6＋フロート 5d	フロート 5d	腰：型板 4d 上：フロート 5d	型板 4d	フロート 6 d
建具金物	(付) (丁) (押) ドアチェック	(付) (丁) (押) 電気錠 ドアチェック	(付) (サ)	(付) (サ) 電気錠（２段開閉式）	(付) (サ)	(付) (サ)	(付) (サ)	(付) (サ) (引)
備考			網戸付	網戸付				

記号	⑯ AW	⑰ AW	⑱ AW	⑲ AW	⑳ AW	㉑ AW
姿図	有効採光面積 6×2＝12以上 アルミパネル 2d 	採光有効面積 2.25 × 4.94 ＝ 11.115 	採光有効面積 2.25 × 2.47 ＝ 5.558 		採光有効面積 5.32 × 2.36 ＝ 12.555 換気有効面積 2.36 × (1.73× 2+1.72) × 0.5＝6.112 排煙有効面積 0.46 × (1.73× 2+1.72) × 0.5＝1.19 	採光有効面積 2.36 × 1.7 × 4 ＝16.048 換気有効面積 2.36 × 1.7 × 4 × 0.5＝8.024 排煙有効面積 0.46 × 1.7 × 4 × 0.5＝1.564 
数量	1	1	1	2	4	1
仕上 見込	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70
ガラス	壁：フロート 6・8d 屋根：ﾐﾀﾞﾏ 6.8d+A 6d+ﾌﾛｰﾄ 5d アルミパネル 2d	フロート 8 d	フロート 8 d	フロート 5 d	フロート 6 d	フロート 5d
建具金物	(付)	(付)	(付)	(付) (引) (サ)	(付) (引) (サ)	(付) (引) (サ)
備考						

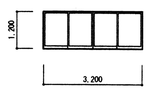
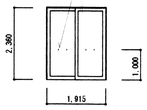
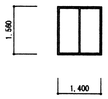
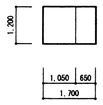
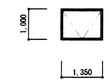
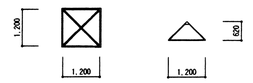
NISSOKEN ARCHITECTS / ENGINEERS

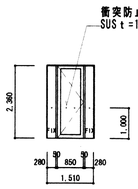
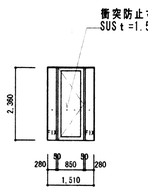
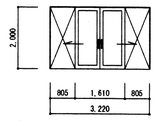
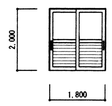
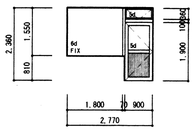
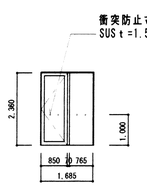
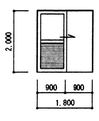
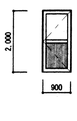
・建具金物は明記の他 各室の条件に適合する金物を取り付けのこと
○ フランス落しは、両開き扉 親子扉全て・戸当りは、開き扉全てに取り付けのこと。
○ LSD引き戸は下部レール無しとする。
○ くつずりは扉直下に取付のこと。

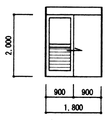
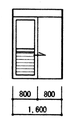
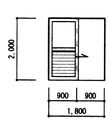
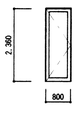
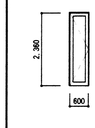
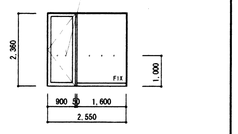
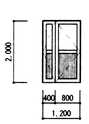
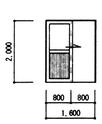
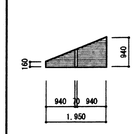
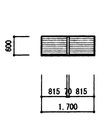
(ケ)：ケースハンドル (レ)：レバーハンドル (押)：押し棒 (付)：付属金物一式
(本)：ピンタンブラー本錠箱 (サ)：サムターン (オ)：オペレータ装置 (引)：引手金物
(煙)：煙感知器連動 (握)：握り玉 (自)：自動扉 (S)：S型レール
(締)：エアタイト締りハンドル (丁)：丁番 (表)：表示錠 (M)：M型レール

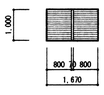
株式会社 日総建
一級建築士登録 第109407号 北川 明夫 担

計画名	養護老人ホーム静香園新築工事	検名	製作年月 / 図面番号 D-60
図面名	建具表 1	工事区分 建築	縮尺 1/100 / ファイル名 -

記号	22 AW	23 AW	24 AW	25 AW	26 AW	27 AW	28 AW	29 AW
姿図	採光有効面積 1.2 × 3.2 ＝3.84 換気有効面積 1.2 × 3.2 × 0.5 ＝1.92 排煙有効面積 0.4 × 3.2 × 0.5 ＝0.64 	排煙有効面積 0.7 × 1.9 × 0.5 ＝0.595 衝突防止ﾏｰｸ SUS t=1.5φ30 4ヶ所 	採光有効面積 1.56 × 1.4 ＝2.184 換気有効面積 1.56 × 1.4 × 0.5 ＝1.092 排煙有効面積 0.74 × 1.4 × 0.5 ＝0.518 				採光有効面積 1.0 × 1.35 × 8 ＝10.8 換気有効面積 〃 排煙有効面積 〃 	
数量	2	4	2	1	3	1	8	8
仕上 見込	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70
ガラス	フロート 5d	フロート 6d	フロート 5d	フロート 5d	型板 4d	フロート 5d	アルミパネル 2d	網入り型板 6.8d
建具金物	(付) (引) (サ)	(付) (引) (サ)	(付) (引) (サ)		(付)		(付) (オ)	(付)
備考								

記号	1 AD	2 AD	3 AD	4 AD	5 AD	6 AD	7 AD	8 AD
姿図	採光有効面積 1.2 × 2.36 ＝2.832 換気有効面積 0.85 × 2.36 ＝2.006 排煙有効面積 0.7 × 0.85 ＝0.595 衝突防止ﾏｰｸ SUS t=1.5φ30 4ヶ所 	衝突防止ﾏｰｸ SUS t=1.5φ30 4ヶ所 	 ステンレスレール	 ステンレスレール ＊有効0.05㎡ガラリ必要	換気有効面積 (1.9 + 0.36)× 0.9 ＝2.034 排煙有効面積 0.36 × 0.9 ＝0.324 	衝突防止ﾏｰｸ SUS t=1.5φ30 4ヶ所 	 ＊有効0.03㎡ガラリ必要	
数量	5	1	1	2	1	4	2	1
仕上 見込	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70
ガラス	強化 8d	強化 8d	強化 8d	強化 8d	フロート 5･6d 腰：アルミパネル	型板 6d	型板 4d 腰：アルミパネル	型板 4d 腰：アルミパネル
建具金物	(付) (本) (レ) (T) ドアチェック	(付) (本) (レ) (T) 電気錠 ドアチェック	(付) (押) フィルム張り	(付) (押) フィルム張り	(付) (本) (レ) (T) ドアチェック	(付) (本) (レ) (T) ドアチェック	(付) (引) (本) (サ)	(付) (本) (レ) (T) ドアチェック
備考								

記号	9 AD	10 AD	11 AD	12 AD	13 AD	14 AD	15 AD	16 AD	1 AG	2 AG
姿図	 ＊有効0.01㎡ガラリ必要		 ＊有効0.03㎡ガラリ必要		換気有効面積2.36×0.6=1.416 排煙有効面積0.46×0.6=0.276 	衝突防止ﾏｰｸ SUS t=1.5φ30 5ヶ所 			機械室側ＯＡ有効0.61㎡ 調理室側ＯＡ有効0.81㎡ 調理室側ＥＡ有効0.55㎡ 	
数量	3	1	1	1	1	1	1	1	4	1
仕上 見込	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70
ガラス	強化 6d	強化 6d	フロート 5d 腰：アルミパネル	強化 8d	強化 8d	強化 8d	フロート 5d 腰：アルミパネル	フロート 5d 腰：アルミパネル		
建具金物	(自) (付) ｴﾝｼﾞﾝ装置一式 ﾌｯﾄｽｲｯﾁ×2 指詰め防止ｺﾞﾑ	(自) (付) ｴﾝｼﾞﾝ装置一式 ﾌｯﾄｽｲｯﾁ×2 指詰め防止ｺﾞﾑ	(付) (引) (本) (サ)	(付) (本) (レ) (T) ﾄﾞｱﾁｪｯｸ	(付) (本) (レ) (T) ﾄﾞｱﾁｪｯｸ	(付) (本) (レ) (T) ドアチェック	(付) (本) (レ) (T) ドアチェック	(付) (引) (本) (サ)	ｽﾃﾝﾚｽ防虫網	ｽﾃﾝﾚｽ防虫網
備考	安全光線ｾﾝｻｰ（1φ100v12w）	安全光線ｾﾝｻｰ（1φ100v12w）							開放率 50%	開放率 50%

記号	3 AG	4 AG	5 AG	6 AG	7 AG	8 AG	9 AG 10 AG	11 AG	12 AG
姿図							 ※カッコ内はAG/10の寸法を示す		
数量	1	1	1	1	1	1	12・1	2	1
仕上 見込	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70	ステンカラー仕上 見込＝70
ガラス									
建具金物	ｽﾃﾝﾚｽ防虫網	ｽﾃﾝﾚｽ防虫網	ｽﾃﾝﾚｽ防虫網	ｽﾃﾝﾚｽ防虫網	ｽﾃﾝﾚｽ防虫網	ｽﾃﾝﾚｽ防虫網	ｽﾃﾝﾚｽ防虫網	ｽﾃﾝﾚｽ防虫網	ｽﾃﾝﾚｽ防虫網
備考	開放率 50%							開放率 50%	開放率 50%

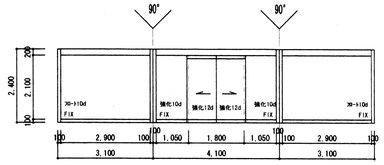
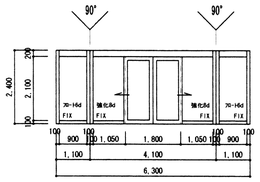
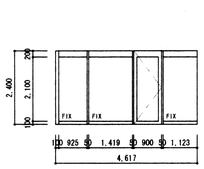
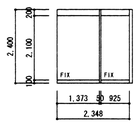
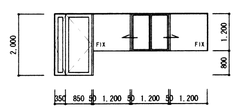
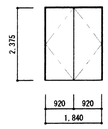
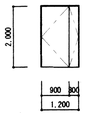
・建具金物は明記の他 各室の条件に適合する金物を取り付けのこと。
○ フランス落しは、両開き扉、親子扉全て・戸当りは、開き扉全てに取り付けのこと。
○ LSD引き戸は下部レール無しとする。
○ くつずりは扉直下に取付のこと。

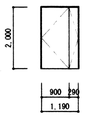
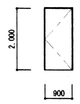
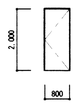
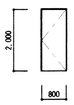
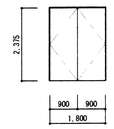
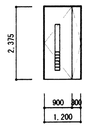
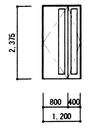
(ケ)：ケースハンドル (本)：ピンタンブラー本錠錠 (サ)：サムターン (オ)：オペレータ装置 (引)：引手金物
(煙)：煙感知器連動 (握)：握り玉 (自)：自動扉 (S)：S型レール
(締)：エアタイト締りハンドル (T)：丁番 (表)：表示錠 (M)：M型レール
(レ)：レバーハンドル (押)：押し棒 (付)：付属金物一式

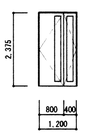
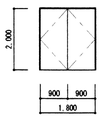
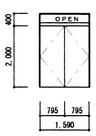
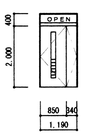
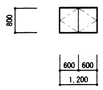
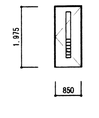
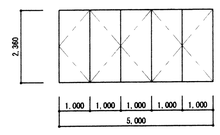
NISSOKEN ARCHITECTS / ENGINEERS

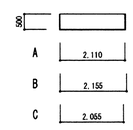
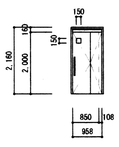
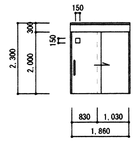
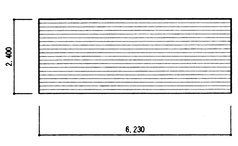
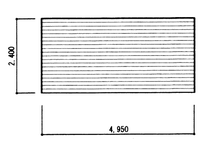
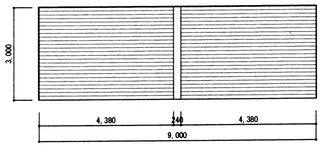
株式会社 日総建
一級建築士登録 第109497号 北川 明夫 担

計画名	養護老人ホーム静香園新築工事	縮尺	図面番号 D-61
図面名	建具表 2	工事区分 建築	縮尺 1/100 ファイル名 -

記号	1 SSD	2 SSD	1 SSW	2 SSW	3 SSW	1 SFD 特定防火設備	2 SFD 特定防火設備
姿図			排煙有効面積 0.9×0.46=0.414 				
数量	1	1	1	1	1	6	2
仕上 見込	HL 見込＝100	HL 見込＝100	HL 見込＝100	HL 見込＝100	SOP 見込＝130	SOP 見込＝120	SOP 見込＝130
ガラス	強化10・12d フロート10d	強化8d フロート6d	強化8d	強化8d	フロートガラス 5d		
建具金物	(自) (本) (サ)	(自) (本) (サ)	(本) (サ) (レ) (T) ドアチェック		(T) (レ) (本) (サ) ﾄﾞｱﾁｪｯｸ(ｽﾄｯﾌﾟﾅｼ)	(煙) (ケ) フロアヒンジ	(T) (レ) (本) (サ) ﾄﾞｱﾁｪｯｸ(ｽﾄｯﾌﾟﾅｼ)
備考	4－44－1 (1φ100ｖ20W)	4－44－1 (1φ100ｖ20W)	4－41－1 電気錠			4－46－1 扉内部：グラスウール充填	4－24－1 扉内部：グラスウール充填

記号	3 SFD 特定防火設備	4 SFD 特定防火設備	5 SFD 特定防火設備	6 SFD 特定防火設備		1 SD	2 SD	3 SD
姿図							 ＊有効0.03㎡ガラリ必要	
数量	1	1	1	6		1	1	2
仕上 見込	SOP 見込＝130	SOP 見込＝130	SOP 見込＝130	SOP 見込＝130		FE 見込＝120	FE 見込＝120	FE 見込＝120
ガラス								型板 4d
建具金物	(T) (レ) (本) (サ) ﾄﾞｱﾁｪｯｸ(ｽﾄｯﾌﾟﾅｼ)	(T) (レ) (本) (サ) ﾄﾞｱﾁｪｯｸ(ｽﾄｯﾌﾟﾅｼ)	(T) (レ) (本) (サ) ﾄﾞｱﾁｪｯｸ(ｽﾄｯﾌﾟﾅｼ)	(T) (レ) (本) (サ) ﾄﾞｱﾁｪｯｸ(ｽﾄｯﾌﾟﾅｼ)		(T) (レ) (本) (サ) ドアチェック	(T) (レ) (本) (サ) ドアチェック	(T) (レ) (本) (サ) 電気錠 ドアチェック
備考	4－24－1 扉内部：グラスウール充填	4－24－1 扉内部：グラスウール充填	4－45－1 扉内部：グラスウール充填	4－24－1 扉内部：グラスウール充填		4－44－1	4－44－1	4－41－1

記号	4 SD	5 SD	6 SD	7 SD	8 SD	9 SD	10 SD	11 SD
姿図				 ＊有効0.03㎡ガラリ必要			 ＊有効0.08㎡ガラリ必要	
数量	1	1	1	1	7	3	3	4
仕上 見込	FE 見込＝120	SOP 見込＝130	SOP 見込＝130	SOP 見込＝130	SOP 見込＝100	SOP 見込＝100	FE 見込＝100	内面：有孔化粧ボード 扉厚＝107
ガラス	型板 4d							外面：ビニルクロス貼り
建具金物	(T) (レ) (本) (サ) ドアチェック	(T) (レ) (本) (サ) ドアチェック	(T) (レ) (本) (サ) ドアチェック	(T) (レ) (本) (サ) ドアチェック	(T) (ケ)	(T) (ケ)	(T) (本) (レ)	引手 ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ 丁番 (付)
備考	4－41－1	4－45－1	4－24－1	4－24－1				扉内部：グラスウール充填

記号	12 SD A	12 SD B	12 SD C	13 SD	1 LSD	2 LSD	1 SS	3 SS	2 SS
姿図					 ＊有効0.01㎡ガラリ必要 ＊脱衣WCのみ有効0.02㎡ガラリ必要	 ＊有効0.02㎡ガラリ必要			
数量	A1 B1 C1	2	32	2	1	1	1	1
仕上 見込	焼付塗装 見込＝130	FE 見込＝100	焼付塗装 見込＝130	焼付塗装 見込＝130	焼付塗装 ｽﾗｯﾄ：1.6	焼付塗装 ｽﾗｯﾄ：1.6	焼付塗装 ｽﾗｯﾄ：1.6	
ガラス			型板 4d	型板 4d				
建具金物	(付) (煙)	(T) (本)	(付) (押) (表)	(付) (押) (表)	エﾝｼﾞﾝ ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ ﾘﾓｺﾝ 障害物検知装置 SUS付属金物	エﾝｼﾞﾝ ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ ﾘﾓｺﾝ 障害物検知装置 SUS付属金物	エﾝｼﾞﾝ ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ ﾘﾓｺﾝ 障害物検知装置 SUS付属金物	
備考	90° 回転型防煙下がり壁				電動重量シャッター (3φ200v0.13kW)	電動重量シャッター (3φ200v0.13kW)	電動重量シャッター (3φ200v0.2kW)	

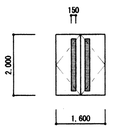
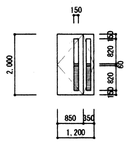
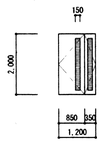
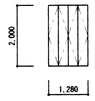
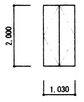
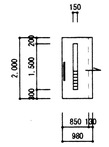
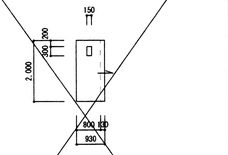
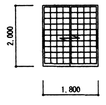
・建具金物は明記の他 各室の条件に適合する金物を取り付けのこと。
○ フランス落しは、両開き扉、親子扉全て・戸当りは、開き扉全てに取り付けのこと。
○ LSD引き戸は下部レール無しとする。
○ くつずりは扉直下に取付のこと。

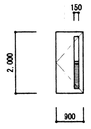
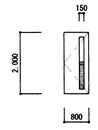
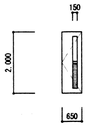
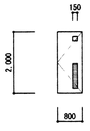
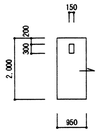
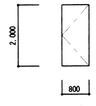
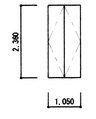
(ケ)：ケースハンドル (レ)：レバーハンドル (押)：押し棒 (付)：付属金物一式
(本)：ピンタンブラー本錠 (サ)：サムターン (オ)：オペレータ装置 (引)：引手金物
(煙)：煙感知器連動 (握)：握り玉 (自)：自動扉 (S)：S型レール
(錠)：エアタイト錠りハンドル (T)：丁番 (表)：表示錠 (M)：M型レール

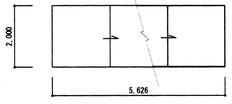
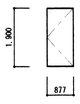
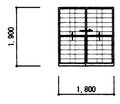
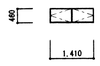
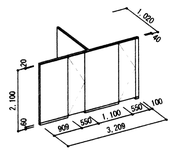
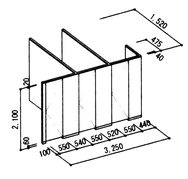
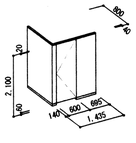
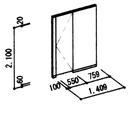
NISSOKEN ARCHITECTS / ENGINEERS

株式会社 日総建
一級建築士登録 第109497号
北川 昭夫 担

計画名	養護老人ホーム静香園新築工事
図面名	建具表3
棟名	
工事区分	建築
製作年月	
縮尺	1/100
図面番号	D-62
ファイル名	-

記号	1 WD	2 WD	3 WD	4 WD	5 WD	6 WD	7 WD	8 WD
姿図						 ＊有効0.02㎡ガラリ必要 ＊静養室のみ有効0.05㎡ガラリ必要		
数量	1	4	1	1	1	61	60	2
仕上　見込	メラミン化粧合板 | 扉厚＝40	メラミン化粧合板 | 扉厚＝40	メラミン化粧合板 | 扉厚＝40	メラミン化粧合板 | 扉厚＝40	メラミン化粧合板 | 扉厚＝40	メラミン化粧合板 | 扉厚＝40	メラミン化粧合板 | 扉厚＝40	杉 | 扉厚＝40
ガラス		型板 4d				型板 4d	型板 4d	アクリワーロン 2d
建具金物	レ 本 T サ	レ 本 T サ	レ 本 T サ	引 M	引 T	押 M	引 M	押 M
備考								

記号	9 WD	10 WD	11 WD	12 WD	13 WD	14 WD	15 WD	16 WD
姿図			 ＊有効0.06㎡ガラリ必要					
数量	60	5	4	1	1	1	1	4
仕上　見込	メラミン化粧合板 | 扉厚＝40	メラミン化粧合板 | 扉厚＝40	メラミン化粧合板 | 扉厚＝40	メラミン化粧合板 | 扉厚＝40	メラミン化粧合板 | 扉厚＝40	メラミン化粧合板 | 扉厚＝40	内面：有孔化粧ボード | 扉厚＝40	メラミン化粧合板 | 扉厚＝40
ガラス		型板 4d	型板 4d	型板 4d	型板 4d	型板 4d	外面：メラミン化粧合板	
建具金物	引 T	レ 本 T サ	レ 本 T サ	レ 本 T サ	レ 表 T サ	引 M	レ 本 T サ	レ T
備考								

記号	17 WD	18 WD	19 WD	20 WD				
姿図								
数量	1	1	2	1				
仕上　見込	メラミン化粧合板（廊下面）　扉厚＝40	新鳥の子（室内面）　扉厚＝30	扉厚＝35	新鳥の子（室内面）　扉厚＝30				
ガラス	新鳥の子（室内面）		障子紙					
建具金物			雪見障子		引 M	引	引 M	
備考								
記号					1 T8	2 T8	3 T8	4 T8
姿図								
数量					1	1	1	1
仕上　見込					メラミン化粧合板 | 40	メラミン化粧合板 | 40	メラミン化粧合板 | 40	メラミン化粧合板 | 40
ガラス								
建具金物					表 付 ﾗﾊﾞﾄﾋﾝｼﾞ　戸当たり　帽子掛け	表 付 ﾗﾊﾞﾄﾋﾝｼﾞ　戸当たり　帽子掛け	付 ﾗﾊﾞﾄﾋﾝｼﾞ　戸当たり	表 付 ﾗﾊﾞﾄﾋﾝｼﾞ　戸当たり　帽子掛け
備考					巾木　頭継ぎ　SUS 304 HL	巾木　頭継ぎ　SUS 304 HL	巾木　頭継ぎ　SUS 304 HL	巾木　頭継ぎ　SUS 304 HL

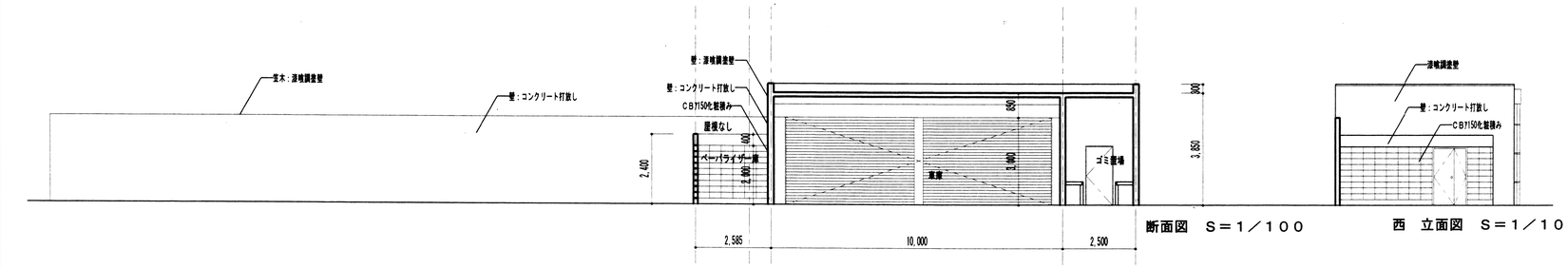
・建具金物は明記の他　各室の条件に適合する金物を取り付けのこと。
○ フランス落しは、両開き扉、親子扉全て・戸当りは、開き扉全てに取り付けのこと。
○ LSD引き戸は下部レール無しとする。
○ くつずりは扉直下に取付のこと。

(ケ)：ケースハンドル　(本)：ピンタンブラー本締錠　(煙)：煙感知器連動　(締)：エアタイト締りハンドル
(レ)：レバーハンドル　(サ)：サムターン　(握)：握り玉　(丁)：丁番
(押)：押し棒　(オ)：オペレータ装置　(自)：自動扉　(表)：表示錠
(付)：付属金物一式　(引)：引手金物　(S)：S型レール　(M)：M型レール

NISSOKEN ARCHITECTS / ENGINEERS

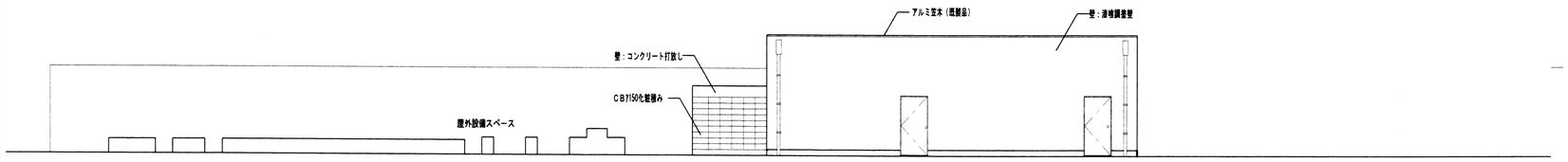
株式会社 日総建
一級建築士登録 第109497号
北川 昭夫

計画名：養護老人ホーム静香園新築工事
図面名：建具表 4
種名：
工事区分：建築
製作年月：
縮　尺：1/100
図面番号：D-63
ファイル名：-

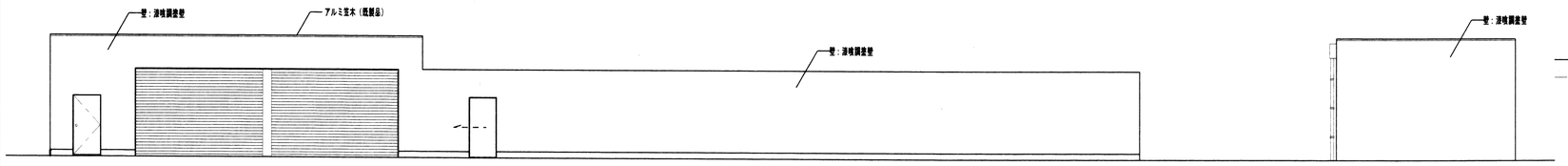


断面図　S＝1／100

西　立面図　S＝1／100

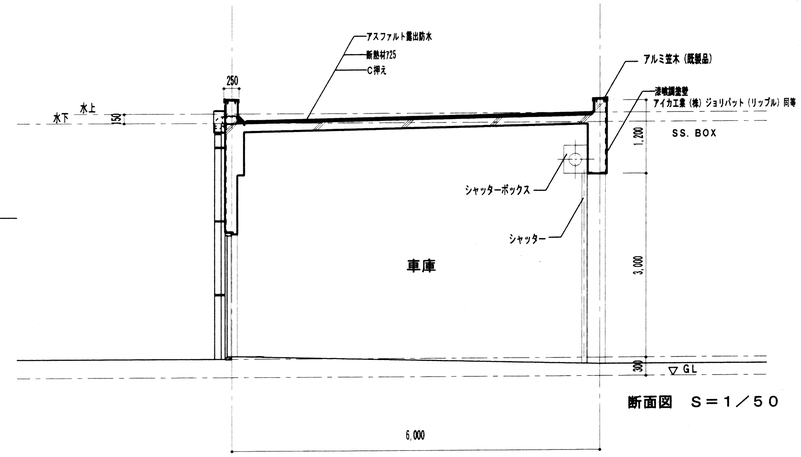


南　立面図　S＝1／100

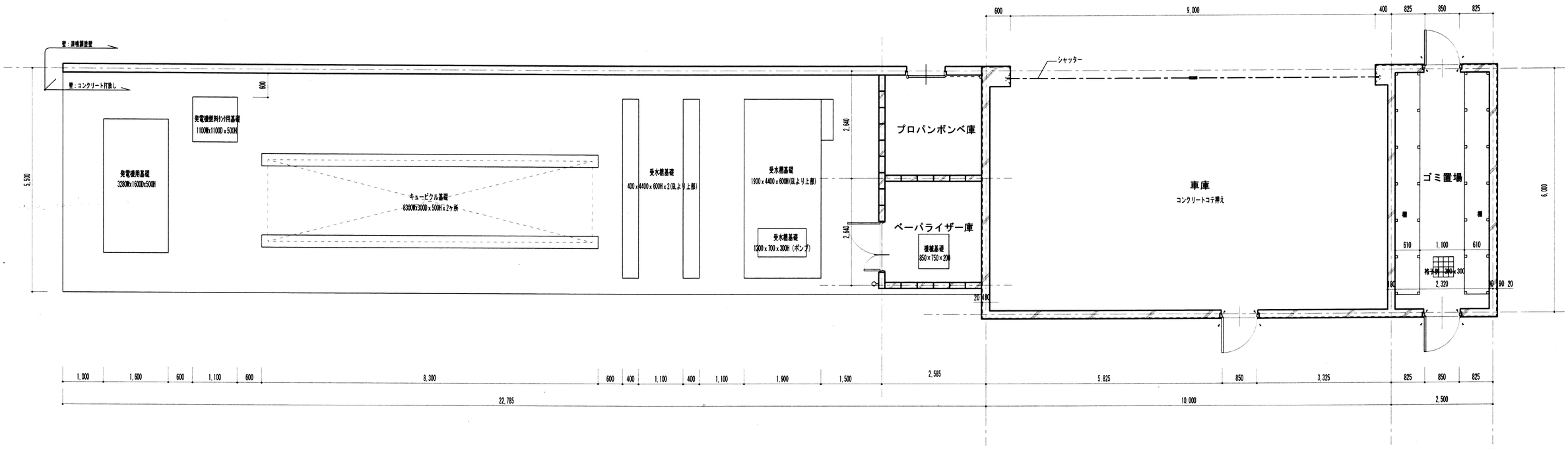


北　立面図　S＝1／100

東　立面図　S＝1／100

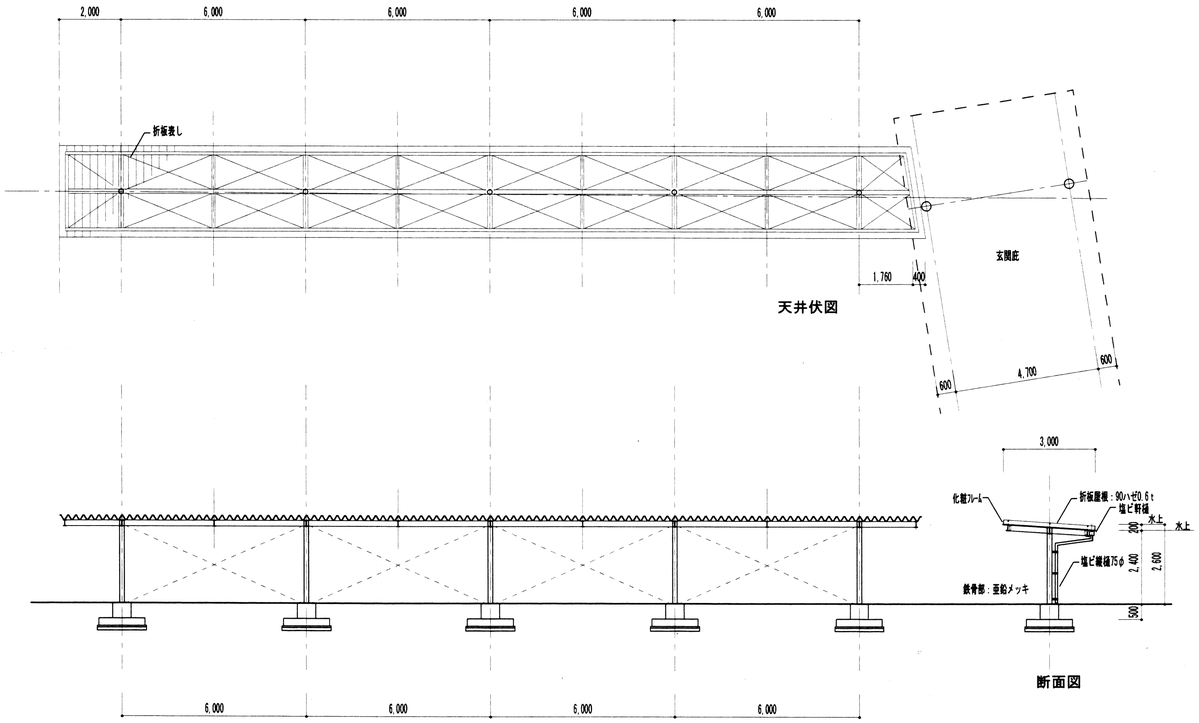


断面図　S＝1／50

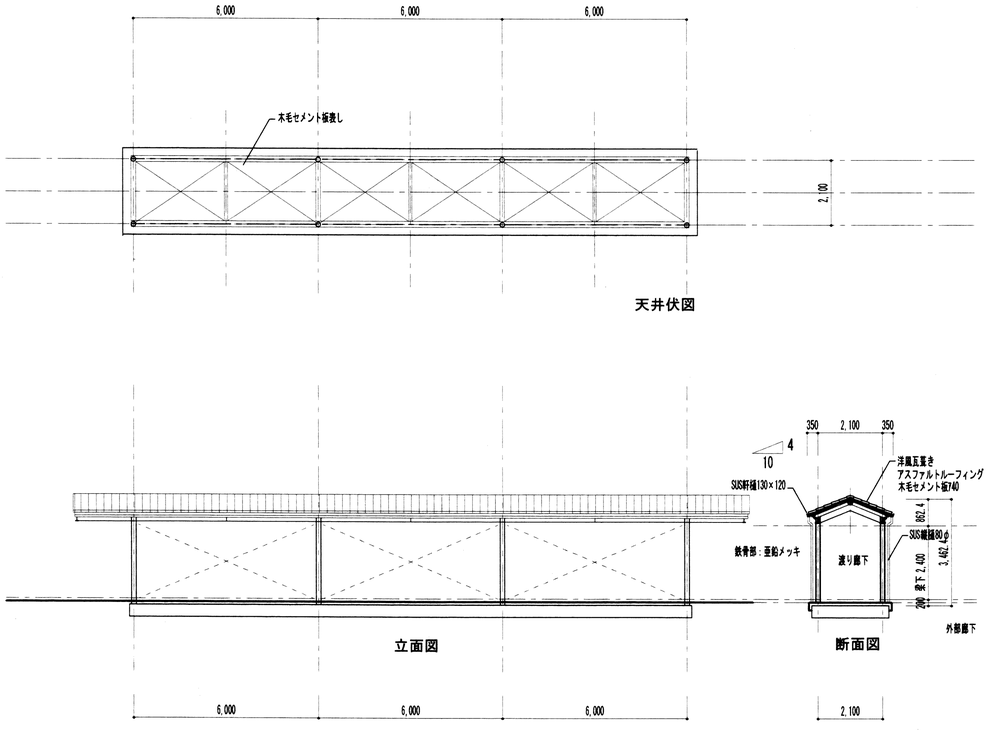


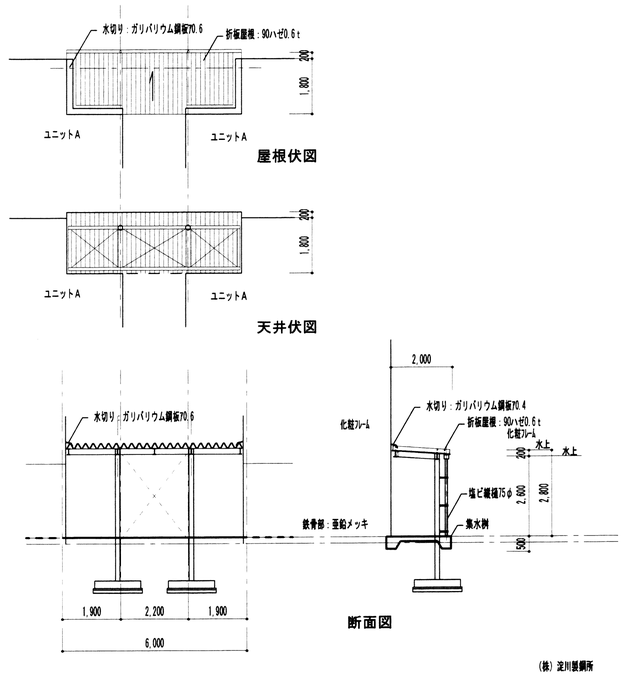
平面詳細図　S＝1／50

NISSOKEN ARCHITECTS / ENGINEERS	株式会社 日総建 一級建築士登録 第109497号 北川 明夫	計画名 養護老人ホーム静香園新築工事	縮尺	図面番号 D-66
		図面名 車庫棟	工事区分 建築	縮尺 1/100・1/50　ファイル名 -



（株）淀川製鋼所
ヨドルーフ90ハゼ
ハイブリッドGL同等品



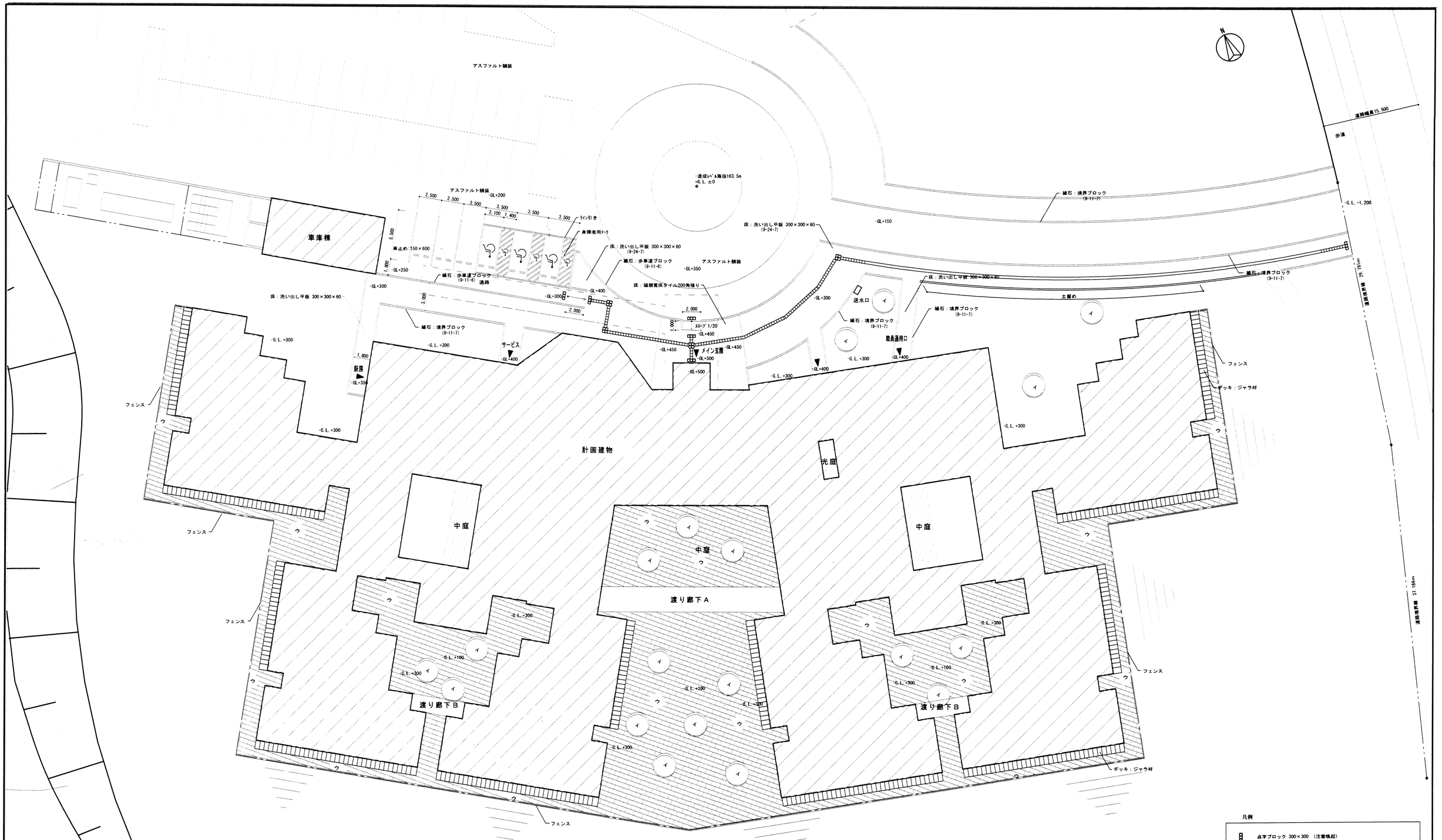


（株）淀川製鋼所
ヨドルーフ90ハゼ
ハイブリッドGL同等品

NISSOKEN
ARCHITECTS / ENGINEERS

株式会社 日総建
一級建築士登録 第109497号
北川 昭夫

計画名 養護老人ホーム静香園新築工事
図面名 渡り廊下図
様名
工事区分 建築
製作年月
縮尺 1/100
図面番号 D-67
ファイル名 -



凡例

点字ブロック 300×300 (注意喚起)

点字ブロック 300×300 (一般)

記号	名称	規格 H	規格 W	数量	支柱様式
ア	ｼﾗｶｼﾌｼﾞ	3.0	1.0	16本	二脚鳥居支柱
イ	ｻﾂｷﾏﾂﾊﾞ	0.4	0.4	171本 (9本／m²)	
	ｴﾒﾄｳｼﾊﾞ			1,400 m²	
	ﾜﾀ			62.81m²	

NISSOKEN ARCHITECTS / ENGINEERS

株式会社 日総建
一級建築士登録 第109497号
北川 昭夫

計画名 養護老人ホーム静香園新築工事

図面名 外構配置図

工事区分 外構

縮尺 1/200

図面番号 G-8

ファイル名 -

配 筋 要 領 図

1. 材　　料

鉄筋は表 5.2.1 により、種類の記号は特記による。

表5.2.1　鉄　筋

規格番号	規 格 名 称	種 類 の 記 号
JIS G 3112	鉄筋コンクリート用棒鋼	SR235, SR295
		SD295A, SD295B, SD345, SD390
JIS G 3117	鉄筋コンクリート用再生棒鋼	SDR295, SDR345

溶接金網はJIS G 3551（溶接金網）により、網目の形状、寸法及び鉄線の径は特記による。

2. 一 般 事 項

(c)　鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧接継手又は特殊な鉄筋継手（建築基準法施行令第73条第5項の規定に適合するもの。）とし、適用は特記による。特記がなければ、鉄筋の種類に応じた継手工法は、表 5.3.1 による。

表5.3.1　鉄筋の種類に応じた継手工法

種類の記号	適用径の範囲	
	重ね継手	ガス圧接継手
SD295A	D16以下	———
SD295B SD345 SD390	原則として、D16以下とする。ただし、基礎、耐圧板、土圧壁等の大断面部材の場合は、D25以下とする。また、場所打ちコンクリート杭の場合は、D32以下とする。	D19以上

(i)　鉄筋の末端部には、次の場合にフックをつける。
(1)　柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合（図5.3.1(a) の●印で示す鉄筋）。
(2)　梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合（図5.3.1(b) の●印で示す鉄筋）。ただし、基礎梁を除く。

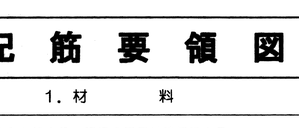


図5.3.1

(3)　煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む。）。
(4)　杭基礎のベース筋。
(5)　帯筋、あばら筋及び幅止め筋。
(k)　鉄筋の折曲げは、表 5.3.2 及び表 5.3.3 による。

表5.3.2　鉄筋の折曲げ（末端部）

折曲げ角度	折 曲 げ 図		SD295A, SD295B SD345 SDR295, SDR345 D16以下	SD295A, SD295B SD345 SDR295, SDR345 D19~D38	SD390 D10~D38	使 用 箇 所
180°		D	3d以上	4d以上	5d以上	柱、梁の主筋 杭基礎のベース筋 D16以上の鉄筋
135°		D	3d以上	4d以上	5d以上	あばら筋、帯筋、 スパイラル筋 D13以下の鉄筋
90°		D	3d以上	4d以上	5d以上	T形及びL形の 梁のあばら筋
135° 及び 90°		D	3d以上	4d以上	5d以上	幅止め筋

（注）Dは、曲げ内法直径を示す。

表5.3.3　鉄筋の折曲げ（中間部）

折曲げ角度	折 曲 げ 図		SD295A, SD295B SD345, SD390 SDR295, SDR345 D16以下	D19~D25	D29~D38	使 用 箇 所
90°以下		D	3d以上	4d以上	———	あばら筋、帯筋、 スパイラル筋
		D	4d以上	6d以上	8d以上	その他の鉄筋

（注）Dは、曲げ内法直径を示す。

(j)　重ね継手及び定着の長さは、次による。
なお、径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
(1)　鉄筋の重ね継手及び定着の長さは、表 5.3.4 による。
なお、この表はコンクリートの設計基準強度(Fc) が210kg/cm²以上270kg/cm²未満の場合に適用し、Fc が180kg/cm²の場合は、L1 及びL2 のみは、表 5.3.4 の値に5dを加えたものとする。

表5.3.4　鉄筋の重ね継手及び定着の長さ

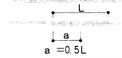
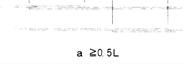
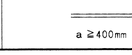
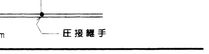
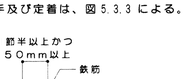
鉄筋の種類	フック なし L1	フック なし L2	フック なし L3 小梁	フック なし L3 スラブ	フック あり L1	フック あり L2	フック あり L3 小梁	フック あり L3 スラブ
SD295A SD295B SD345 SDR295 SDR345	40d	35d	25d	10d かつ 150mm 以上	30d	25d	15d	———
SD390	45d	40d	25d	10d かつ 150mm 以上	35d	30d	15d	———

（注）　1.　L1：継手並びに2、及び3、以外の定着長さ。
2.　L2：割裂破壊のおそれのない箇所への定着長さ。
3.　L3：小梁及びスラブの下端筋の定着長さ。ただし、基礎耐圧版、これを受ける小梁は除く。
4.　フックのある場合のL1, L2及びL3は、図5.3.2 に示すようにフック部分1を含まない。

図5.3.2

(2)　隣合う継手の位置は、表 5.3.5 による。ただし、スラブ及び壁の場合でD16 以下は除く。
なお、先組み工法等で、柱、梁の主筋の継手を同一箇所に設ける場合は、特記による。

表5.3.5　隣合う継手の位置

フックのある場合	 a =0.5L	 a ≧0.5L
フックのない場合	 a =0.5L	 a ≧0.5L
圧接継手の場合	 a ≧400mm 圧接継手	

(3)　溶接金網の継手及び定着は、図 5.3.3 による。

図5.3.3

(4)　スパイラル筋の継手及び定着は、図 5.3.4 による。

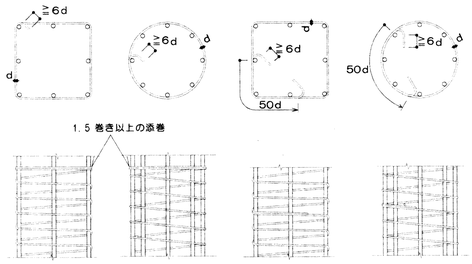


図5.3.4

表5.3.6　鉄筋の最小かぶり厚さ　（単位：mm）

構造部分の種別				最小かぶり厚さ
土に接しない部分	スラブ，耐力壁以外の壁	仕上げあり		20
		仕上げなし		30
	柱，梁，耐力壁	屋内	仕上げあり	30
			仕上げなし	30
		屋外	仕上げあり	30
			仕上げなし	40
	擁壁，耐圧スラブ			40
土に接する部分	柱，梁，スラブ，壁			*40
	基礎，擁壁，耐圧スラブ			*60
煙突等高熱を受ける部分				60

（注）　1.　＊印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は、特記による。

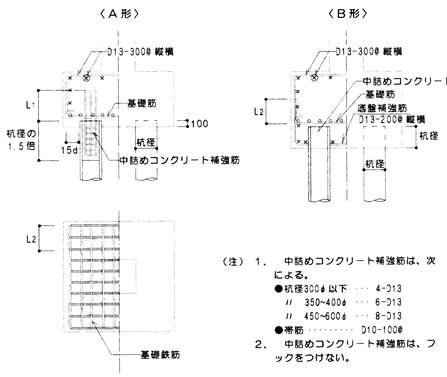
(d)　鉄筋相互のあきは図 5.3.5 により、次の値のうち最大のもの以上とする。ただし、特殊な鉄筋継手の場合のあきは、特記による。
(1)　粗骨材の最大寸法の1.25倍
(2)　25mm
(3)　鉄筋の径（呼び名に用いた数値ｄ）の 1.5 倍

図5.3.5

(e)　鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは、(d)による。

3. 基礎・基礎梁

杭基礎の配筋及び杭頭補強の方法は、次による。
(1)　既製コンクリート杭の杭頭補強の方法は、図 5.4.1 のA形又はB形とし、適用は特記による。特記がなければ、B形とする。
(2)　中詰めコンクリートは、基礎のコンクリートと同じ調合のコンクリートを使用する。
(3)　既製コンクリート杭以外の場合は、特記による。



（注）　1.　中詰めコンクリート補強筋は、次による。
●杭径300φ以下 ・・・ 4-D13
〃 350~400φ ・・・ 6-D13
〃 450~600φ ・・・ 8-D13
●帯筋 ・・・・・・・・ D10-100@
2.　中詰めコンクリート補強筋は、フックをつけない。

図5.4.1

(a)　直接基礎（独立基礎）の場合の配筋は、図 5.4.2 による。

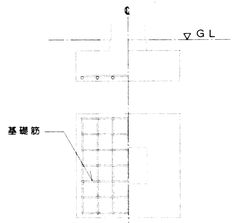


図5.4.2

(a)　直接基礎（連続基礎）の場合の配筋は、図 5.4.3 による。

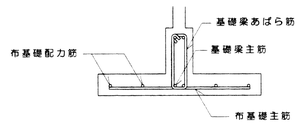


図5.4.3

基礎接合部の補強は、図 5.4.4 による。

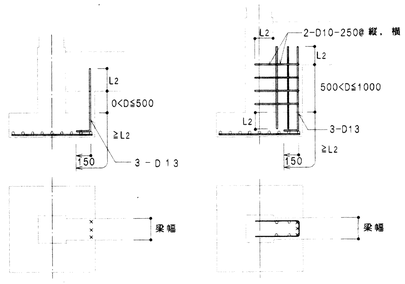


図5.4.4

(a)　一般事項
(1)　上端主筋の定着は、やむを得ない場合、上向きとすることができる。
(2)　梁筋は、原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、図 5.4.5 による。
(3)　梁筋を柱内に定着する場合は、梁筋は柱の中心軸を越えてから定着する。

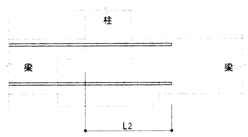
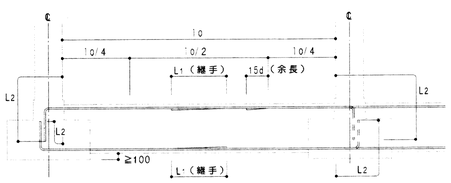


図5.4.5

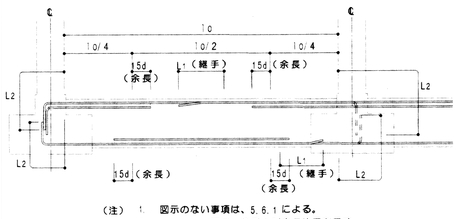
(b)　基礎梁にスラブがつかない独立基礎の場合の主筋の継手及び定着は、図 5.4.6 による。



（注）　1.　図示のない事項は、5.6.1 による。
2.　═══ 印は、継手及び余長位置を示す。
3.　破線は、柱内定着の場合を示す。

図5.4.6

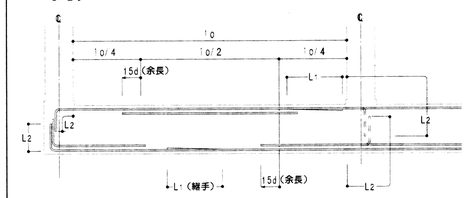
(c)　基礎梁にスラブがつく独立基礎の場合の主筋の継手及び定着は、図 5.4.7 による。ただし、耐圧スラブがつく場合は、(d)による。



（注）　1.　図示のない事項は、5.6.1 による。
2.　═══ 印は、継手及び余長位置を示す。
3.　破線は、柱内定着の場合を示す。

図5.4.7

(d)　連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手及び定着は、図 5.4.8 による。



（注）　1.　図示のない事項は、5.6.1 による。
2.　═══ 印は、継手及び余長位置を示す。
3.　破線は、柱内定着の場合を示す。

図5.4.8

(a)　あばら筋
(1)　あばら筋の径及び間隔は、特記による。
(2)　あばら筋組立ての形及びフックの位置は 5.6.2 による。ただし、梁せいが1.5m以上の場合は、図 5.4.9 によることができる。



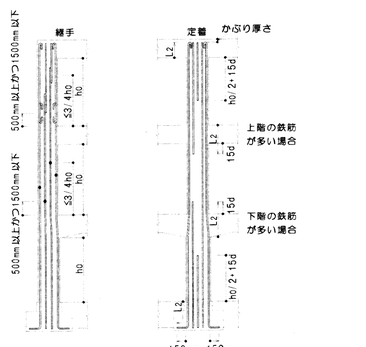
図5.4.9

(b)　腹筋及び幅止め筋は、5.6.2(a)(2),(3)及び5.6.2(d) による。ただし、梁せいが1.5m以上の場合は、特記による。
(c)　あばら筋の割付けは、5.6.2(c) による。

(a)　打増し補強筋は、5.6.3 による。
(c)　土間スラブ等の打継ぎ補強筋は、5.8.3(c)及び(d)による。

4. 柱

柱主筋の継手及び定着は、次による。
(1)　継手及び圧接中心位置は、梁上端から500mm 以上、1500mm以下、かつ、3/4 hc（hc は柱の内のり高さ）以下とする。
(2)　重ね継手長さはL1 とし、定着及び余長は図 5.5.1 による。ただし、柱頭定着長さL2 が確保できない場合は、特記による。



（注）　1.　5.3.1(j)(1)で定めた鉄筋には、フックをつける。
2.　隣合う継手の位置は、表5.3.5 による。
3.　継手、定着は、すべての箇に適用できる。

図5.5.1

(a) 帯筋の種類及び間隔は、特記による。
(c) 帯筋組立ての形は図 5.5.2 により、適用は特記による。特記がなければ、次による。
(1) H形とする。
(2) H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W－Ⅰ形とする。
(3) (1)又は(2)が困難な箇所は、監督職員の承諾を受けて、W－Ⅱ形とすることができる。
(4) 溶接する場合の溶接長さLは、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は 10d 以上とする。

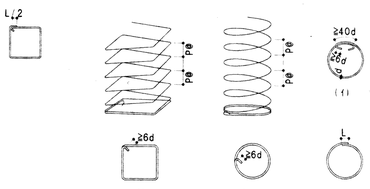
① H形



② W－Ⅰ形
(注) 溶接は、鉄筋の組立て前に行う。



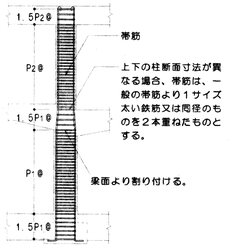
③ W－Ⅱ形　④ SP形（スパイラル筋）　⑤ 丸形



(注) SP形において、柱頭及び柱脚の端部は、1.5巻以上の添巻きを行う。

図 5.5.2　帯筋の形

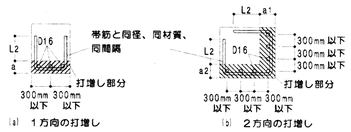
(c) フック及び継手の位置は、交互とする。
(d) 帯筋の割付けは、図 5.5.3 による。



(注) 1. 図示のない事項については、一般の場合に同じ。
2. 柱に取り付く梁に段差がある場合、帯筋の間隔φ、5P1φ又は、5P2φとする範囲は、その柱に取り付くすべての梁を考慮して適用する。
なお、P1φ,P2φは、特記された帯筋の間隔を示す。

図 5.5.3

(a) 柱の打増しは図 5.5.4 により、打増し幅が70mm以上、 200mm 以下の場合に適用する。 200mm を超える場合は、特記による。
(c) 梁及び耐力壁の鉄筋の定着長さは、打増し部分を除いて算定する。

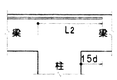


(70mm≦a1,a2≦200mm の場合)

図 5.5.4　柱の打増し補強

5. 大　梁

(a) 大梁主筋の継手及び定着の一般事項
(1) 継手及び圧接中心位置は、次による。
上端筋：中央lo/2以内
下端筋：柱面より梁せいD以上離し、lo/4以内
(2) 継手長さはL1とし、定着長さ及び余長は図 5.6.3 及び図 5.6.4 による。
(3) 梁主筋は、原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着することができる。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、図5.6.1 による。



(注) 上階に柱がある場合の定着長さはL2とし、15d は必要ないものとする。

図 5.6.1

(4) 梁主筋を柱内に定着する場合は、柱の中心軸を越えてから縦に降ろす。ただし、梁せいや柱断面が大きい場合等には、監督職員の承諾を受けて、曲上げとすることができる。
(5) 梁にハンチをつける場合、その傾斜は特記による。特記がなければ、1：4とする。
(6) 段違い梁は、監督職員の承諾を受けて、図 5.6.2 によることができる。



吉上げ筋は、一般のあばら筋より1サイズ太い鉄筋又は同径のものを2本重ねたものとする。

図 5.6.2

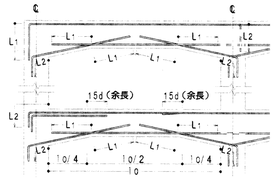
(a) ハンチのない場合の重ね継手及び定着は、図 5.6.3 による。



(注) 1. 5.3.1(1)(2)で定めた鉄筋には、フックをつける。
2. ═══ 印は、継手及び余長を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。

図 5.6.3

(c) ハンチのある場合の定着は、図 5.6.4 による。



(注) 1. 5.3.1(1)(2)で定めた鉄筋には、フックをつける。
2. ═══ 印は、継手及び余長を示す。
3. 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、＝＝＝＝ のように引き通すことができる。
4. 破線は、柱内定着を示す。

図 5.6.4

(a) あばら筋、腹筋及び幅止め筋の一般事項
(1) あばら筋の種類、径及び間隔は、特記による。
(2) 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10-1,000φ 程度とする。
(3) 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、 150mm 程度とする。
(4) 壁梁の場合、腹筋の定着長さ及び継手長さは、特記による。特記がなければL2とする。
(b) あばら筋組立ての形及びフックの位置
(1) 形は、図5.6.5(イ)とする。ただし、L 形梁の場合は、(ロ)又は(ハ)、T 形梁の場合は(ロ)～(ニ)とすることができる。

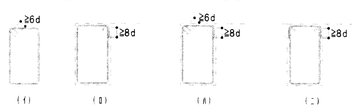
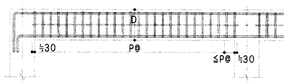


図 5.6.5

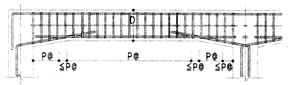
(2) フックの位置は、(イ)の場合は交互とし、(ロ)の場合は、L 形ではスラブのつく側、T 形では交互とする。
なお、(ハ)の場合は、スラブのつく側を 90° 折曲げとする。
(c) あばら筋の割付け
(1) 間隔が一様で、ハンチのない場合は、図 5.6.6 による。



(注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2. 図中のPφは、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図 5.6.6

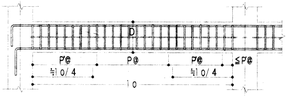
(2) 間隔が一様で、ハンチのある場合は、図 5.6.7 による。



(注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2. 図中のPφは、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図 5.6.7

(3) 梁の端部で間隔の異なる場合は、図 5.6.8 による。



(注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2. 図中のPφ、P'φは、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図 5.6.8

(d) 腹筋及び幅止め筋
(1) 一般の梁は、図 5.6.9 による。

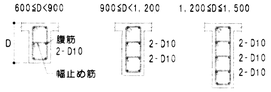


図 5.6.9

(2) 壁梁の場合は、図5.6.10による。

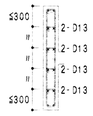
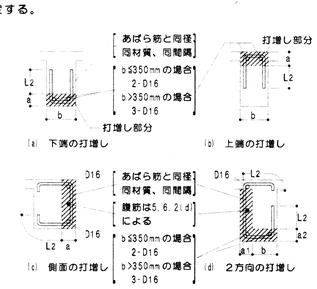


図 5.6.10

梁の打増しは図 5.6.11により、打増し幅が70mm以上、 200mm 以下の場合に適用する。 200mm を超える場合は、特記による。
なお、小梁、耐力壁及びスラブの鉄筋の定着長さは、打増し部分を除いて算定する。

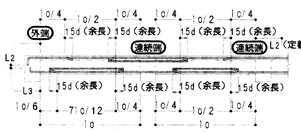


(70mm≦a1,a2≦200mm の場合)

図 5.6.11　梁の打増し補強

6. 小梁・片持ち梁

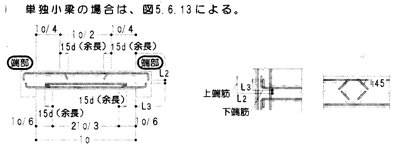
(a) 小梁主筋の継手及び定着
(1) 連続小梁の場合は、図5.6.12による。



(注) 1 ═══ 印は、余長位置を示す。
2 図示のない事項は、5.4.4 及び5.6.1 による。

図 5.6.12

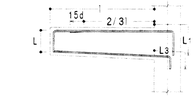
(2) 単独小梁の場合は、図5.6.13による。



(注) 1 ═══ 印は、余長位置を示す。
2 図示のない事項は、5.4.4 及び5.6.1 による。

図 5.6.13

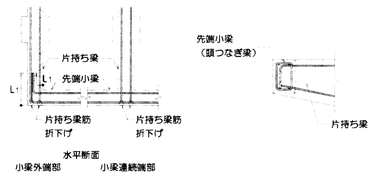
(a) 片持ち梁主筋の定着
(1) 先端に小梁のない場合は、図5.6.14による。



(注) 1. 図示のない事項は、5.6.1 による。
2. ═══ 印は、余長を示す。
3. 先端の折曲げの長さLは、梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。
4. 梁筋を引き通さない場合は、取合い部材に定着する。ただし、柱に取合う場合は、全数引き通せる場合でも、上端筋は、2本以上を柱に定着する。

図 5.6.14

(2) 先端に小梁がある場合は、図5.6.15による。

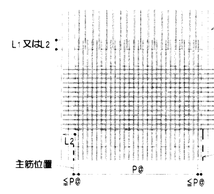


(注) 1. 図示のない場合は、(1)による。
2. 先端小梁終端部の主筋は、片持ち梁内に水平定着する。
3. 先端小梁の連続端は、片持ち梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

図 5.6.15

7. 壁

(a) 一般事項
(1) 壁配筋の重ね継手及び定着の長さは、L2とする。
(2) 土圧等を受ける壁及び耐震壁として特記されたものは、重ね継手長さをL1、定着長さをL2とする。
(3) 重ね継手及び定着長さがとれない場合は、監督職員の承諾を受けて、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は 10d 以上とすることができる。
(4) 幅止め筋は、縦、横ともD10-1,000φ程度とする。
(5) 一般部壁筋の配筋は、図 5.7.1 による。



(注) Pφは、壁筋の間隔を示す。

図 5.7.1

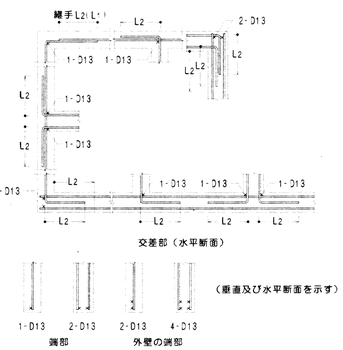
(c) 片持ちスラブ形階段を受ける壁の基準配筋は表 5.7.2 により、種別は特記による。

表 5.7.2

種別	縦筋及び横筋		断面図	階段の配筋種別（表5.9.1）
KW1	縦筋	D13-200φ ダブル	180	KA1
	横筋	D10-200φ ダブル		KA3
KW2	縦筋	D13-150φ ダブル	200	KA2
	横筋	D10-200φ ダブル		KA4

(注) 縦筋は、横筋の外側に配筋する。

(d) 交差部及び端部の配筋は、図 5.7.2 による。



(注) ( ) 内は、5.7.1(a)(2)による継手長さを示す。

図 5.7.2

(2) 壁開口部補強の定着長さは、図 5.7.3 による。

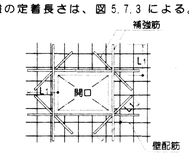


図 5.7.3

(3) 開口部が柱及び梁に接する部分又は最大径が 300mm 以下で鉄筋を緩やかに曲げることにより開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
(a) コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、特記による。
(c) 壁の打増し補強筋
壁の打増し補強筋は図 5.7.4 により、打増し厚さが50mm以上、200mm以下に適用する。 200mm を超える場合は、特記による。

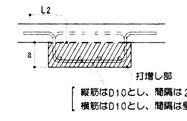


図 5.7.4

8. スラブ

(4) 定着長さ及び受け筋は、図 5.8.2 による。ただし、引き通すことができない場合は、図 5.8.3 により梁内に定着する。

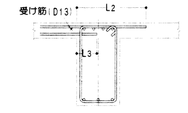


図 5.8.2

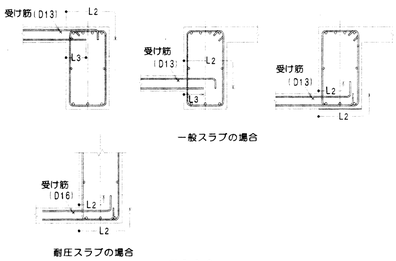
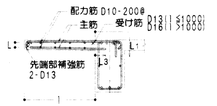


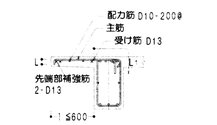
図 5.8.3

(1) 片持ちスラブの基準配筋（CS形基準配筋）



(注) 1 先端の折曲げ長さLは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。
2 スラブに段差のない場合は、主筋を引き通してスラブに定着してもよい。

図 5.8.4　CS形基準配筋図（その1）



(注) 1 先端の折曲げ長さLは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。
2 スラブに段差のない場合は、主筋を引き通してスラブに定着してもよい。

図 5.8.5　CS形基準配筋図（その2）

(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図 5.8.6 による。

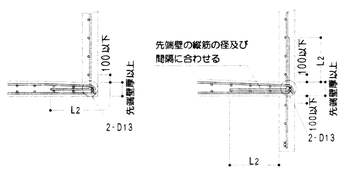


図 5.8.6

(3) 出隅部

(i) 補強の配筋は、特記による。特記がなければ、D10-100φダブルとする。配筋方法は、図5.8.7による。

(ii) 出隅受け部（図5.8.7の斜線部分）の補強筋は、特記による。

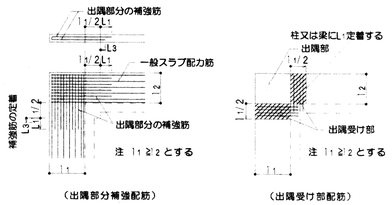


図5.8.7

(4) スラブ開口部の補強

スラブ開口部の補強は、特記による。特記がなければ、次による。

(i) スラブ開口の最大径が700mm以下の場合は、図5.8.8により開口によってつられる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D10(l1=2L1) シングルを上下筋の内側に配筋する。

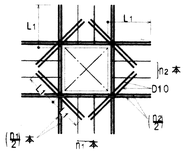


図5.8.8

(ii) スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

(5) 屋根スラブの補強

屋根スラブの出隅及び入隅部分には、図5.8.9により、補強筋を上端筋の下側に配置する。

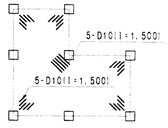


図5.8.9

(6) 土間スラブの打継ぎ補強

基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強は、特記による。特記がなければ、図5.8.10による。ただし、土間スラブとは、土に接するスラブでS形の配筋によるものをいう。

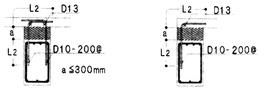


図5.8.10

(7) 土間コンクリートの補強

土間コンクリートの補強筋は、特記による。

なお、基礎梁との接合部は、図5.8.11による。

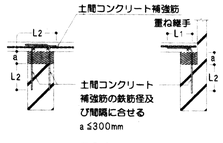
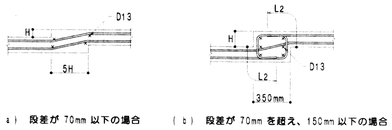


図5.8.11

(8) 段差のあるスラブの補強

150mm 以下の段差のあるスラブの補強は、図5.8.12による。



(a) 段差が70mm以下の場合　(b) 段差が70mmを超え、150mm以下の場合

図5.8.12

9. 階　段

片持ちスラブ形階段の基準配筋は、表5.9.1及び図5.9.1により、寸法及び配筋種別は、特記による。

表5.9.1　片持ちスラブ形基準配筋

配筋種別	KA1	KA2
配筋図	D13 D13 D10-300φ D10-300φ 120	2-D13 D13 D10-300φ D10-300φ 120
配筋種別	KA3	KA4
配筋図	D10-300φ 120 120 D13 D13	D10-300φ 120 120 D13 2-D13

（注）1. 壁配筋は、5.6.1(c)による。
2. 階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に諸ろす。
3. スラブ配力筋の継手及び定着の長さは、L3とする。

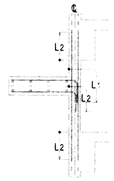


図5.9.1

二辺固定スラブ形階段の基準配筋は表5.9.2並びに図5.9.2及び図5.9.3により、寸法及び配筋種別は特記による。

表5.9.2　二辺固定スラブ形基準配筋

配筋種別	スラブ厚さt(mm)	上端筋、下端筋共　全域
KB1	150	D13-200φ
KB2	150	D13-150φ
KB3	150	D13-100φ
KB4	180	D13, D16-150φ
KB5	180	D16-150φ
KB6	180	D16-125φ
KB7	200	D16-100φ

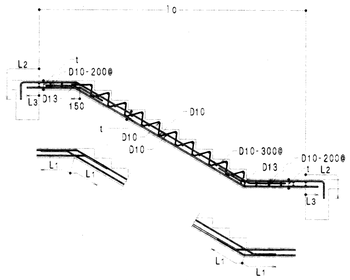


図5.9.2

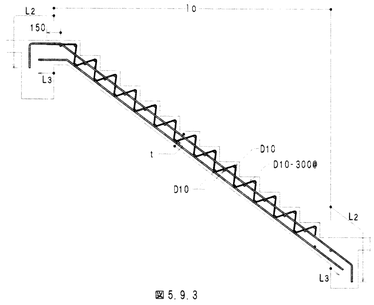


図5.9.3

10. 梁貫通孔の補強

梁貫通孔の補強は、次による。

(1) 梁貫通孔補強筋の名称等は、図5.10.1による。

(2) 孔の径は、梁せいの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこれの外接円とする。

(3) 孔の上下方向の位置は、図5.10.2による。

(4) 孔の中心位置の限度は、柱及び直交する梁（小梁）の面から原則として1.2D（Dは梁せい）以上離す。

(5) 孔が並列する場合は、その中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。

(6) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。

(7) 補強筋は、主筋の内側とする。やむを得ない場合は、監督職員の承諾を受けて外側とすることができる。また、鉄筋の定着長さは、図5.10.3による。

(8) 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、補強を省略することができる。

(9) 溶接金網の余長は1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。

(10) 溶接金網に付けるリング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。

(11) 溶接金網の割付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。

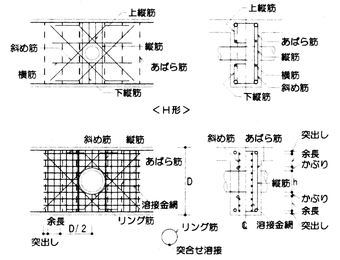


図5.10.1

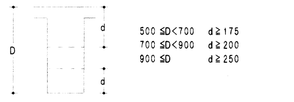


図5.10.2

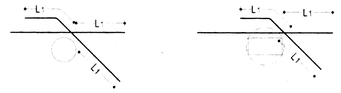


図5.10.3

(12) 補強形式は表5.10.1～表5.10.3により、配筋種別は特記による。

(i) H形配筋

表5.10.1　H形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H2		2-2-D13			
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16				
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H6	4-2-D19				
H7	4-2-D22				

（注）－－－は、一般部のあばら筋を示す。

(ii) M形配筋

表5.10.2　M形配筋

配筋種別	縦筋	溶接金網	リング筋	配筋図
M1	2-2-D13	なし	なし	
M2	4-2-D13			
M3	4-2-D13	2-6φ-100φ	13φ	
M4	6-2-D13			

（注）－－－は、一般部のあばら筋を示す。

(iii) MH形配筋

表5.10.3　MH形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	溶接金網	リング筋	配筋図
MH1	2-2-D13	なし	なし	なし	
MH2		2-2-D13			
MH3	2-2-D13	2-2-D13	2-6φ-100φ	13φ	
MH4	4-2-D13				
MH5	4-2-D16				
MH6	4-2-D16	4-2-D13	2-6φ-100φ	13φ	
MH7	4-2-D19				

（注）－－－は、一般部のあばら筋を示す。

鉄骨設計標準図　平成１０年版

１．溶接方法

溶接方法の種類は、アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接、
セルフシールドアーク半自動溶接、サブマージアーク自動溶接、
エレクトロスラグ溶接及びアークスタッド溶接等とする。

２．溶接継手

溶接継手の種類は、完全溶込み溶接、部分溶込み溶接、隅肉溶接及びフレア溶接とし、
完全溶込み溶接の継手形状の種類は､突合わせ継手、Ｔ形継手及びかど継手とする。

３．溶接記号

３.１　溶接方法、溶接継手及び溶接面の分類別記号

溶接方法、溶接継手及び溶接面の分類別記号は、表１により、溶接の補助記号は、
表２による。

表１　溶接方法、溶接継手及び溶接面の分類別記号

分類			記号
溶接方法	アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接 セルフシールドアーク半自動溶接		H
	サブマージアーク自動溶接		A
	エレクトロスラグ溶接		E
溶接継手	完全溶込み溶接	突合わせ継手	B
		Ｔ形継手	T
		かど継手	L
	隅肉溶接		F
	部分溶込み溶接		P
	フレア溶接		FL
溶接面	片面溶接		1
	両面溶接		2

表２　溶接の補助記号

区分	補助記号
現場溶接	▶
全周溶接	○
全周現場溶接	▶○
断続溶接の長さ及び間隔	L－P

３.２　溶接記号の記載方法

溶接記号の記載方法は、図１による。
ただし、溶接方法又は溶接面の指定を行わない場合は、溶接継手記号のみを記入
する。完全溶込み溶接及び部分溶込み溶接の場合は、引出線を折線とし、開先を
とる部材面に先端を向けるものとする。

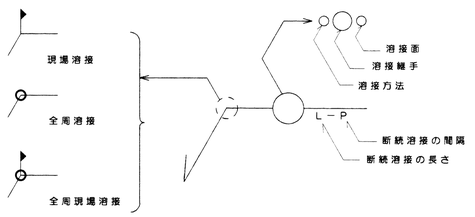
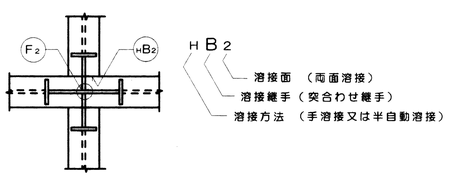


図１　溶接記号の記載方法

（解説：記載例）
溶接記号の記載は､下図に従い、溶接方法、溶接継手及び溶接面の記号を記入する。



溶接記号の記載方法の例

４．溶接継手の種類別開先標準

４.１　完全溶込み溶接

（１）　突合わせ継手（Ｂ）の開先標準は、図２による。　（単位：mm）

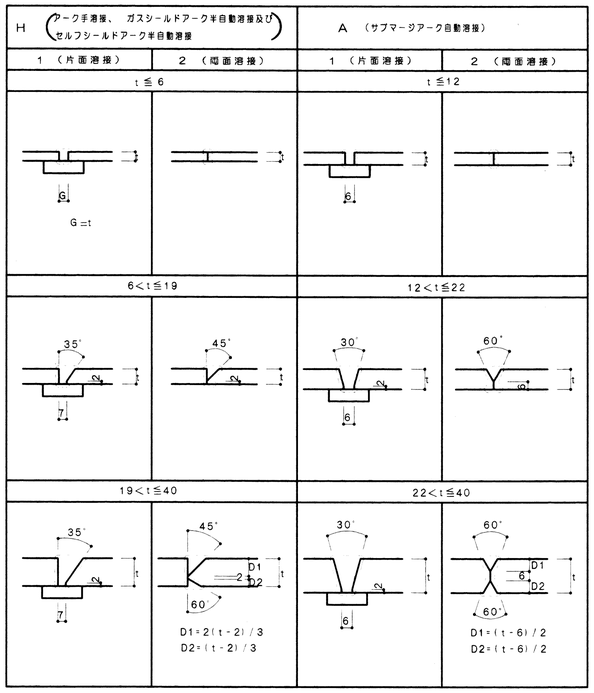


図２　突合わせ継手の開先標準

（２）　Ｔ型継手（Ｔ）の開先標準は、図３による。ただし、溶接される部材
が直交しない場合の開先標準は、図４による。

（単位：mm）

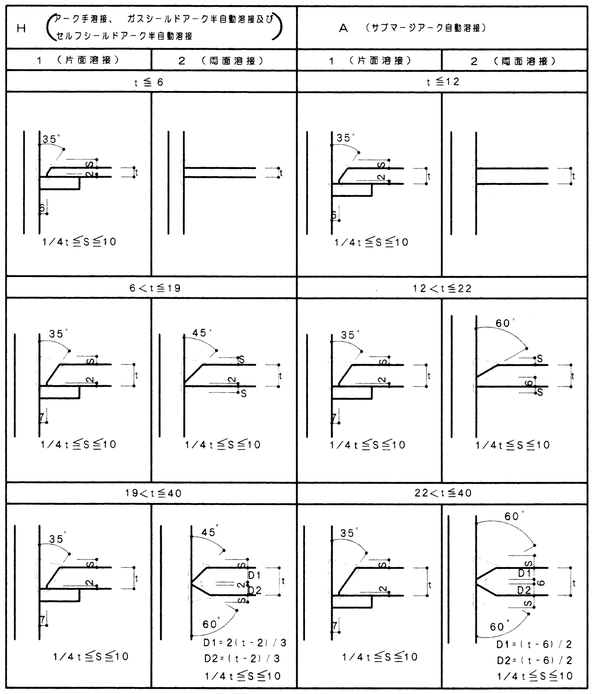


図３　Ｔ形継手の開先標準

（単位：mm）

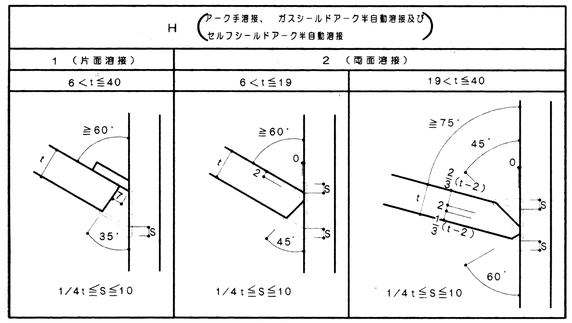


図４　部材が直交しない場合の開先標準

（３）　かど継手（Ｌ）の開先標準は、図５による。　（単位：mm）

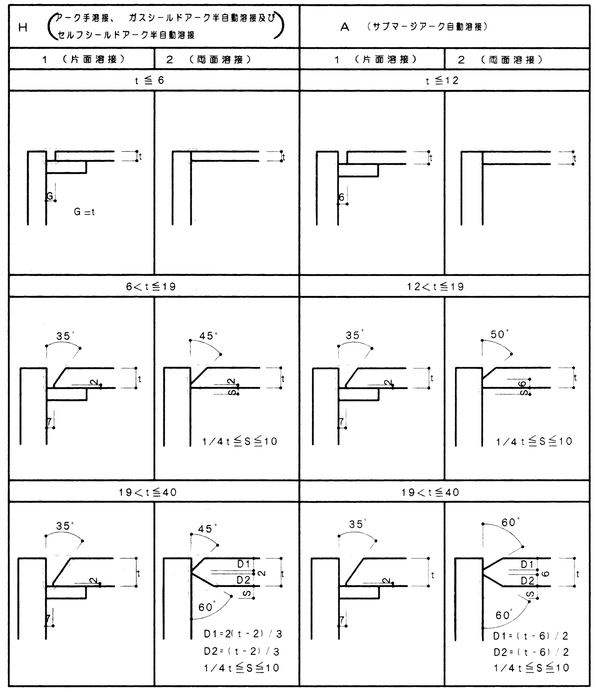


図５　かど継手の開先標準

４.２　隅肉溶接

隅肉溶接（Ｆ）の開先標準は、図６により、サイズ（Ｓ）は、表３による。

（単位：mm）

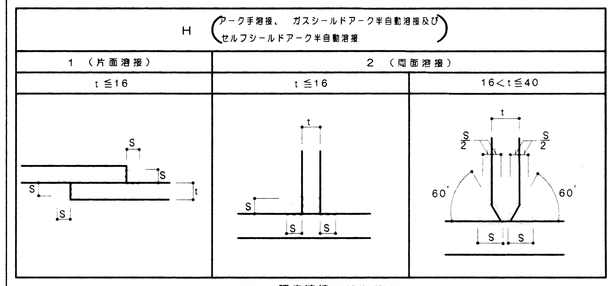


図６　隅肉溶接の開先標準

表３　隅肉溶接のサイズ

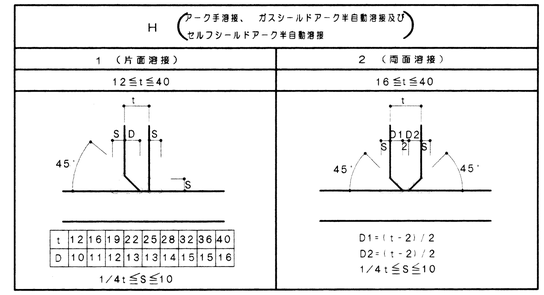
（単位：mm）

t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	19	22	25	28	32	36	40					
S	3	4	5	5	6	7	8	8	9	10	10	11	12	11	13	15	17	19	21	24					

４.３　部分溶込み溶接

部分溶込み溶接（Ｐ）の開先標準は、図７による。
片面溶接を行う場合には、原則として部分溶込み溶接を行わない側に隅肉溶接を行う。

（単位：mm）



t	12	16	19	22	25	28	32	36	40
D	10	11	12	13	13	14	15	15	16

1/4t≦S≦10

図７　部分溶込み溶接 の開先 標準

４.４　フレア溶接

フレア溶接（ＦＬ）の開先 標準は、図８による。

（単位：mm）

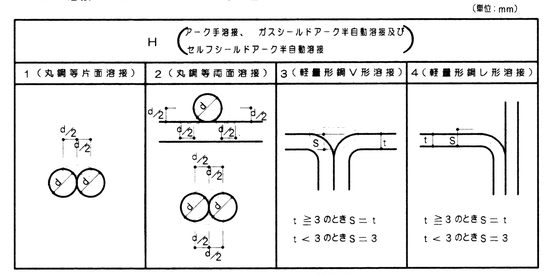


図８　フレア溶接の開先標準

5. 溶接施工

5.1 エンドタブ

エンドタブの材質は、母材と同等以上、形状は、母材と同厚・同開先のものとし、長さは、図９及び表４による。

ただし、あらかじめ溶接端部に欠陥が生じないことが確認された材質及び形状のものを用いる場合については、この限りでない。

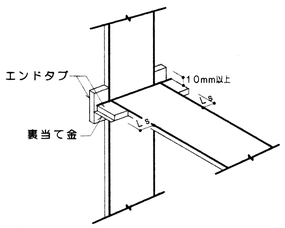


図９ エンドタブ

表４ エンドタブの長さ

（単位：mm）

溶接方法	ℓs
手溶接	３５以上
半自動溶接	３８以上
自動溶接	７０以上

5.2 裏当て金及び裏はつり

（１） 完全溶込み溶接の片面溶接に用いる裏当て金は、原則としてフランジの内側に設置し、取付け方法は、図１０による。

裏当て金の組立溶接は、接合部に悪影響を与えないように、エンドタブの位置又は梁フランジ幅の１／４の位置に行う。

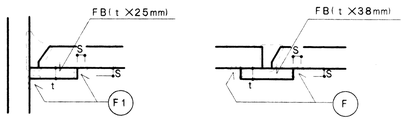


図１０ 裏当て金の溶接

（２） 裏当て金の厚さ及び隅肉溶接のサイズは、表５及び表６により、材質は、原則として母材と同等以上のものとする。

表５ 裏当て金の長さ

（単位：mm）

溶接方法	t
手溶接	６以上
半自動溶接	９以上
自動溶接	１２以上

表６ 溶接のサイズ

（単位：mm）

裏当て金の厚さ	S
t≦９	５
t＞９	９

（３） 完全溶込み溶接を両面溶接とする場合は、裏溶接の前に裏はつりを行う。

裏はつりは、健全な溶着部分が現われるまではつり取るものとする。

ただし、自動溶接において、完全な溶込みが得られたことが確認できる場合には、裏はつりを省略することができる。

5.3 スカラップ

（１） 改良型スカラップの形状は、図１１により、スカラップ半径 S_{r1} は３５mm、S_{r2} は１０mmとする。

スカラップの円弧の曲線は、フランジに滑らかに接するように加工し、複合円は滑らかに仕上げる。

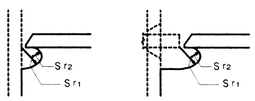


図１１ 改良型スカラップ

（２） 従来型スカラップの形状は、図１２により、スカラップ半径 S_r は３５mmとする。

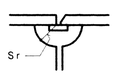


図１２ 従来型スカラップ

5.4 スニップカット

溶接の交差部をスニップカットで処理する場合は図１３により、スニップカットの寸法（Ｓｃ）は、鋼材の板厚に応じて、表７による。ただし、既成形鋼のスニップカットについては、Ｓｃ＝ｒ＋２により求めるものとする。

なお、スニップカット部は、溶接により埋めるものとする。

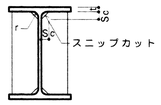


図１３ スニップカット

表７ スニップカットの寸法

（単位：mm）

t	６	９	１２	16以上
Sc	１０	１２	１４	１５

5.5 溶接部分の段差

完全溶込み溶接を行う部分の板厚の差による段違いが１０mmを超える場合は、図１４による。

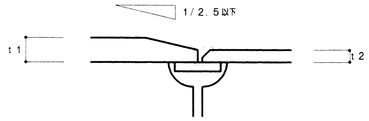


図１４ 溶接部分の段差

5.6 余盛り

（１） 完全溶込み溶接（突合わせ継手、かど継手）、隅肉溶接及びフレア溶接の溶接部は、余盛りを行うものとする。余盛り高さの限度は、表８による。

表８ 余盛り高さの限度

（単位：mm）

溶接継手	溶接方法	余盛り高さの限度
突合わせ継手 かど継手	手溶接	３
	半自動溶接	４
	自動溶接	４
隅肉溶接 フレア溶接	手溶接	３
	半自動溶接	

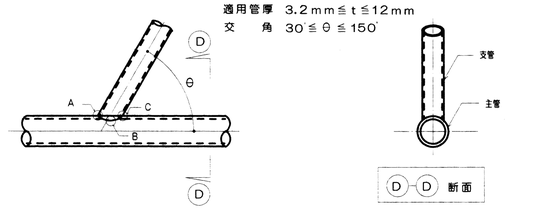
（２） 完全溶込み溶接（Ｔ型継手）の溶接部は、ビート表面が滑らかになるように仕上げるものとする。

5.7 鋼管分岐継手

鋼管分岐継手における支管は、主管外径より細径のものとし、開先標準は、図１５による。ただし、自動機械により開先加工を行う場合については、この限りではない。

適用管厚 3.2mm≦t≦12mm

交　角 30°≦θ≦150°



主管の管軸と支管の管軸とは一致させること。

図１５ 鋼管分岐継手詳細（単位：mm）

5.8 スタッド溶接

（１） スタッド溶接は、アークスタッド溶接方式による直接溶接とし、溶接姿勢は下向きを原則とする。

（２） スタッド溶接用材料は、ＪＩＳ Ｂ１１９８「頭付きスタッド」の規格に適合するものとし、適用する呼び名は、１３、１６、１９及び２２の４種類とする。

（３） スタッド溶接は、デッキプレート上から行ってはならない。

ただし、デッキプレート厚１６mm以下で、あらかじめ良好な溶接が得られることが確認された場合については、この限りではない。

（４） スタッドの間隔、ゲージ等の寸法は、表９及び図１６による。

表９ スタッドの間隔、ゲージ等の寸法

項目	寸法
間隔（ｐ）	呼び名の７.５倍以上 かつ 600ｍｍ 以下
最小ゲージ（ｇ）	呼び名の５倍以上
へりあき（e_1）	40ｍｍ 以上

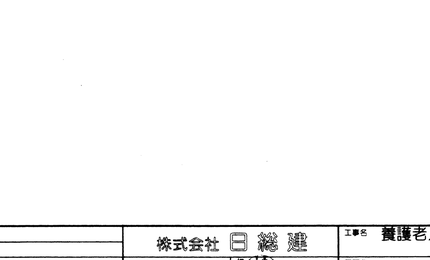


図１６ スタッドの配置

6. 梁貫通孔の補強

（１） 梁貫通孔の孔径寸法は、鉄骨成の１／２以下とする。

（２） 梁貫通位置は原則として、中心位置を柱面より（２．ＯＤ＋φ／２）以上はなすこと。

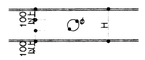
（３） 梁貫通孔の補強方法は、補強プレート法とする。

梁貫通孔の位置及び大きさ

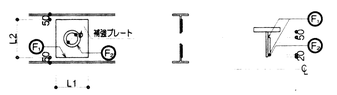
Ｈ：鉄骨成

φ：貫通孔内径寸法

（φ≦１／２Ｈ）



（４） 補強プレートは、梁ウェブと同厚、同材質とする。


L2
補強プレート
L1
S
S
S

一 般 事 項

1．構造種別　　管理棟　鉄筋コンクリート造地上２階

ユニット棟　鉄筋コンクリート造地上１階

構造形式　　管理棟　耐震壁付ラーメン構造

ユニット棟　壁式鉄筋コンクリート構造

2．適用図書　　特記なき構造詳細部は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「建築工事共通仕様書（平成１３年版）」及び建設大臣官房官庁営繕部監修の「建築鉄骨設計基準（平成１０年版）」と（社）日本建築学会の「建築工事標準仕様書」の最新版による。

3．使用材料　　コンクリート　普通コンクリート　Fc＝ 21 N/mm²

Fc＝ 18 N/mm²（無筋コンクリート、捨てコンクリート）

鉄　　筋　　JIS G 3112　SD 295A　規格品　D 16以下

SD 345　規格品　D 19～D 25

溶接金網　　JIS G 3551　WFP　線径 6mm　網目寸法 100mm　規格品

（壁の開口部補強筋）

（防水押えコンクリート部）

4．鉄筋記号

呼び名	D10	D13	D16	D19	D22	D25		
表示記号	•	×	⌀	•	○	◎		

5．鉄筋継手　　重ね継手　D 16以下

ガス圧接　D 19以上　（壁筋、壁開口部補強筋及び基礎スラブ主筋は除く）

6．基礎形式　　1）地盤に直接支持とする独立基礎及び布基礎：岩盤（長期地耐力294kN/㎡）

2）造成地盤（長期地耐力 98kN/㎡）：耐力確認済

7．地　　業

場　所	捨コンクリート	砂　利	備　考
基礎・基礎梁・基礎スラブ下	60 mm	60 mm	
土間コンクリート下	———	60 mm	

8．打放し仕上げ部分等の打増し寸法及び範囲は、意匠図による。

9．付属棟及び外構は各設計図による。

鉄 骨 一 般 事 項

1．使用材料

特記のない場合は下記による。

使用区分		SN400A	SN400B	SN400C	
柱主材			○		
大梁	主材		○		
	ブラケット		○		
小梁主材		○			
スプライスプレート	柱		○		
	大梁		○		
ガセットプレート	大梁		○		
	小梁		○		
水平スチフナープレート			○		
仕口パネルプレート			○		
ベースプレート			○		
広 幅 平 鋼			○		

注）SN490B全部位には、広幅平鋼を使用することができる。

平鋼の幅は１５０、２００、２５０及び３００mmとする。

鋼　管		STKN400B	規格品	
高力ボルトのセット	JIS B 1186	2種Ａ（F 10T）	規格品	
トルシア形高力ボルトのセット	JSS Ⅱ 09	2種　（S 10T）	大臣認定品	
溶融亜鉛めっき高力ボルトのセット		1種Ａ（F 8T）	大臣認定品	
六角ボルト	JIS G 1180	4．6	規格品	
六角ナット	JIS G 1181	4T	規格品	
平座金	JIS G 1256		規格品	
アンカーボルト	JIS G 3138	SNR 400B	規格品	2重ナット締め
	JIS G 3101	SS 400	規格品	2重ナット締め
ターンバックル	JIS A 5541	S－ST－S	規格品	
スタッドコネクタ	JIS B 1198	頭付スタッド	規格品	

2．用　　語　　本設計図で使用する用語は関連ＪＩＳ及び日本建築学会編「建築工事標準仕様書 JASS6鉄骨工事」及び「鉄骨工事技術指針」によるほか下記による。

F．PL：フランジプレート　　B．PL：ベースプレート

W．PL：ウェブプレート　　Fill．PL：フィラープレート

T．PL：トッププレート　　A．B：アンカーボルト

D．PL：水平スチフナプレート　　G．PL：ガセットプレート

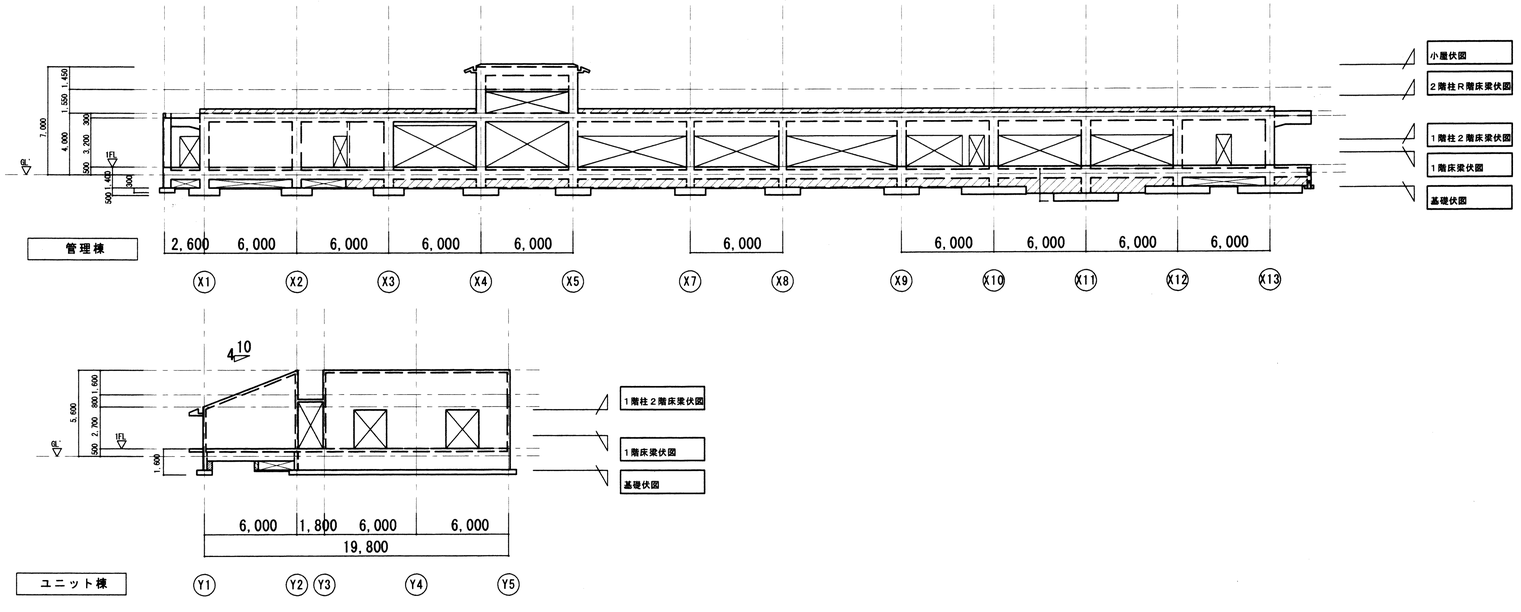
S．PL：スプライスプレート　　P．PL：仕口パネルプレート

3．ボルトの記号

種　別	呼び径	記　号	備　考
高力ボルト	M 16	⊕ ・ ⊕	F 10T S 10T
	M 20	⊕	
	M 22	⊕	
溶融亜鉛めっき高力ボルト	M 16	｜	F 8T
	M 20	＋	
アンカーボルト	各詳細図に特記する		

4．付属棟及び外構は、各設計図による。

KEY SECTION　　S=1／200





基　礎　伏　図　　1/200

特記なき限り下記による

- 基礎梁天端は1FL－200とする
- （ ）内数値は1FLからの基礎梁天端レベルを示す
- □内数値は1FLからのスラブ天端レベルを示す
- ▨は梁増打を示す
- 1）設備用ピット上端（捨てコンクリート t=60）
  - ▨…1FL-1,400
  - □…1FL-1,800
- 2）消火用水ピット上端 FS1
  - ▩…1FL-3,000
- 3）ベタ基礎上端 FS1
  - ▨…1FL-1,400

NISSOKEN ARCHITECTS / ENGINEERS

株式会社 日総建
一級建築士登録 第109497号
北川 昭夫

計画名	養護老人ホーム静香園新築工事	棟名	製作年月
図面名	基　礎　伏　図	工事区分 建築	縮　尺 1/200

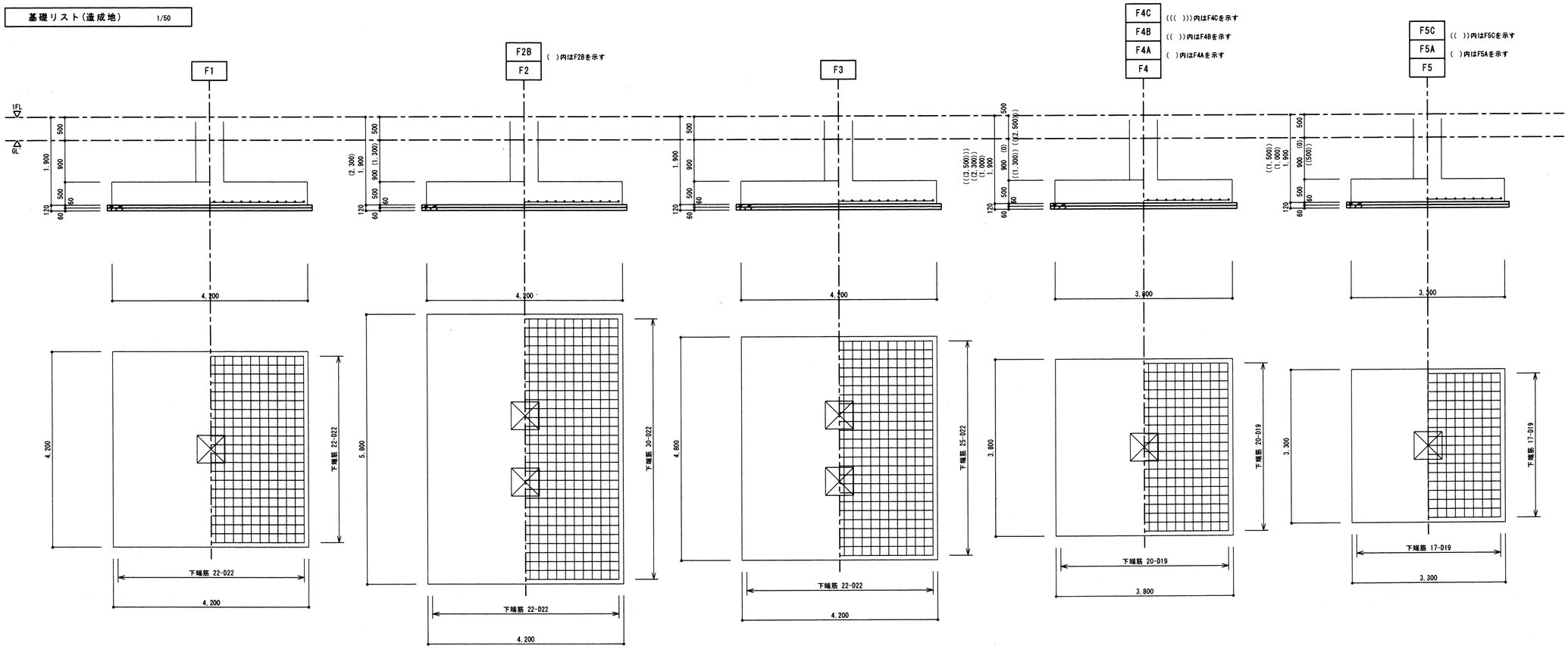
図面番号 S-7
ファイル名 －

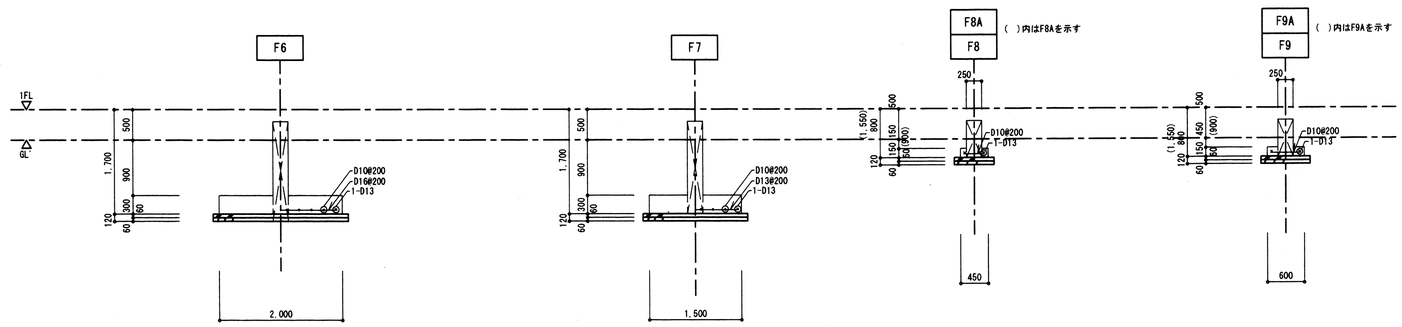


1 階 床 梁 伏 図 1/200

NISSOKEN ARCHITECTS / ENGINEERS	株式会社 日総建 一級建築士登録 第109497号 北川 昭夫	計画名 養護老人ホーム静香園新築工事	棟名 管理棟・ユニット棟	製作年月	図面番号 S-8
		図面名 1 階 床 伏 図	工事区分 建築	縮 尺 1/200	ファイル名 -

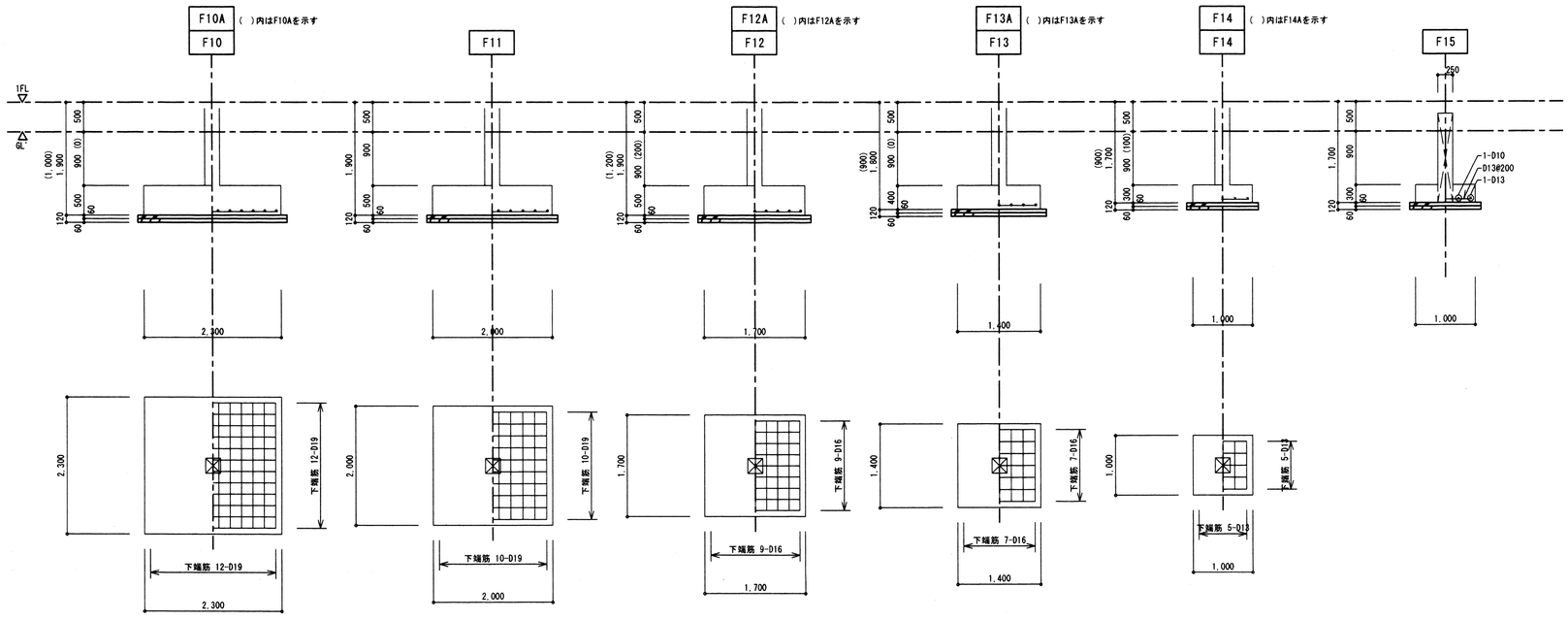
基礎リスト(造成地)　1/50





NISSOKEN ARCHITECTS / ENGINEERS	株式会社 日総建 一級建築士登録 第109497号 北川 昭夫	計画名 養護老人ホーム静香園新築工事	棟名 管理棟・ユニット棟	製作年月	図面番号 S-9
		図面名 基 礎 リ ス ト (造成地盤)	工事区分 建築	縮 尺 1/50	ファイル名 -

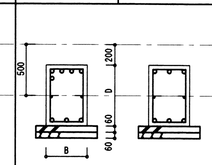
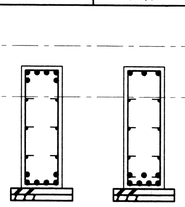
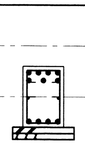
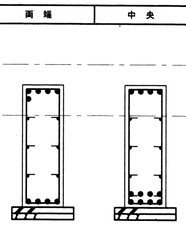
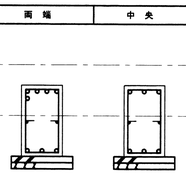
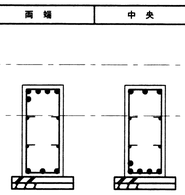
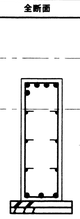
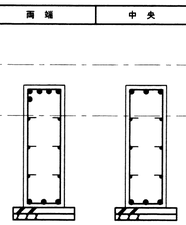
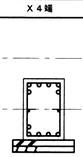
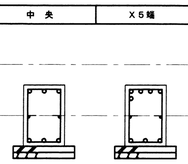
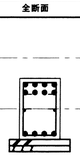
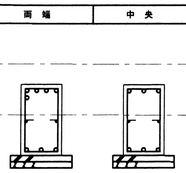
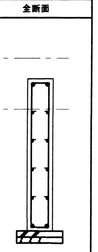
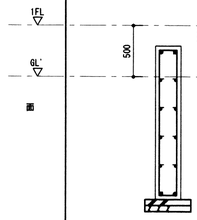
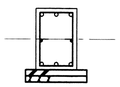
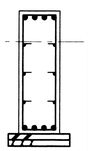
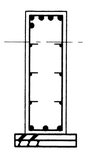
基礎リスト（岩盤）　1/50



NISSOKEN ARCHITECTS / ENGINEERS	株式会社 日総建 一級建築士登録 第109497号 北川 昭夫	計画名 養護老人ホーム静香園新築工事	棟名 管理棟・ユニット棟	製作年月	図面番号 S-10
		図面名 基 礎 リ ス ト （岩盤）	工事区分 建築	縮 尺 1/50	ファイル名 -

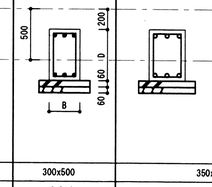
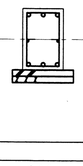
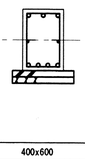
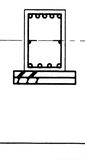
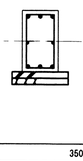
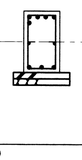
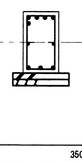
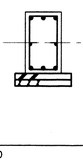
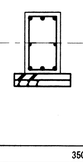
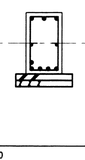
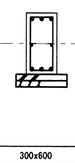
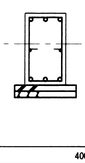
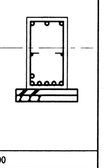
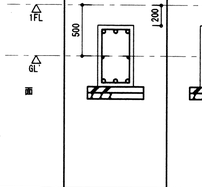
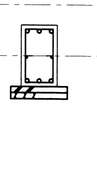
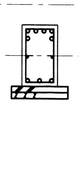
基礎大梁リスト 1/30

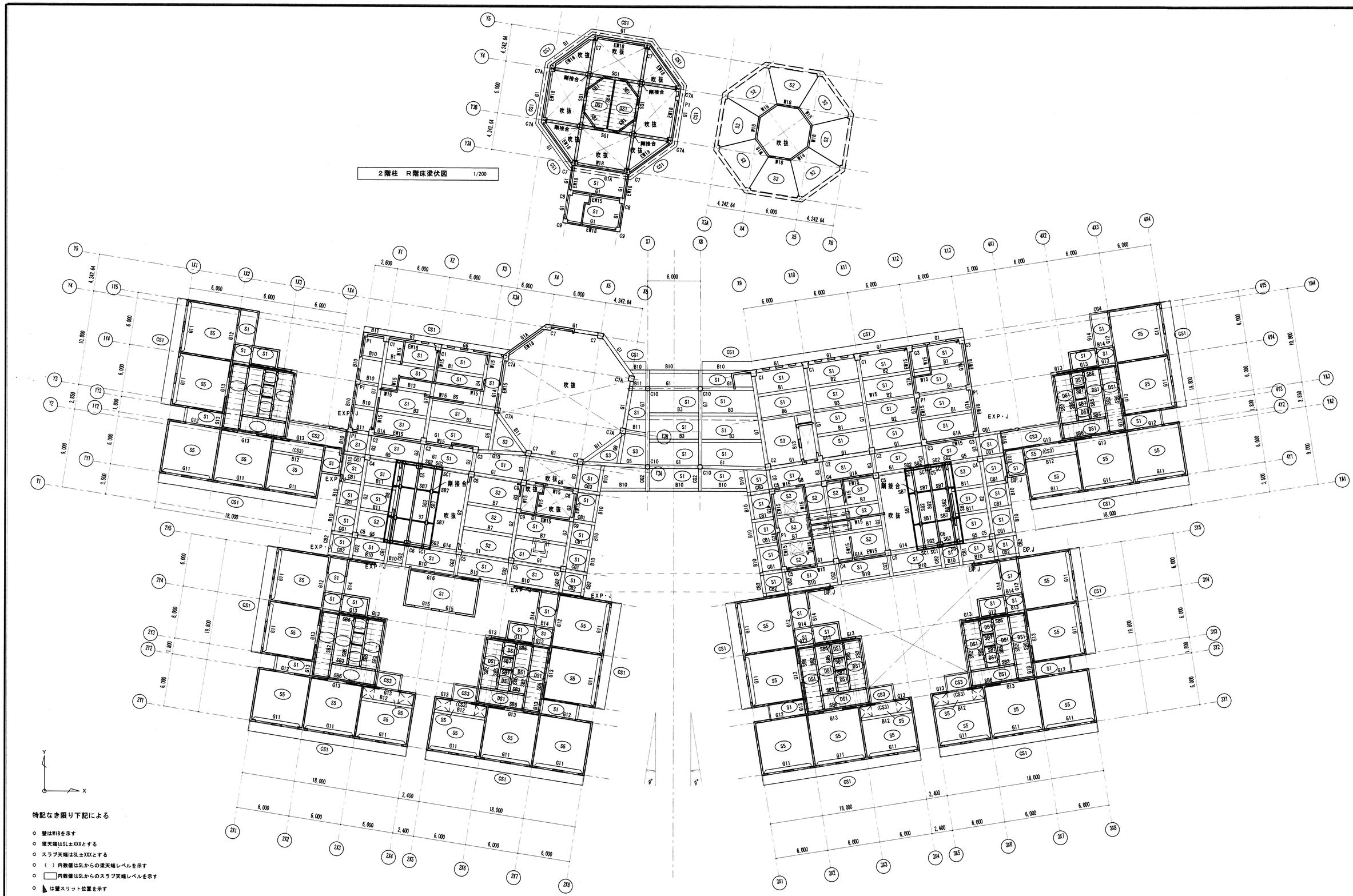
巾止筋　D10 @1000

符号	FG1		FG2		FG3	FG4		FG5		FG6		FG7	FG8 (FG8A)		FG9			FG10	FG11		FG12
位置	両端	中央	両端	中央	全断面	両端	中央	両端	中央	両端	中央	全断面	両端	中央	X4端	中央	X5端	全断面	両端	中央	全断面
断面																				
B x D	400x600		400x1,200		400x600	400x1,200		400x700		400x900		400x1,200	400x1,200 (400x700)		400x600			400x600	400x700		250x1,500
上端筋	5-D22	3-D22	6-D25	3-D25	7-D25	5-D25	4-D25	5-D22	3-D22	5-D25	3-D25	5-D25	5-D25	3-D25	6-D22	3-D22	5-D22	8-D25	5-D22	3-D22	2-D19
下端筋	3-D22	3-D22	6-D25	7-D25	4-D25	4-D25	8-D25	3-D22	3-D22	3-D25	5-D25	3-D25	3-D25	3-D25	5-D22	3-D22	3-D22	4-D25	3-D22	3-D22	2-D19
S T P	□-D10 @150		□-D10 @150		□-D10 @150	□-D13 @200		□-D10 @150		□-D10 @150		□-D10 @150	□-D10 @150		□-D10 @150			□-D10 @150	□-D10 @150		□-D10 @200
腹筋	2-D10		6-D10		2-D10	6-D10		2-D10		4-D10		6-D10	6-D10 (2-D10)		2-D10			2-D10	2-D10		8-D10
符号	FG13		FG14		FG15	FG1A		FG16		FG17		FG2A	FG3A								
位置	全断面		全断面		全断面			全断面		全断面		全断面	全断面								
断面																					
B x D	250x1,500		250x600		250x600	350x600		300x600		250x600		400x1,200	400x1,200								
上端筋	2-D16		2-D16		4-D16	3-D22		3-D19		4-D19		4-D25	5-D25								
下端筋	2-D16		2-D16		4-D16	3-D22		3-D19		4-D19		4-D25	3-D25								
S T P	□-D10 @200		□-D10 @200		□-D10 @200	□-D10 @200		□-D10 @200		□-D10 @200		□-D10 @150	□-D10 @150								
腹筋	2-D10		2-D10		2-D10	2-D10		2-D10		2-D10		6-D10	6-D10								

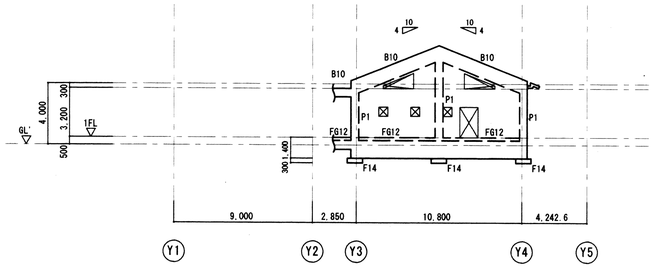
基礎梁リスト 1/30

巾止筋　D10 @1000

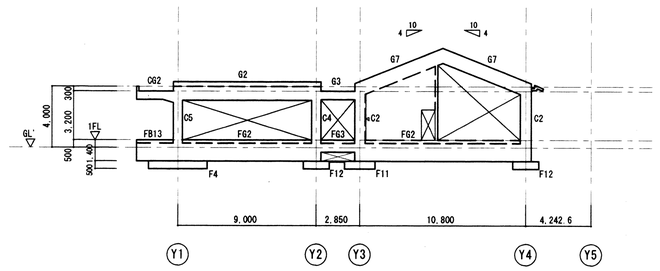
符号	FB1	FB2		FB3			FB4		FB5		FB6		FB7	FB8		
位置	全断面	両端	中央	X7・X9端	中央	X8端	外端・中央	内端	外端・中央	内端	両端	中央	全断面	両端	中央	
断面																
B x D	300x500	350x500		400x600			350x600		350x600		350x600		300x600	400x700		
上端筋	3-D16	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	5-D22	3-D19	5-D19	5-D19	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19	3-D22	3-D22	
下端筋	3-D16	3-D22	4-D22	3-D22	4-D22	4-D22	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19	5-D19	3-D19	3-D22	6-D22	
S T P	□-D10 @200	□-D10 @200		□-D10 @150			□-D10 @200		□-D10 @200		□-D10 @200		□-D10 @200	□-D10 @150		
腹筋	———	———		2-D10			2-D10		2-D10		2-D10		2-D10	2-D10		
符号	FB9	FB10		FB11			FB12		FB13							
位置	全断面	X10端・中央	X11端	X11端	中央	X12端	全断面		全断面							
断面																
B x D	350x600	350x600		400x700			250x600		250x1,200							
上端筋	3-D22	3-D22	6-D22	6-D22	3-D22	3-D22	2-D16		2-D16							
下端筋	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	5-D22	3-D22	2-D16		2-D16							
S T P	□-D10 @200	□-D10 @200		□-D10 @150			□-D10 @200		□-D10 @200							
腹筋	2-D10	2-D10		2-D10			2-D10		6-D10							



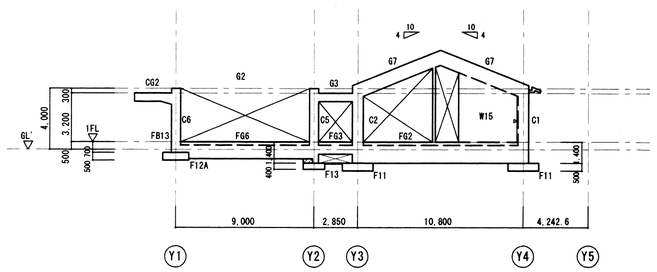
NISSOKEN ARCHITECTS / ENGINEERS	株式会社 日総建 一級建築士登録 第109497号 北川 昭夫	計画名 養護老人ホーム静香園新築工事	棟名 管理棟・ユニット棟	製作年月	図面番号 S-12
		図面名 １～２階壁柱　２～R階床梁伏図	工事区分 建築	縮尺 1/200	ファイル名 -



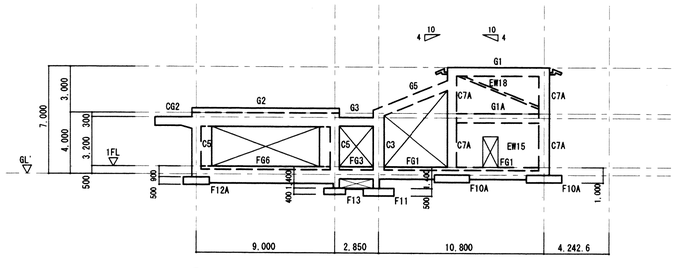
X０通り軸組図 1/200



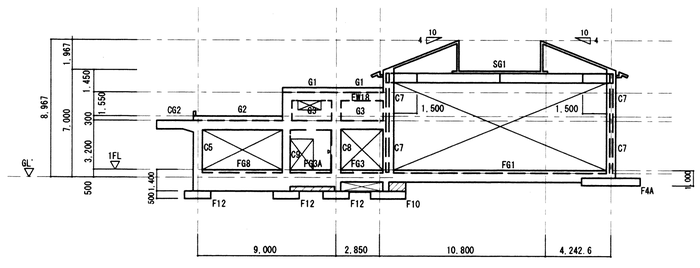
X１通り軸組図 1/200



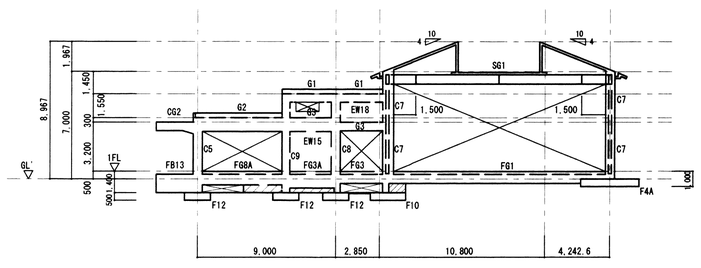
X２通り軸組図 1/200



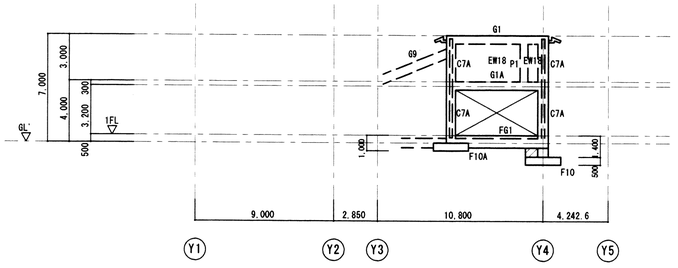
X３・X３A通り軸組図 1/200



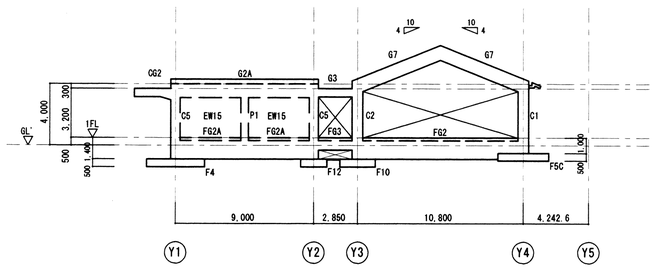
X４通り軸組図 1/200



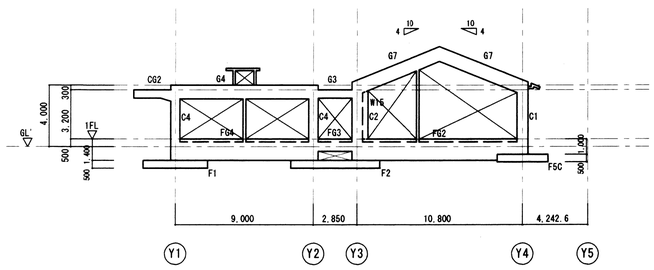
X５通り軸組図 1/200



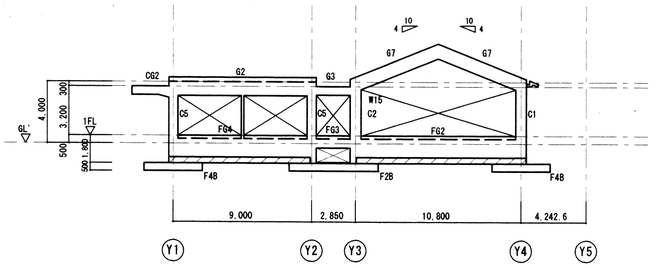
X６通り軸組図 1/200



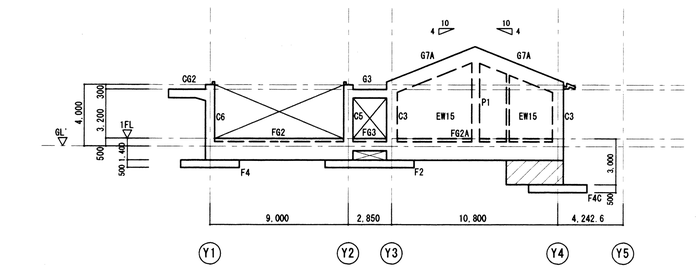
X９通り軸組図 1/200



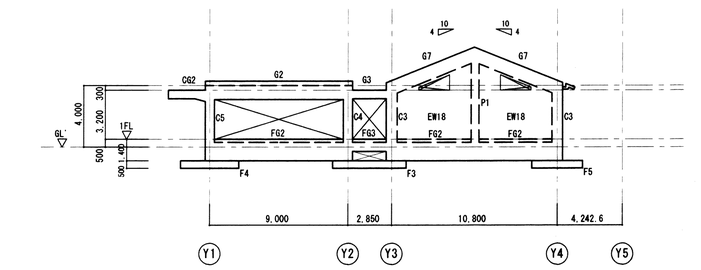
X１０通り軸組図 1/200



X１１通り軸組図 1/200



X１２通り軸組図 1/200



X１３通り軸組図 1/200

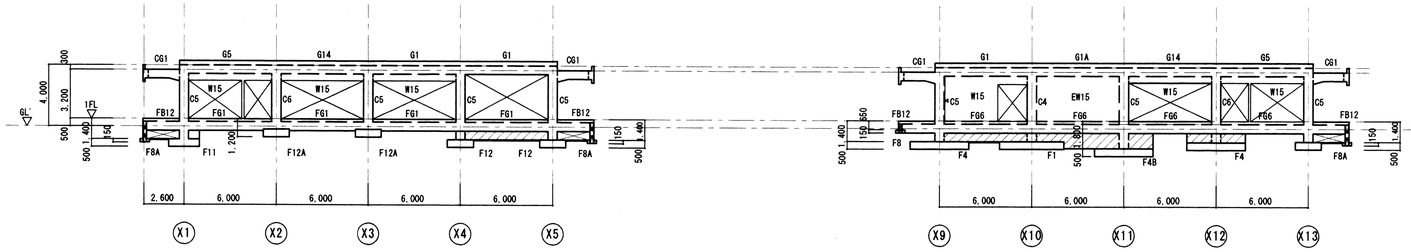
特記なき限り下記による

○ 壁は、W１８とする

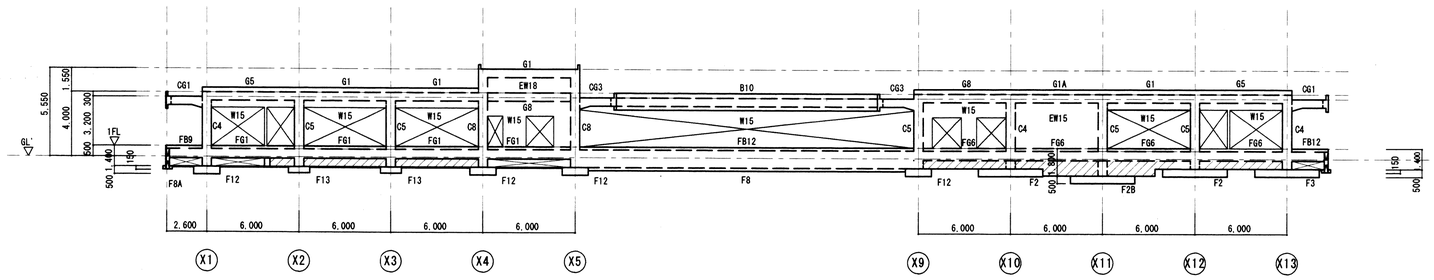
NISSOKEN ARCHITECTS / ENGINEERS

株式会社 日総建
一級建築士登録 第109497号
北川 昭夫

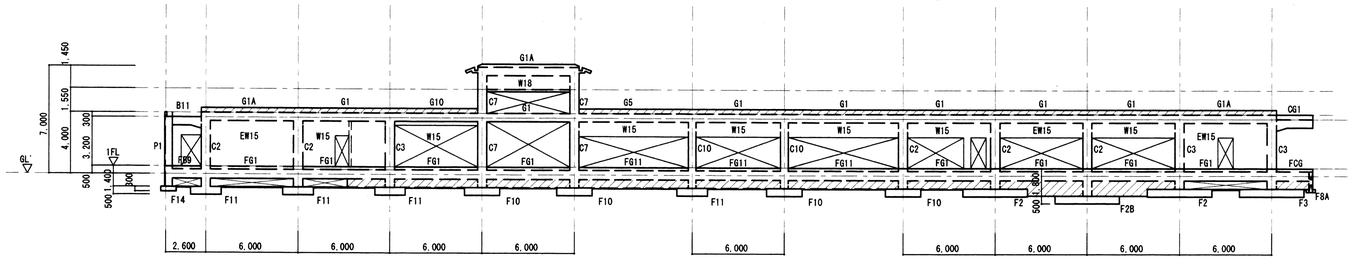
計画名	養護老人ホーム静香園新築工事	棟名 管理棟	製作年月
図面名	軸 組 図 （１） （ 管理棟 ）	工事区分 建築	縮 尺 1/ 200
			図面番号 S-13
			ファイル名 -



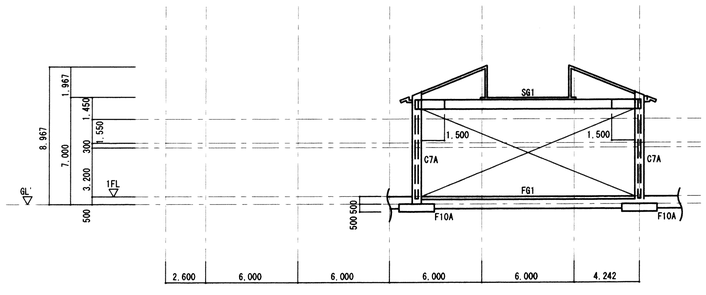
Y１通り軸組図 1/200



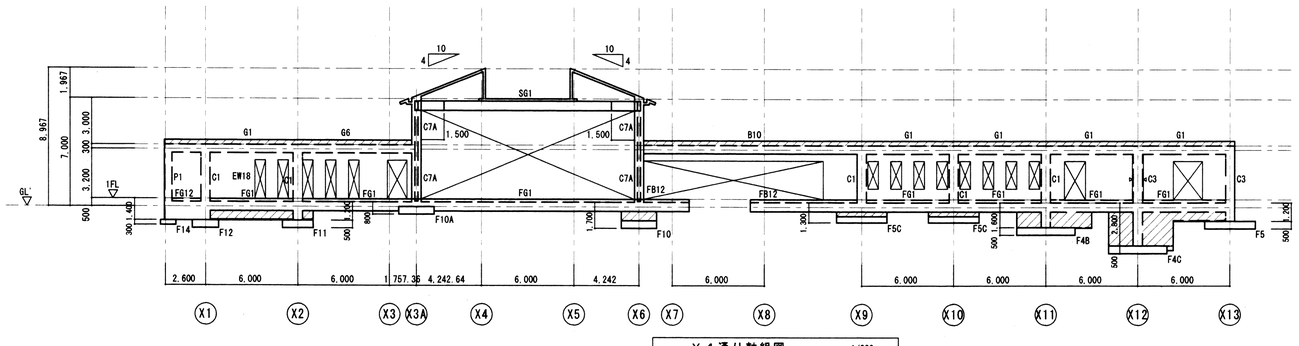
Y２通り軸組図 1/200



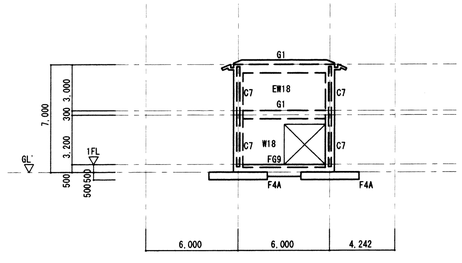
Y３通り軸組図 1/200



Y３Ｂ通り軸組図 1/200



Y４通り軸組図 1/200



Y５通り軸組図 1/200

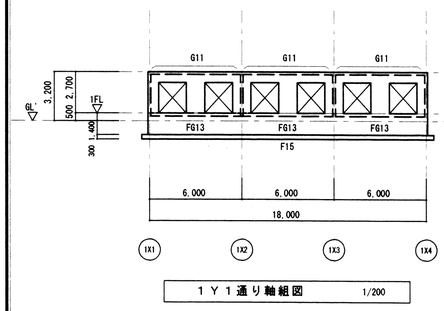
特記なき限り下記による

○ 壁はW１８とする

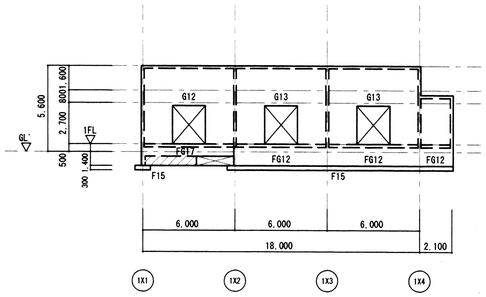
NISSOKEN ARCHITECTS / ENGINEERS

株式会社 日総建
一級建築士登録 第109497号 北川 昭夫

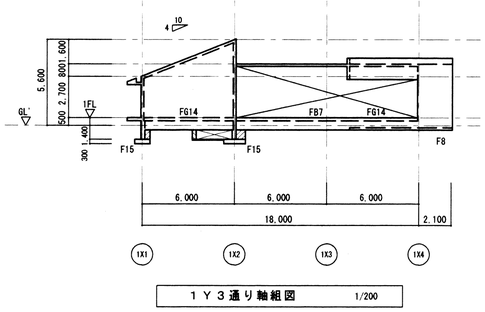
計画名	養護老人ホーム静香園新築工事	棟名 管理棟	製作年月
図面名	軸 組 図 （２） （ 管理棟 ）	工事区分 建築	縮 R 1/ 200
			図面番号 S-14
			ファイル名 -



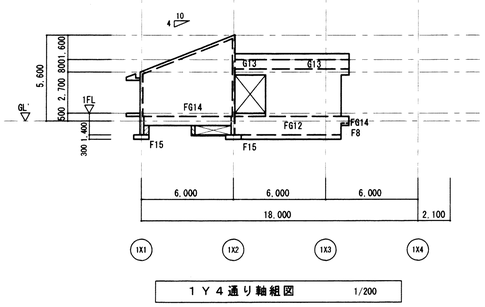
１Ｙ１通り軸組図　1/200



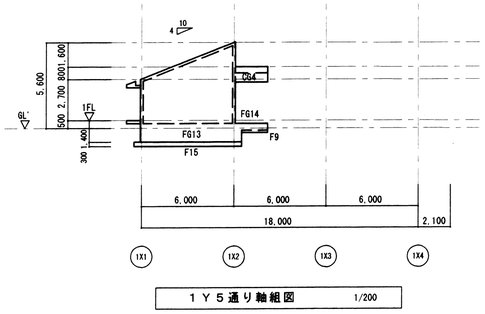
１Ｙ２通り軸組図　1/200



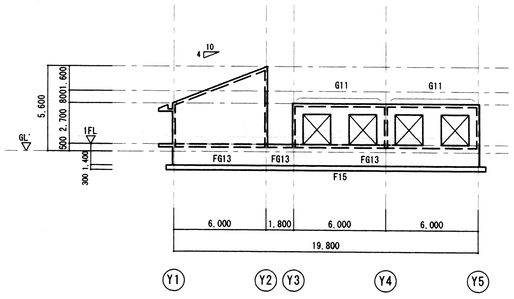
１Ｙ３通り軸組図　1/200



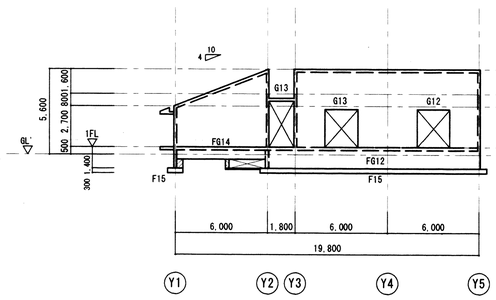
１Ｙ４通り軸組図　1/200



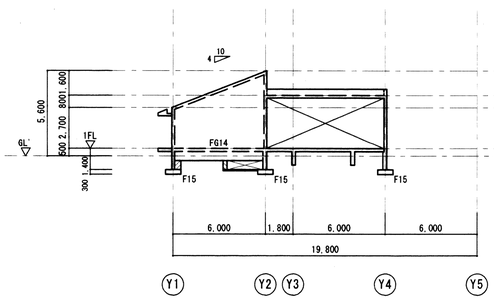
１Ｙ５通り軸組図　1/200



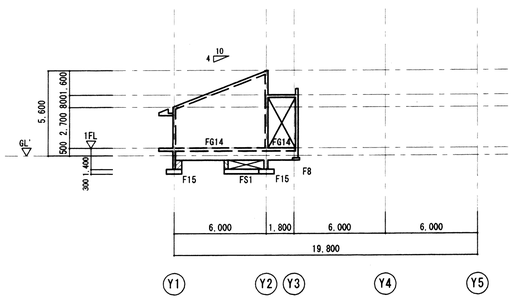
１Ｘ１通り軸組図　1/200



１Ｘ２通り軸組図　1/200



１Ｘ３通り軸組図　1/200



１Ｘ４通り軸組図　1/200

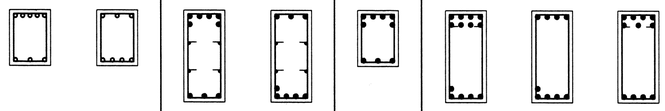
NISSOKEN
ARCHITECTS / ENGINEERS

株式会社 日総建
一級建築士登録 第109497号
北川 明夫
押 土屋 511

計画名 養護老人ホーム静香園新築工事
図面名 軸 組 図 （３） （ ユニット棟 ）
棟名 ユニット棟
工事区分 建築
製作年月
縮 尺 1/100
図面番号 S-15
ファイル名 -

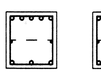
大梁リスト 1/30

巾止筋 D10 @1000

階	符号	G1 (G1A)		G2		G3	G4			G5		G6			G7		G2A・G7A	G8			G9	G10	
R	位置	全断面																					
	断面																						
	B x D	400x550																					
	上端筋	(4) 3-D22																					
	下端筋	3-D22																					
	S T P	□-D10 @150																					
	腹筋																						
2	位置	両端	中央	両端	中央	全断面	左端	中央	右端	両端	中央	左端	中央	右端	両端	中央	全断面	G63端	中央	他端	全断面	両端	中央
	断面																						
	B x D	400x550		400x900		400x550	400x900			400x700		400x650			400x900		350x900	400x550			400x550	400x800	
	上端筋	5-D22	3-D22	6-D25	3-D25	6-D25	8-D25	4-D25	7-D25	5-D22	3-D22	4-D22	3-D22	7-D22	6-D22	4-D22	3-D22	6-D22	3-D22	5-D22	5-D22	5-D22	3-D22
	下端筋	3-D22	4-D22	3-D25	5-D25	3-D25	5-D25	5-D25	4-D25	3-D22	4-D22	3-D22	4-D22	4-D22	3-D22	4-D22	3-D22	3-D22	4-D22	3-D22	3-D22	3-D22	4-D22
	S T P	□-D10 @150		□-D13 @200		□-D13 @200	□-D13 @200			□-D10 @150		□-D10 @150			□-D10 @150		□-D10 @200	□-D10 @150			□-D10 @150	□-D10 @150	
	腹筋			4-D10						2-D10		2-D10			4-D10		4-D10					2-D10	

大梁リスト 1/30

巾止筋 D10 @1000

階	符号	G11	G12	G13	G14		G15	G16			
R	位置										
	断面										
	B x D										
	上端筋										
	下端筋										
	S T P										
	腹筋										
2	位置	全断面	全断面	全断面	両端	中央	全断面	全断面			
	断面										
	B x D	180x600	180x600	250x600	500x550		180x600	250x600			
	上端筋	2-D16	4-D16	4-D16	5-D22	3-D22	2-D16	3-D19			
	下端筋	2-D16	3-D16	3-D16	3-D22	4-D22	2-D16	3-D19			
	S T P	□-D10 @200	□-D10 @200	□-D10 @200	□-D13 @150		□-D10 @200	□-D10 @200			
	腹筋	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10		2-D10	2-D10			

NISSOKEN ARCHITECTS / ENGINEERS

株式会社 日総建

一級建築士登録 第109497号 北川 昭夫

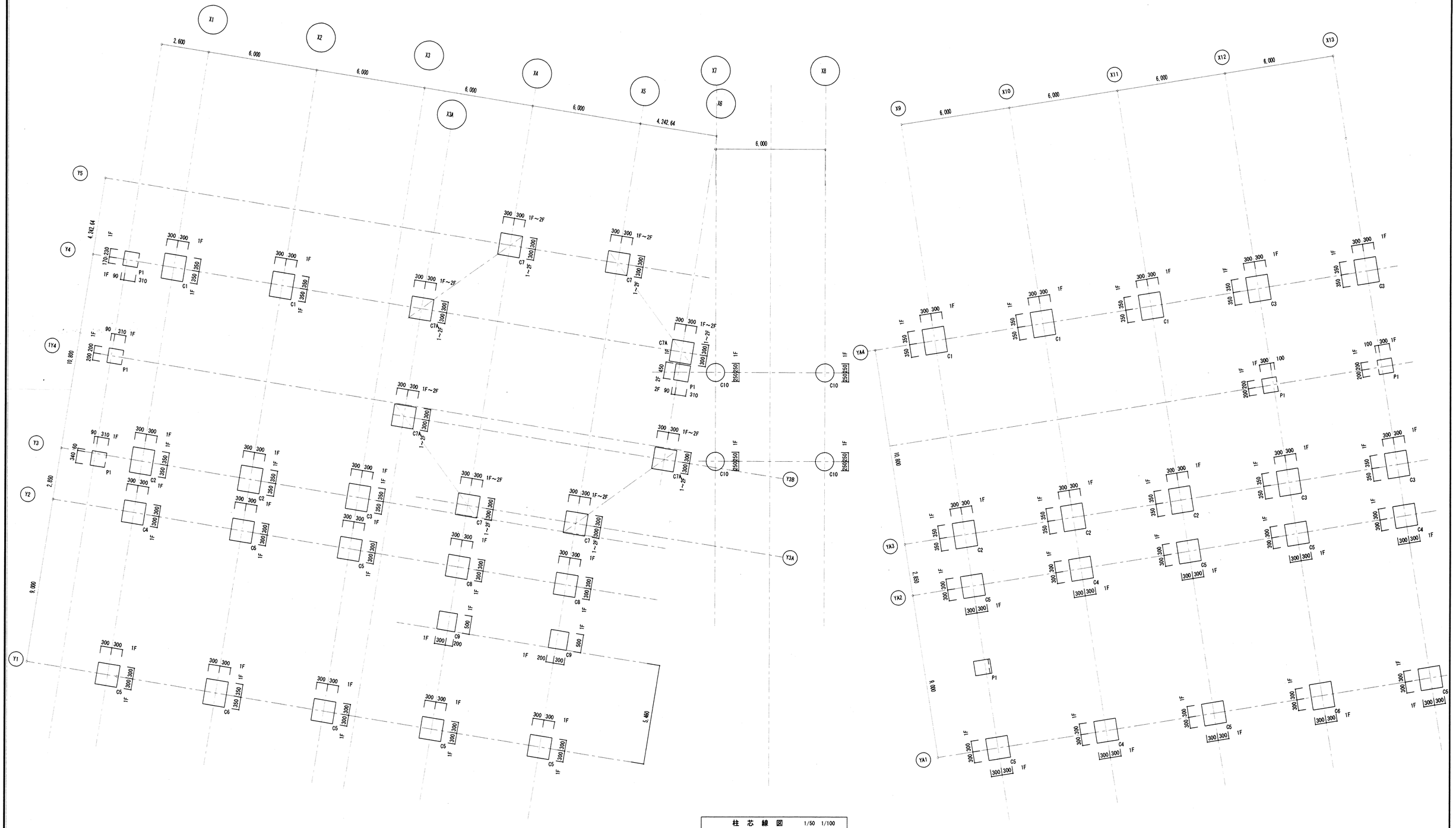
計画名	養護老人ホーム静香園新築工事	棟名	管理棟・ユニット棟
図面名	大梁リスト	工事区分	建築

製作年月

縮尺 1/30

図面番号 S-16

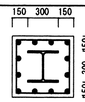
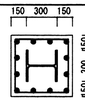
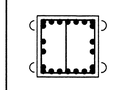
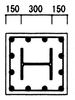
ファイル名 -



柱 芯 線 図　1/50 1/100

NISSOKEN ARCHITECTS / ENGINEERS	株式会社 日総建 一級建築士登録 第109497号 北川 明夫 担	計画名 養護老人ホーム静香園新築工事	棟名 管理棟	製作年月	図面番号 S-17
		図面名 柱 芯 線 図	工事区分 建築	縮 尺 1/50 1/100	ファイル名 -

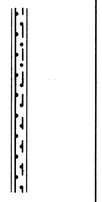
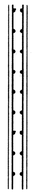
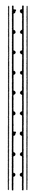
柱リスト 1/30

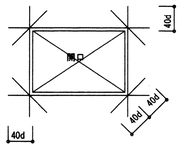
階	符号	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C7A	C8	C9	C10	P1	
2	断面							 H=300x300x10x15	 H=300x300x10x15					
	B x D							600x600	600x600				400x450	
	主筋							12-D25	12-D25				8-D16	
	HOOP							□ -D10 @100	□ -D10 @100				□ -D10 @100	
1	断面							 H=300x300x10x15	 H=300x300x10x15					
	B x D	600x700	600x700	600x700	600x600	600x600	600x700	600x600	600x600	600x600	500x500	500x500	400x400	
	主筋	22-D25	20-D25	12-D25	22-D25	14-D25	18-D25	12-D25	12-D25	16-D25	8-D25	18-D25	8-D16	
	HOOP	□ -D13 @100	▥ -D13 @100	□ -D10 @100	◫ -D13 @100	□ -D10 @100	□ -D13 @100	□ -D10 @100	□ -D10 @100	⊟ -D13 @100	□ -D10 @100	○ -D13 @100	□ -D10 @100	

スラブリスト

符号	スラブ厚	位置	短辺方向	長辺方向	備考
S1	150	上	D10-D13 @200	D10 @250	
		下	D10-D13 @200	D10 @250	
S2	150	上	D13 @200	D10-D13 @200	
		下	D13 @200	D10-D13 @200	
S3	150	上	D10-D13 @200	D10 @200	
		下	D10-D13 @200	D10 @200	
S4	150	上	D13 @200	D13 @200	
		下	D13 @200	D13 @200	
S5	180	上	D10-D13 @150	D10-D13 @150	
		下	D10-D13 @150	D10-D13 @150	
		上			
		下			
FS1	200	上	D13 @200	D13 @200	
		下	D13 @200	D13 @200	
		上			
		下			
CS1	150	上	D10-D13 @200	D10 @200	
		下	D10 @200	D10 @200	
CS2	150	上	D13 @200	D10 @200	
		下	D10 @200	D10 @200	
CS3	200	上	D13 @100	D10 @200	
		下	D10 @100	D10 @200	
		上			
		下			
		上			
		下			
DS1	150	上	D10-D13 @200	D10 @250	(梁枠デッキ使用)
		下	D10-D13 @200	D10 @250	
		上			
		下			

壁リスト 1/30

符号		W15	W18	EW15	EW18		
厚さ		150	180	150	180		
断面							
縦筋		D10 @200 (ﾀﾃﾞﾘ)	D10 @200 (ﾀﾃﾞﾌﾞﾙ)	D10 @200 (ﾀﾃﾞﾘ)	D10 @200 (ﾀﾃﾞﾌﾞﾙ)		
横筋		D10 @200 (ﾖｺﾃﾞﾘ)	D10 @200 (ﾖｺﾃﾞﾌﾞﾙ)	D10 @200 (ﾖｺﾃﾞﾘ)	D10 @200 (ﾖｺﾃﾞﾌﾞﾙ)		
開口補強筋	縦筋	2-D13	2-D13	2-D19	2-D19		
	横筋	2-D13	2-D13	2-D19	2-D19		
	斜筋	2-D13	2-D13	2-D19	2-D19		
巾止筋		D10 @1000	D10 @1000	D10 @1000	D10 @1000		



開口補強筋要領

ユニット棟壁コーナー補強筋リスト(W18) 1/30

形状				
1階	2-D13	4-D13	4-D13	4-D13

梁スリーブリスト (管理棟)

	記号	梁貫通孔径	鉄筋コンクリート Z1階	鉄筋コンクリート Z2階	鉄筋コンクリート 合計	鉄骨 Z2階	鉄骨 合計	備考
大梁	A	100φ	10	10	20	0	0	
	B	125φ	10	15	25	0	0	
	C	150φ	15	10	15	10	10	
	D	175φ	0	0	0	0	0	
	E	200φ	10	0	10	0	0	
小梁	A	100φ	5	5	10	5	5	
	B	125φ	10	10	20	0	0	
	C	150φ	0	0	0	0	0	
	D	175φ	0	0	0	0	0	
	E	200φ	0	0	0	0	0	

梁スリーブリスト (ユニット棟)

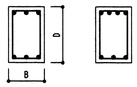
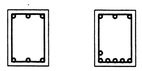
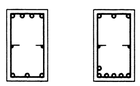
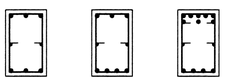
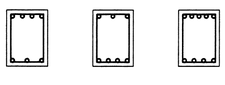
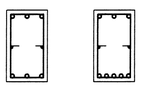
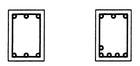
	記号	梁貫通孔径	鉄筋コンクリート Z1階	鉄筋コンクリート Z2階	鉄筋コンクリート 合計	鉄骨 Z2階	鉄骨 合計	備考
大梁	A	100φ	20	20	40	0	0	
	B	125φ	10	0	10	0	0	
	C	150φ	20	20	40	0	0	
	D	175φ	0	0	0	0	0	
	E	200φ	0	0	0	0	0	
小梁	A	100φ	0	0	0	0	0	
	B	125φ	20	20	40	20	20	
	C	150φ	0	0	0	20	20	
	D	175φ	0	0	0	0	0	
	E	200φ	0	0	0	0	0	

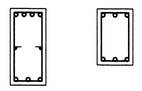
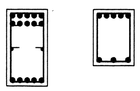
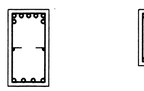
注 (1) 補強要領は下記による。
鉄筋コンクリート部分 <S-4>
鉄骨部分 <S-6>

(2) 梁貫通補強に既製品を使用する場合は 「建築技術評価規定品」とし
適用範囲及び施工上の留意事項の確認を行うこと。

小梁リスト 1/30

巾止筋　D10 @1000

符号	B1		B2		B3			B4		B5		B6			B7			B8		B9		B10・CB2	B11
位置	外端・中央	内端	両端	中央	X2・X8・X10端	中央	他端	両端	中央	両端	中央	X9端	中央	X10端	X3・X11端	中央	他端	両端	中央	両端	中央	全断面	全断面
断面																							
B x D	350x550		350x550		400x550			400x550		400x700		400x650			400x550			400x700		350x500		350x550	400x550
上端筋	3-D19	4-D19	4-D19	3-D19	8-D19	4-D19	4-D19	3-D22	3-D22	4-D22	3-D22	3-D19	3-D19	8-D19	4-D22	3-D22	5-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D19	5-D22
下端筋	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19	4-D19	4-D19	3-D19	3-D22	6-D22	3-D22	6-D22	3-D19	4-D19	4-D19	3-D22	4-D22	4-D22	3-D22	5-D22	3-D22	5-D22	3-D19	3-D22
STP	□-D10 @200		□-D10 @200		□-D10 @150			□-D10 @150		□-D10 @150		□-D10 @150			□-D10 @150			□-D10 @150		□-D10 @200		□-D10 @200	□-D10 @150
腹筋	———		———		———			———		2-D10		2-D10			———			2-D10		———		———	———

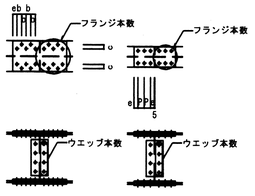
符号	B12	B13		B14	CG1・CB1		CG2		CG3		CG4				
位置	全断面	両端	中央	全断面	基端	先端	基端	先端	両端	中央	全断面				
断面															
B x D	250x1,400	350x550		180x600	350x750	350x550	400x750	400x550	400x750	400x550	180x600				
上端筋	2-D19	3-D19	3-D19	2-D16	4-D22	3-D22	10-D25	5-D25	7-D22	4-D22	4-D16				
下端筋	2-D19	3-D19	5-D19	2-D16	3-D22	3-D22	5-D25	3-D25	3-D22	3-D22	2-D16				
STP	□-D10 @200	□-D10 @200		□-D10 @200	□-D10 @200		□-D10 @150		□-D10 @150		□-D10 @200				
腹筋	6-D10	———		4-D10	2-D10		2-D10	———	2-D10	———	4-D10				

鉄骨大梁リスト

符号		部材	HTB	フランジ nf	フランジ SPL	ウェブ nw	ウェブ SPL	備考
SG1		H - 700 x 300 x 13 x 24	M22	10	SPL - 19 x 295 x 525 2SPL - 19 x 105 x 525	6	2SPL - 9 x 165 x 530	（千鳥）
SG2		H - 400 x 200 x 8 x 13	M20	6	SPL - 9 x 195 x 405 2SPL - 12 x 70 x 405	4	2SPL - 9 x 165 x 260	（洗濯干し場屋根）

鉄骨柱 リスト

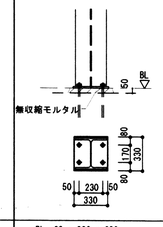
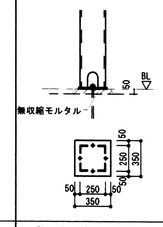
符号	部材	備考
C7, C7A	H - 300 x 300 x 10 x 15	
SC1	□ - 250 x 250 x 9	（洗濯干し場屋根）



ボルトピッチ

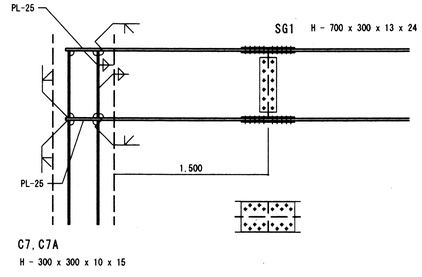
径	e	P	b	c
M16	40	60	45	40
M20	40	60	45	40
M22	40	60	45	40

鉄骨柱脚リスト 1/30

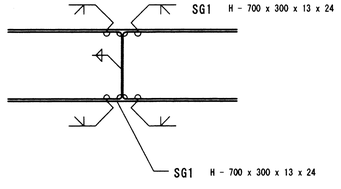
符号	C7, C7A	SC1	
母材	H - 300 x 300 x 10 x 15	□-250 x 250 x 9	
断面			
ベースプレート	PL- 22 x 330 x 330	PL- 16 x 350 x 350	
アンカーボルト	4 - M20 L=500	4 - M16 L=400	
スタッドボルト	———	———	
リブプレート	———	———	
備考	フック付ダブルナット締め	フック付ダブルナット締め	

鉄骨小梁 ・ 雑リスト

符号	部材	HTB	ウェブ nw	ウェブ GPL	備考
SB1	H - 300 x 150 x 6 x 9	M20	3	G.PL - 6	
SB2	H - 450 x 200 x 9 x 14	M20	5	G.PL - 9	
SB3	H - 400 x 200 x 8 x 13	M20	4	G.PL - 9	
SB4	H - 350 x 175 x 7 x 11	M20	3	G.PL - 9	
SB5	H - 244 x 175 x 7 x 11	M20	2	G.PL - 9	
SB6	H - 450 x 200 x 9 x 14				A.BOLT 2-M16 @1,000以下 ﾌｯｸ付ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締め L=400 ｺﾝｸﾘｰﾄ取り合い部 ﾌﾗﾝｼﾞｶｯﾄ
SB7	H - 200 x 100 x 5.5 x 8	M20	2	G.PL - 6	
型枠ﾃﾞｯｷ	ﾊｲﾃﾞｯｷ・75 t=1.0 （同等品）				（DS1型枠デッキ） （梁天スタッド打ち）

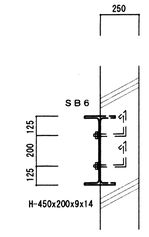


SG1・C7取り合い図 1/30

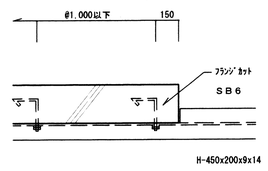


SG1剛接合取り合い図 1/30

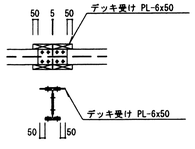
SB6取り合い図 断面図 1/20



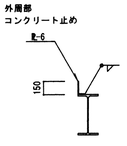
SB6取り合い図 伏図 1/20



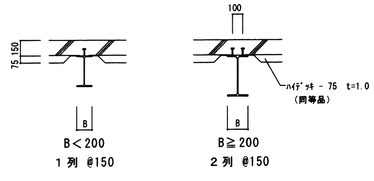
デッキ受け図 1/30



コンクリート止め図 1/30



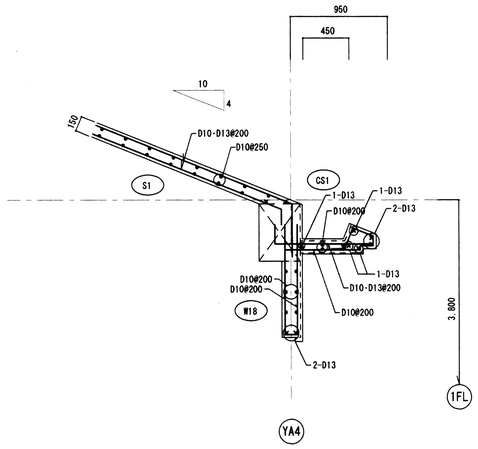
DS1 梁上スタッド要領 （ 16φ h=100 ）



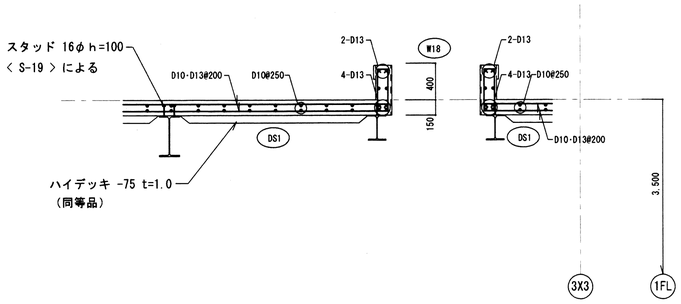
NISSOKEN ARCHITECTS / ENGINEERS

株式会社 日総建 一級建築士登録 第109497号 北川 昭夫	計画名 養護老人ホーム静香園新築工事	棟名 管理棟・ユニット棟	製作年月	図面番号 S-19
	図面名 RC小梁リスト・鉄骨リスト	工事区分 建築	縮尺 1/30	ファイル名 -

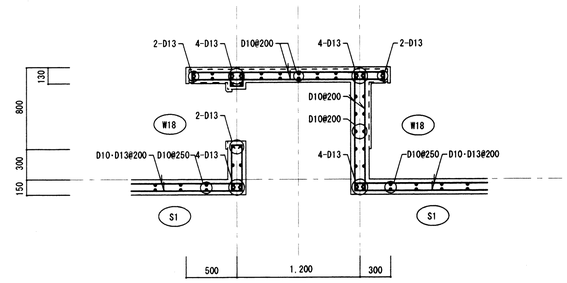
庇・屋根 配筋図 1/30



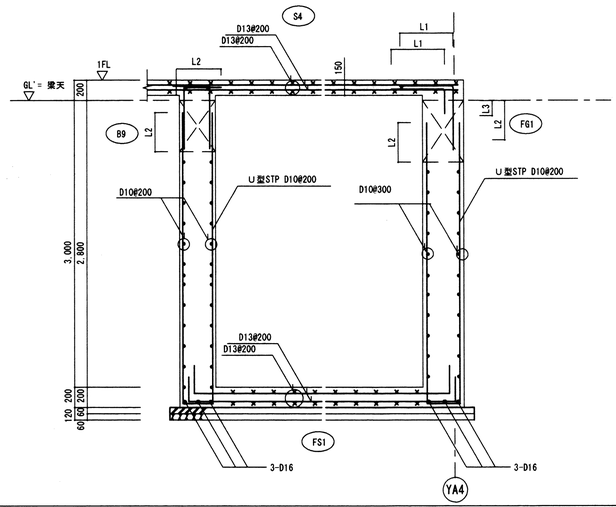
トップライト （ DS1 ）配筋図 1/30



ハト小屋配筋図 1/30



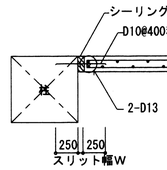
消火水槽ピット配筋図 1/30



壁構造スリット要領図

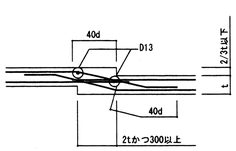
（１）完全スリット型

鉛直方向のスリットの幅Wは 25 かつ 腰壁・そで壁等の高さ
（水平方向のスリットの幅Wは腰壁・そで壁等の長さ）の1/100以上とする。

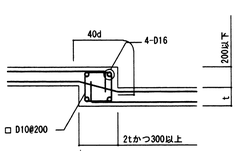


段違いスラブ配筋図 1/30

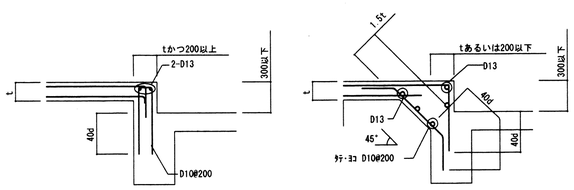
段差が２／３ｔ以下の場合



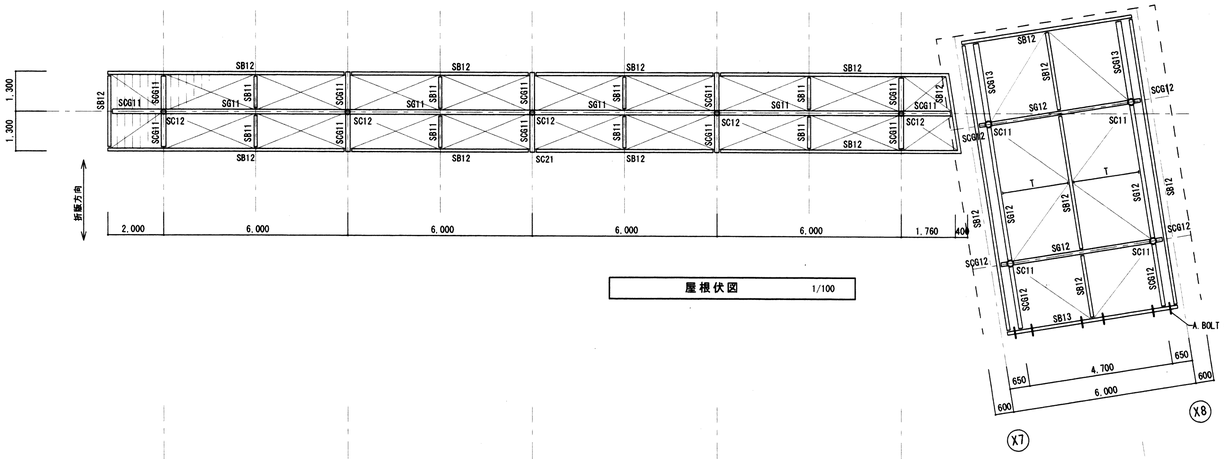
段差が２／３ｔを超え ２００以下の場合



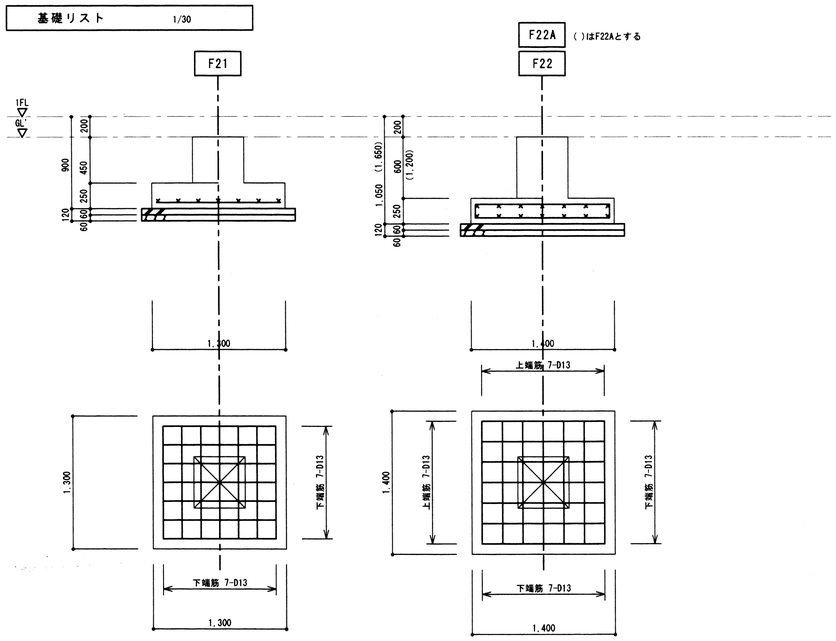
梁と床スラブに段差がある場合



NISSOKEN ARCHITECTS / ENGINEERS	株式会社 日総建 一級建築士登録 第109497号 北川 昭夫	計画名 養護老人ホーム静香園新築工事	棟名 管理棟・ユニット棟	製作年月	図面番号 S-20
		図面名 雑 配 筋 図	工事区分 建築	縮 R 1／30	ファイル名 －

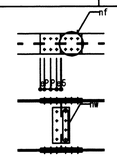

SB12
SG11
SC12
SC21
SB11
SB12
1,300
1,300
折板方向
2,000
6,000
6,000
6,000
6,000
1,760
400
SG12
SG13
SC11
SB13
SG12
SC11
SG12
SC11
SG12
SC11

基礎リスト 1/30



大梁リスト

符号		部材	HTB	フランジ		ウェブ		備考
				nf	SPL	nw	SPL	
SG11	SCG11	H - 200 x 100 x 5.5 x 8	M16	4	SPL - 12 x 100 x 290	2	2SPL - 6 x 170 x 140	
SG12	SCG12	H - 250 x 125 x 6 x 9	M16	4	SPL - 9 x 120 x 285 2SPL - 9 x 45 x 285	2	2SPL - 6 x 165 x 170	
SCG13		H - 244 x 175 x 7 x 11	M20	4	SPL - 9 x 170 x 285 2SPL - 9 x 65 x 285	2	2SPL - 9 x 165 x 140	



ボルトピッチ

径	e	P
M16	40	60
M20	40	60
M22	40	60

小梁・雑リスト

符号	部材	HTB	ウェブ		備考
			nw	GPL	
SB11	H - 150 x 75 x 5 x 7	M16	2	G.PL - 6	
SB12	H - 200 x 100 x 5.5 x 8	M20	2	G.PL - 6	
SB13	[- 200 x 80 x 7.5 x 11				
T	2C - 100 x 50 x 20 x 2.3	M16	2	G.PL - 6	
水平ブレース	1-M12	M16	1	G.PL - 6	ターンバックル付き

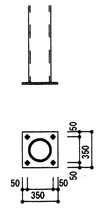
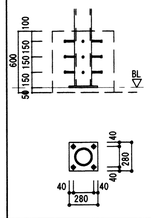
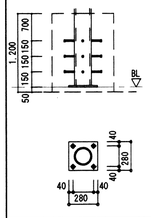
柱 リスト

符号	部材	備考
SC11	○ - 216.3 x 8	
SC12	○ - 165.2 x 6	
SC13	○ - 165.2 x 6	

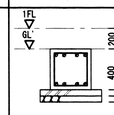
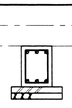
RC柱脚リスト 1/30

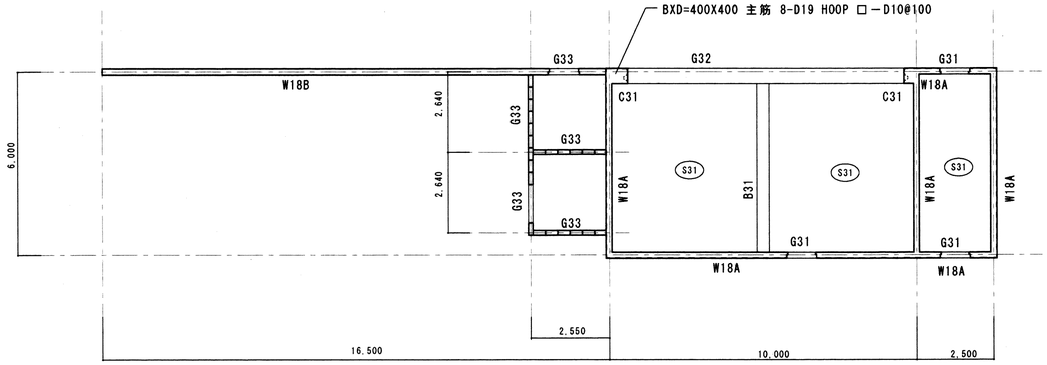
符号	SC11	SC12・SC13	
断面			
B x D	550x550	600x600	
主筋	8-D22	8-D22	
HOOP	□-D10 @100	□-D10 @100	
TOPHOOP	2-D13	2-D13	

柱脚リスト 1/30

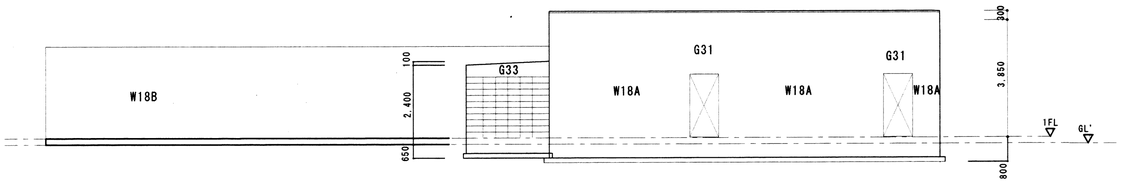
符号	SC11	SC12	SC13
母材	○- 216.3 x 8	○ - 165.2 x 6	○ - 165.2 x 6
断面			
ベースプレート	PL- 19 x 350 x 350	PL- 16 x 280 x 280	PL- 16 x 280 x 280
アンカーボルト	4 - M20 L=500	4 - M16 L=400	4 - M16 L=400
スタッドボルト	――	12 - 16φ h=100	12 - 16φ h=100
リブプレート	――	――	――
備考	ﾌｯｸ付ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ締ﾒ	ﾌｯｸ付ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ締ﾒ	ﾌｯｸ付ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ締ﾒ

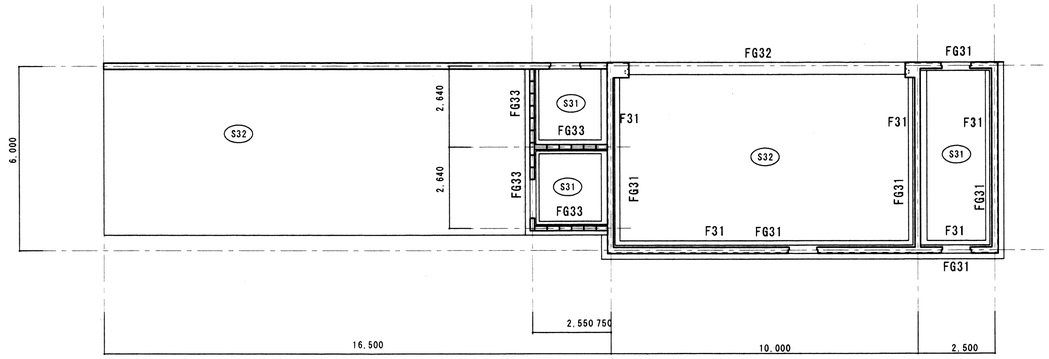
基礎梁リスト 1/30

符号	FG21	FG22	
断面			
B x D	400x400	300x400	
上端筋	4-D16	3-D16	
上端筋	4-D16	3-D16	
STP	□-D10 @150	□-D10 @200	
腹筋	——	——	



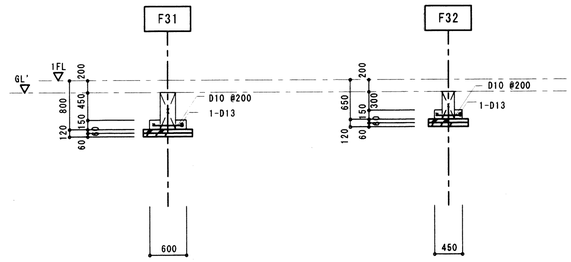
1階柱　2階床梁伏図　1/100





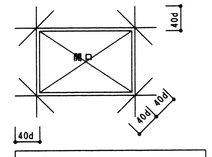
基礎伏図　1/100

基礎リスト　1/50



スラブリスト

符号	スラブ厚	位置	短辺方向	長辺方向	備考
S31	150	上	D10-D13 @200	D10-D13 @200	
		下	D10-D13 @200	D10-D13 @200	
S32	180	上	D10-D13 @200	D10-D13 @200	
		下	D10-D13 @200	D10-D13 @200	
		上			
		下			
		上			
		下			



開口補強筋要領

壁リスト　1/50

符号		W18A	W18B	CB15	
厚さ		180	180	150	
断面					
縦筋		D10 @200 (ダブル)：内側	D10 @200 (ダブル)：外側	D10 @400 (シングル)	
横筋		D10 @200 (ダブル)：外側	D10 @200 (ダブル)：内側	D10 @600 (シングル)	
開口補強筋	縦筋	2-D13	2-D13	1-D13	
	横筋	2-D13	2-D13	1-D13	
	斜筋	2-D13	2-D13	———	
巾止筋		D10 @1000	D10 @1000	———	

基礎梁リスト　1/50

巾止筋　D10 @1000

符号	FG31	FG32		FG33		G31	G32		G33		B31	
位置	全断面	両端	中央	全断面		全断面	両端	中央	全断面		両端	中央
断面												
B x D	250x600	400x600		250x450		180x1700	300x900		200x300～400		400x450	
上端筋	2-D19	3-D19	5-D19	2-D16		2-D16	3-D25	3-D25	2-D16		3-D19	3-D19
下端筋	2-D19	4-D19	4-D19	2-D16		2-D16	3-D25	5-D25	2-D16		3-D19	5-D19
STP	□-D10 @200	□-D10 @150		□-D10 @200		□-D10 @200	□-D10 @200		□-D10 @200		□-D10 @150	
腹筋	2-D10	2-D10		———		14-D10	4-D10		2-D10		———	

NISSOKEN
ARCHITECTS / ENGINEERS

株式会社 日総建
一級建築士登録 第109497号
北川 昭夫

計画名　養護老人ホーム静香園新築工事
図面名　車庫棟
題名　車庫棟
工事区分　建築
製作年月
縮尺　1／100・1／50
図面番号　S-23
ファイル名　-